

「防災教育」 学校・地域連携事業 実施事例集



令和元年度指定校

令和2年2月 新潟市教育委員会

「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(令和元年度指定校)

令和2年2月

新潟市教育委員会

目次

1. 本事業の概要	1
2. 令和元年度指定校における防災教育	
1) 新潟市立葛塚中学校区（北区） 葛塚中学校，葛塚東小学校	4
2) 新潟市立石山中学校区（東区） 石山中学校，中野山小学校，江南小学校	14
3) 新潟市立藤見中学校区（東区） 藤見中学校，東山の下小学校	28
4) 新潟市立寄居中学校区（中央区） 寄居中学校，新潟小学校	38
5) 新潟市立新潟柳都中学校区（中央区） 新潟柳都中学校，日和山小学校	48
6) 新潟市立山潟中学校区（中央区） 山潟中学校，山潟小学校，桜が丘小学校	58
7) 新潟市立亀田西中学校区（江南区） 亀田西中学校，早通小学校，亀田西小学校	72
8) 新潟市立新津第五中学校区（秋葉区） 新津第五中学校，新津第二小学校，阿賀小学校，新関小学校	86
9) 新潟市立月潟中学校区（南区） 月潟中学校，月潟小学校	104
10) 新潟市立中野小屋中学校区（西区） 中野小屋中学校，小瀬小学校，笠木小学校	114
11) 新潟市立潟東中学校区（西蒲区） 潟東中学校，潟東小学校	128
12) 新潟市立巻西中学校区（西蒲区） 巻西中学校，越前小学校，松野尾小学校，巻北小学校	138

1. 本事業の概要

(1) 本事業の目的と実施方針

本事業の目的は、新潟市教育ビジョンで新潟市が目指す子どもの姿・市民の姿の実現に向け、市内各校が行う防災教育の内容が、家庭や地域と連携した実践的な取組となり、学校に定着し継続したものとなるよう支援することです。

新潟市教育委員会が新潟県「ふるさと新潟防災教育推進事業（学校実践）」に申請し、その補助金を活用して事業を進めていきます。平成27年度から令和元年度の5年間で、市内全小・中・中等教育・特別支援学校を支援し、各校の新潟県「防災教育プログラム」必須項目を含む各学校の地域の特色に応じた防災教育の自校化にむけた、防災教育実践の専門的な支援、コミュニティ協議会等との地域連携のサポートを行います。

(2) 令和元年度の取組の概要

① 「防災教育」学校・地域連携事業説明会・防災教育プログラム研修会

期 日 令和元年5月9日（木）

時 間 14:00～16:30

会 場 新潟市役所本館庁舎6階 講堂

参加者 令和元年度指定校担当者

内 容 事業概要の説明，平成30年度先行実践校の実践概要紹介，中学校区ごとのグループワーク（地域と連携した防災教育を推進する上での課題等）

② 各中学校区での防災教育支援ミーティング

期 日 令和元年6月～令和2年1月 約3回程度

時 間 15:00～16:30頃

会 場 各中学校区小・中学校

参加者 各中学校区担当，中学校区支援担当者（コンソーシアム）

内 容 地域連携の意義とその方法についての検討，学校ごとの取組についての情報共有
自校化プラン，年間指導計画，実践事例作成サポート

③ 「防災教育」学校・地域連携事業指定校報告会兼研修会

期 日 令和2年2月20日(木)

時 間 14:00～16:30

会 場 新潟市役所分館庁舎1階 106会議室

参加者 令和元年度指定校担当者

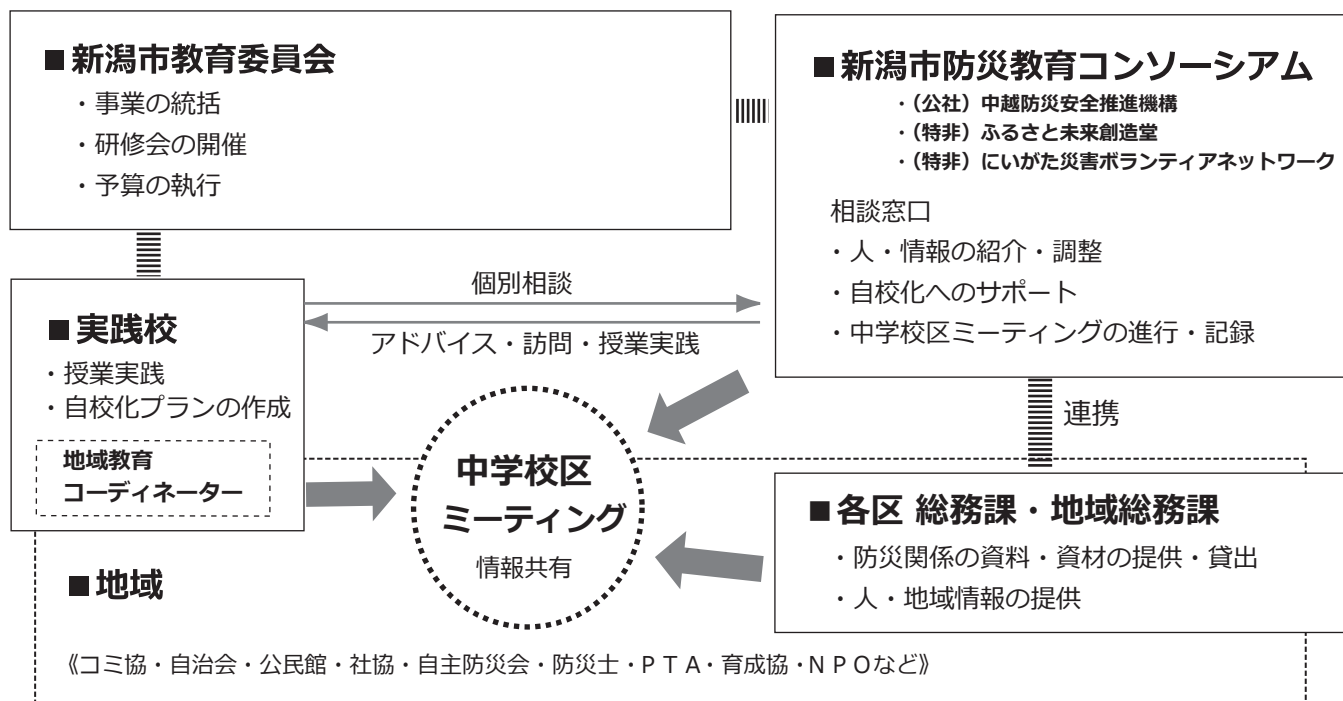
内 容 グループワーク(地域と連携した防災教育の意義とその課題等)

(3) 令和元年度防災教育学校・地域連携事業指定校

区	学校名	区	学校名	区	学校名
北区	葛塚東小学校	江南区	早通小学校	西区	小瀬小学校
	葛塚中学校		亀田西小学校		笠木小学校
東区	中野山小学校		亀田西中学校		西蒲区
	東山の下小学校	新津第二小学校	潟東小学校		
	江南小学校	阿賀小学校	越前小学校		
	石山中学校	新関小学校	松野尾小学校		
	藤見中学校	新津第五中学校	巻北小学校		
中央区	新潟小学校	南区	月潟小学校	潟東中学校	
	日和山小学校		月潟中学校	巻西中学校	
	山潟小学校				
	桜が丘小学校				
	寄居中学校				
	新潟柳都中学校				
	山潟中学校				

(4) 本事業全体イメージと新潟市防災教育コンソーシアムの役割

本事業では、市内各校で行われる防災教育の内容が実践的な取組となるように、様々な団体・組織が支援をしています。



この事業を進めるにあたって、学校や地域の特性、実態に合わせた防災教育が実施されるように、公益社団法人中越防災安全推進機構・特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂・特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワークの3者で「新潟市防災教育コンソーシアム(連合体)」を組織し、事業全体のサポートを担っています。

新潟市防災教育コンソーシアムの主なサポート内容は以下の通りです。

- ・年3回の中学校区ミーティング日程の調整，案内，当日の進行，記録
- ・自校化プランの企画立案のサポート
- ・講師としての授業実践または個別相談（※各校1回程度）
- ・講師（専門家・語り部等）の紹介・コーディネート
- ・地域や外部団体との連携サポート
- ・教材資料の貸出・提供
- ・事業説明会および報告会の研修内容の企画・立案・当日運営（年2回）等

各種サポートを通じて、学校と家庭・地域との連携を深め、各学校での防災教育の取組が継続したものとなるよう、支援を行います。

2. 令和元年度指定校における防災教育

1) 葛塚中学校区（北区）

対象校：葛塚中学校・葛塚東小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年5月28日 16:00～16:45 会場：葛塚東小学校	1. 5/9（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 4. 区地域総務課及び防災士のできることに（情報提供）
第2回	令和元年8月23日 15:00～16:00 会場：葛塚中学校	1. 各校での防災教育の進捗及び今後の予定について (情報共有・意見交換)
第3回	令和元年11月22日 16:00～16:45 会場：葛塚東小学校	1. 各校における取組紹介及び予算活用状況（情報共有） 2. 次年度以降継続していくための課題抽出と意見交換

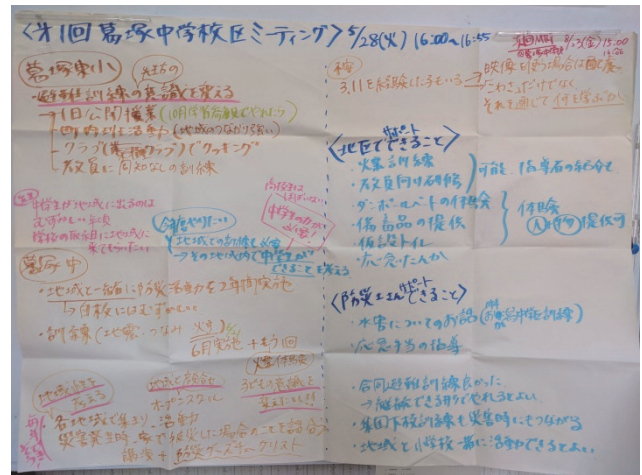
② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
葛塚中学校 葛塚東小学校	令和元年 5月28日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
葛塚中学校 葛塚東小学校	令和元年 9月24日	資料提供	他校で実践した「家庭の備えを考える」防災学習事例の計画資料等を提供した。
葛塚中学校	令和元年 11月8日	相談 資料提供	11/26（火）に実施する全校防災教室の内容について相談を受けた。毎年のように発生している洪水災害を題材に、身の守り方を考える活動を行いたい。コンソーシアムがサポートし、計画案及び配布資料を作成して送付した。
葛塚中学校	令和元年 11月25日	相談 コーディネート	11/26（火）に実施する全校防災教室に防災士を招きたいとの相談があり、防災士2名の予定を調整した。葛塚地域の災害リスクについて、紹介していただいた。
葛塚中学校	令和元年 11月26日	講座	全校防災教室にて、洪水災害からの身の守り方、自地域の洪水災害ハザードマップを活用した避難場所や避難経路の検討、避難生活の備えを考える学習等を実施した。

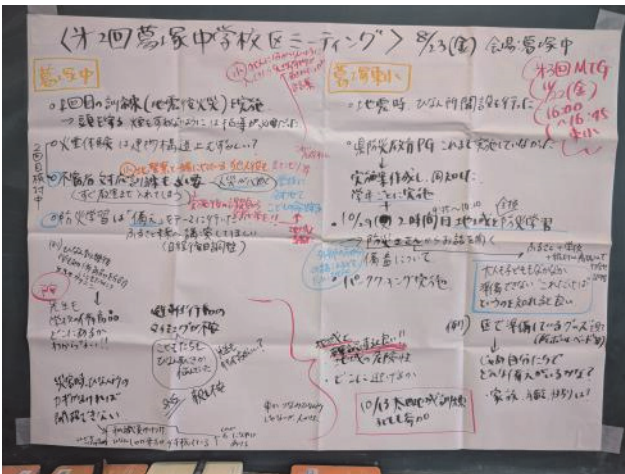
【5/28 葛塚中学校区ミーティングの様子】



【5/28 葛塚中学校区ミーティングの記録】



【8/23 葛塚中学校区ミーティングの記録】



【11/26 葛塚中学校 全校防災教室の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

葛塚中学校区では、今後の継続性を考慮し、小・中学校とも既存の活動を一工夫して、子どもがより自分事になれる体験活動や、家庭・地域と連携した防災教育に取り組んだ。

計3回の中学校区ミーティングに、地域の災害リスクや避難行動に詳しい区地域総務課の他、北区防災士の会にも参加していただいた。学校と地域が共に自地域の災害への備えについて話し合い、これからの地域と連携した防災教育の進め方等についてアイデアを出し合った。また、それらの過程を通じて、地域が学校の抱えている不安や悩み、願い等を知る機会にもなり、地域側から「今後も地域一体で学校防災教育を支えていかなければならないと感じた」という声も挙げられた。

<葛塚中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一小一中なので，小学校との連携がしやすい。 ・地域生徒会という地域貢献活動などに参加する活動が，学校教育の中に盛り込まれている。 ・水害に弱い地域であるため，実際に被災した際の避難場所の確認をしていかなければならない。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒，地域，保護者がそれぞれ防災について意識を高めていく必要があるため，地域の人も参加できる防災学習を行いたい。
<p>防災教育において，目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守るために，的確な判断のもと，避難をしていく力の育成 ・被災してしまったとき，「自分にできること」を自ら考え行動する力の育成と，そのための知識の獲得
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（地震→火災） ・避難訓練（不審者対応） ・防災学習（葛塚地域の水害について）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練：水害，地震，火災，不審者対応について3年間サイクルで回す。 ・防災学習：地域の防災士の方などをお招きして講演会を行う。 ・防災の日：防災に関する道具の使用を実際に体験できるような日を設定する。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や，道具が必要なものについては，学校だけでは対応することができない。また，時間の確保の難しさが課題になる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 専門機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・防災士やふるさと未来創造堂，区地域総務課などとの定期的な連携 ② 時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・休日などを使った学校行事としてやるのではなく，授業日をオープンスクール形式にするなどの工夫

2. 葛塚中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

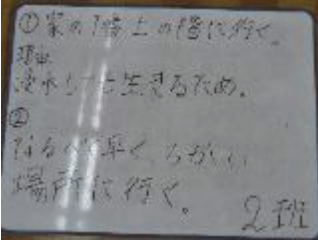
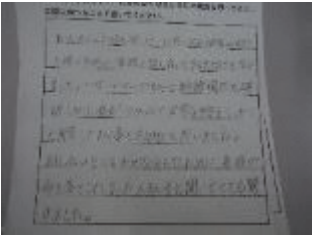
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

地震・津波・洪水を想定した避難訓練
及び防災学習

雪災害・津波・土砂災害を想定した防災学習

中学校全学年

(学習のねらい) 災害から自分と家族の命を守る。災害時の避難行動を考える
～自分たちの地域の水害への備え～

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 洪水に関する講話を聞き、自分の住んでいる場所が水害時にどうなるかを確認する</p> <p>① 洪水ハザードマップを確認し、自分の住んでいる地域の浸水想定を確認する。</p> <p>② グループで学区の洪水ハザードマップから、どのようなことが読み取れるかを話し合わせる。</p>	<p>【資料】 洪水ハザードマップ</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水発生時、自宅付近がどのくらい浸水する場所なのかをハザードマップを見て確認しましょう。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3m, 5m <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の地域で浸水被害が比較的少ない場所、多い場所についてハザードマップを見ながら確認する。
【展開】	<p>2. 条件を設定した上で、避難行動を考える</p> <p>① 避難行動は、住んでいる場所、そのときいる場所などによって異なることをおさえる。具体的な条件下での避難行動を考えさせる。</p> <p>【条件例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝から大雨が降り続き、夕方 17 時頃、河川氾濫の可能性により避難レベル4が発令された。 家の前の道路はまだ浸水していない。 日は落ちて暗いが、停電はしていない。電話はつながらない。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3. 避難生活への備えについて考える</p> <p>① 水害が発生した場合、雨が止んだ後も水が引かず、自宅での生活が困難であることを伝える。</p> <p>② 避難場所で3日間生活をしなければならないとき、何が必要か考えさせる。</p>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> あなたは、①どのように行動しますか？（自宅に滞在・避難所に避難する）、②避難所に避難する場合はどのルートを通して行動しますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家が浸水5mの地点にあるから、すぐに避難所に逃げる。逃げる際は比較的浸水しづらい場所を通る。 自分の家は浸水被害に強い場所にあるので、焦らず2階に逃げる。 避難場所は公園だと勝手に思っていたけど、屋外に避難しても意味がないので、どこに避難すればよいかわからない。 <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災してしまった場合、自宅での生活が困難になる状況が生まれます。避難場所で3日間生活しなければならないとき、何を備えとして準備しておきますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食料、水、毛布、懐中電灯、ラジオ、携帯トイレ、タオル、衛生用品、薬、水のいないシャンプー など

【まとめ】	<p>4. まとめ 自分と家族の命を守るために</p> <p>① 災害発生時のある程度の避難行動を家族で話しておく必要性を伝える。</p> <p>② 避難所生活は思っている以上に不便で、不満が溜まりやすいことなど、事例を交えておさえる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と家族の命を守るために、災害発生時の行動を確認しておく。 ・被災時に何を持って行くかをよく確認しておく。 ・避難生活で命を守るために、少しでも快適に過ごす準備をしておく。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水ハザードマップから自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・非常用持ち出し品、避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。 ・家族と防災について話し合う必要性を理解することができたか。 	

【授業実践の様子】



【グループ活動】

朝から大雨が続いている。11/26の17時半。自宅で一人。テレビをつけたら、阿賀野川と加治川があふれそうなたため、避難レベル4（避難勧告）が葛塚地域に発令されていた。

近所の大人からは「避難所に逃げろ」と言われた。家の前の道路はまだ水に浸かっている。外は大雨。すでに暗い。電話はつながらない。

(1) あなたはどのように避難しますか？その理由は？

(2) 避難所に逃げるとしたら、どこの避難所に逃げますか？また、どこをかって逃げますか？

<葛塚東小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福島潟が地域の生活に根付いていて、水害と戦ってきた歴史をもっている。 ・縦割り班や町内班などの異学年集団の活動が多く、活発である。 ・葛塚祭りなどの地域の行事を多く有しており、地域との連携が強い。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を生かして、災害時に地域と学校と保護者が連携して災害に取り組む学校をつくりたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自助」の精神をもち、災害時に自分で考えて行動できる子ども ・災害時に、地域の力となり、地域と共に行動できる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災集会の実施（地域の防災士を講師に招き、指導していただく。） ・新潟県防災教育プログラムの実施日を、参観日などの保護者が参観する日に変更し、地域への周知 ・避難訓練振り返りカードのマークシート化 ・料理クラブでの災害時パッキングの実践 ・防災担当教員の防災士資格取得
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災集会、新潟県防災教育プログラム授業、避難訓練を中核とした防災教育の見直し。 ・地域の人材(防災士)を生かし、連携を図る。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災集会、新潟県防災教育プログラム授業、避難訓練を中核とした年間指導計画の実施 ・異学年集団の活動の継続

2. 葛塚東小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	新潟県教育防災プログラム 地震からの身の守り方 (学校内)		第二回避難訓練 (地震想定)			新潟県教育防災プログラム 洪水とは何か	第三回避難訓練 (不審者対応)			新潟県教育防災プログラム 冬の学校に潜む危険を知る	第二回集団下校訓練	
第2学年	新潟県教育防災プログラム 地震からの身の守り方 (学校外)		新潟県教育防災プログラム 大雨が降ったときの行動			新潟県教育防災プログラム 津波からの逃げ方	第四回避難訓練 (休憩時間)			新潟県教育防災プログラム 冬の通学路に潜む危険を知る		
第3学年	新潟県教育防災プログラム 地震からの身の守り方 (学校外)		新潟県教育防災プログラム 雨の降り方や洪水について知る			新潟県教育防災プログラム 津波からの逃げ方	防災集会			新潟県教育防災プログラム 冬の学校に潜む危険を回避する		
第4学年	新潟県教育防災プログラム 揺れがおさまった後の身の守り方		新潟県教育防災プログラム 洪水から街を守る対策			新潟県教育防災プログラム 津波からの逃げ方の注意点				新潟県教育防災プログラム 冬の通学路に潜む危険を回避する		
第5学年	新潟県教育防災プログラム 揺れがおさまった後の身の守り方		新潟県教育防災プログラム 洪水に対する日頃から備え			新潟県教育防災プログラム 津波の被害の特徴、逃げ方				新潟県教育防災プログラム 雪に対処する備えと対策		
第6学年	新潟県教育防災プログラム 川からの恵みと災害		新潟県教育防災プログラム 川からの恵みと災害			新潟県教育防災プログラム 県の津波災害の歴史				新潟県教育防災プログラム 様々な雪の災害		

土砂災害編・原子力災害編については、適宜指導する。

3. 葛塚東小学校 防災教育指導例

<p>小学校全学年</p>	<p>(学習のねらい) 防災について、非常持ち出し袋の意味や入れておくべき物について考えることを通して、防災についての意識を高めることができる</p>	
	<p>学習内容（展開例）</p>	<p>資料や学習のポイント等</p>
<p>【導入】</p> <p>1. 非常持ち出し袋について振り返る</p> <p>① 非常持ち出し袋を紹介し、自分の家に備えてあるかを振り返らせる。</p> <p>② 学習のねらい「<u>洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくべきことを知る</u>」をおさえる。</p>		<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> これは、「非常持ち出し袋」です。この袋には、どんな物が入っているのでしょうか。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の家には非常用持ち出し袋があるか、どのような物が入っているかなど、自分の生活に即して振り返らせる。
<p>【展開】</p> <p>2. 非常持ち出し袋クイズに取り組む</p> <p>① 持ち出し品暗記クイズシートを配付し、持ち出し袋の中に入れておくといよいもの 24 品目を暗記する。</p> <p>② 暗記した持ち出し品を思い出して、ワークシートを書く。</p> <p>3. 防災〇×クイズに取り組む</p> <p>① 災害時の服装について</p> <p>② 海で地震にあったときの対処の仕方</p> <p>③ 大人がいないときに災害が起こったら</p> <p>④ 非常品持ち出し袋の置き場所</p> <p>⑤ 台風がきたときの対処の仕方</p> <p>⑥ 避難勧告と避難指示（緊急）</p> <p>4. 防災士の方の話を聞く</p> <p>① 防災士の話から、以下の点について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> どうして避難訓練があるのか なぜ災害に備えておく必要があるのか <p>② 代表の児童に感想を発表させる。</p>		<p>【資料】持ち出し品暗記クイズシート</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年の児童には、低学年の児童のサポートをさせるようにする。 異学年で協力し合うよう促す。 <p>【資料】パワーポイント</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームをただ楽しむのではなく、自分の経験を振り返って考えさせる。 海にいたときに地震にあったらどうするか、留守番の間に災害が起こったらどうするか、など具体的な場面設定により子どものイメージを膨らませ、正しい知識・行動を身に付けさせる。 <p>【講話の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の意義 非常持ち出し袋に入れておくといよい物の例 <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> どうして学校で避難訓練をしなければいけないと思いますか。

【ポイント】	5. 学習の振り返りを行う ① ワークシートに振り返りを書かせ、教室や廊下などに掲示する。	【ポイント】 ・活動の内容や講師の方の話を踏まえて、災害に対して自分なりの備えについて考えている。
【評価】	・非常持ち出し袋について知り、意味を理解しているか。 ・防災について関心を持ち、自分の生活に生かそうとしているか。 ・活動の内容や講師の方の話を踏まえて、災害に対して自分に出来る備えについて考えているか。	

※学級指導で、適宜振り返りなどを書かせる。

※学校のHP、学校便りなどで学校の取組を紹介する。

【授業実践の様子】



※実際の取組では、地域との連携を踏まえ、新潟市北区防災士の会より防災士2名を講師として招いた。

【スライド資料等】

ハイパー持ち出し品 暗記クイズ イザ!という時に備える「非常持ち出し品」です。1分間でいくつ覚えられるかな?!



だい3もん

ひとり るすばんちゆう じしん
一人で留守中に、地震が
 お うち ひと
起きたら、お家の人が
 かえ ま
帰ってくるのを待つとよい。



だい4もん

ひじょうひん も だ ふくろ
非常品持ち出し袋は、
 だいどころ お
台所に置いておくとよい。



ぼうさい しゅうかい 防災集会

ぼうさいし
3.防災士
 かた はなし
の方のお話

2) 石山中学校区（東区）

対象校：石山中学校・中野山小学校・江南小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年5月27日 15:00～16:00 会場：中野山小学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	令和元年9月13日 15:30～22:30 会場：中野山小学校	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	令和2年1月24日 15:30～16:30 会場：中野山小学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.令和2年度以降の防災教育の取組にむけた課題の共有）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
石山中学校 中野山小学校 江南小学校	令和元年 5月27日	資料提供等	今後の継続性を踏まえた需用費の使い方やゲストティーチャーの例など資料を提示した。
中野山小学校	令和元年 6月5日	アドバイス	需用費使用の物品の確認、また手続きの流れなど確認を行った。
石山中学校	令和元年 7月2日	打合せ	各学年のプログラムについてアイデア出しを行いアウトプットの方法などアドバイスを行った。
石山中学校	令和元年 7月5日	打合せ	避難所について学びを深めるためゲストティーチャーの検討のため、候補をいくつか選定し提示した。
中野山小学校	令和元年 9月29日	参観	合同防災訓練 地域の防災訓練に小学生も参加。大人と一緒に段ボールベットの作成や、炊き出し訓練では、アルファ化米の配布のお手伝いを行っている様子を参観した。
石山中学校	令和元年 10月7日	参観	避難訓練の後、「中学生が避難所でできること」をテーマに東区安心安全係が行った出前講座を参観した。
石山中学校	令和2年 1月7日	打合せ	1年生対象にした防災身近なもので出来る防災グッズの講座について打合せを行った。
石山中学校	令和2年 1月27日	講座	災害時の工夫や、身近なもので出来る防災グッズ工作の講座を実施した。

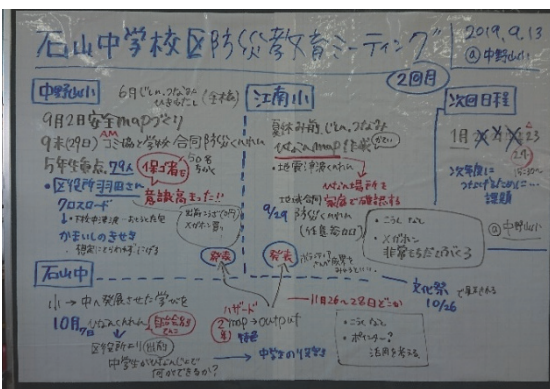
【5/27 中学校区ミーティングの様子】



【9/13 中学校区ミーティングの様子】



【9/13 中学校区ミーティングの記録】



【9/29】中野山小学校・地域防災訓練の様子】



【10/7 石山中学校 避難訓練の様子】



【10/7 石山中学校 防災講演会の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

石山中学校区では、区の出前講座を活用し持続可能な取組を行った学校、またオリジナルの避難マップを作成し家庭で避難所を確認するなど保護者とともに意識を高める活動などを行った学校もあった。小中の連携として中学生がハザードマップについて学び、校区の小学生に伝える機会を設け、アウトプットすることで学びを深める活動を行った。

中学校区ミーティングでは、各小学校での学びを中学校でどう発展させていくのか意見を出し合い、地域としてどのように防災教育を進めていくのか試行錯誤しながら取組を実施した一年であった。

<石山中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、部活動や生徒会活動、諸行事に積極的に取り組む姿勢が見られる。年2回行っている地域貢献活動では、自治会や小学校と連携した活動を行っている。 ・避難訓練に地域の防災士やコミュニティ協議会の方を招いて、合同訓練を行い講評もいただいている。また、地域の防災訓練などの行事に、中学生の参加が始まるなど、学校と地域との連携が積極的に行われ、防災に対する関心も高い地域である。 <p>※中学校は、災害時の被害が少ない地域と想定されているため、避難者受け入れ地域にあたり、災害時は、避難者を受け入れ、避難生活を支える等の支援が期待される地域になる。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関心を持ち、自ら生き抜くための知識や技術を高めてほしい。 ・地域の一員、中学生として何ができるか、何をすべきかを学び、地域の担い手として実践できる生徒を育成したい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>○災害から生き抜く力（自助・共助）を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年 自ら生き抜く力を身に付ける。（防災に関する技術を身に付ける） ・2年 地域の実態を知り、学びを発信・活用する力を身に付ける。 （地域の一員としてのかかわり方を学ぶ） ・3年 総合的な学び、実践力を身に付ける。 （中学生として何ができるかを学び、実践する）
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（地震・火災を想定、自治会ごとの集合訓練） ・全校防災学習（災害時における地域の特徴、中学生の役割） ・全校防災講演会（講師 東区総務課による出前授業） ・1年：防災学習 （消防署・消防団によるAED等の講習会、防災工作、地域の方を招いての発表） ・2年：防災学習（防災マップづくり、小学校での発表） ・3年：防災学習（避難所運営ゲーム（HUG）, 1年生に向けての発表）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会別懇談会の実施 ・自治会や小学校と連携した合同避難訓練の実施 ・総合的な学習の時間や各教科における計画的な防災学習の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を年間活動計画に位置付け、確実に実践できるようにする。 ・地域の消防団、防災士やコミュニティ協議会の方との連携を行い、防災学習や避難訓練への協力をお願いする。

2. 石山中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

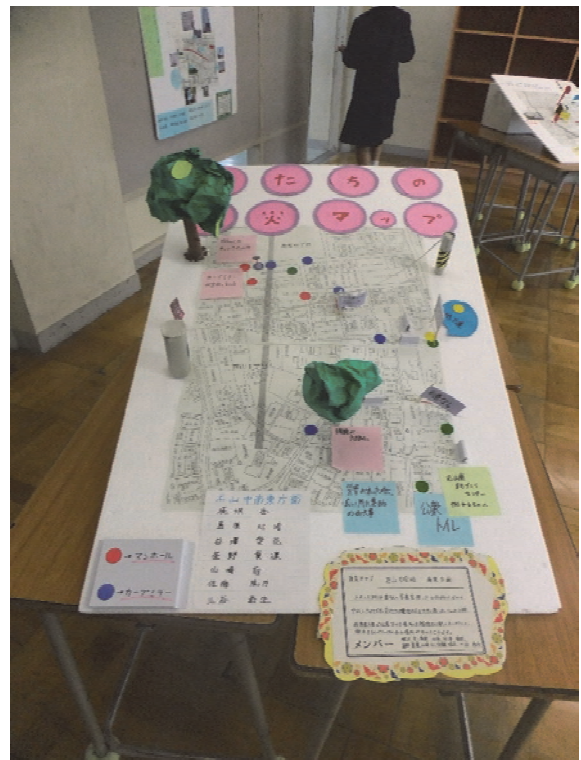
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		自治会別懇談会①	地域合同避難訓練①・全校防災学習①									
第2学年				防災学習（総合的な学習の時間） ○地域の一員としての関わりを学ぶ ① 防災マップ作り ② 小学校で発表								
第3学年						防災学習（総合的な学習の時間） ○中学生として何が出来るかを学び、実践する ① 避難所運営ゲーム（HUG） ② 1年生に向けて発表	地域合同避難訓練②・全校防災学習②	自治会別懇談会② 地域での中学生の役割	防災学習（総合的な学習の時間） ○防災に関する技術を身につける ① 消防署、消防団による講習会 ② 防災工作 ③ 地域の方を招いて発表			
												防災学習（各教科） 通年を通して、各教科の特色をいかしながら、防災を題材とした学習を取り入れて授業を行う。

3. 石山中学校 防災教育指導例

中学校2学年	(学習のねらい) 地域の実態を知る (地域の一員としてのかかわり方を学ぶ) 石山地域を知り、災害が起こったときに的確に判断し行動できる下地となる体験をする
--------	---

	学習内容 (展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 学習のねらいを知る ○防災について考える。 ① なぜ今、防災を学習するのか。 ② 中学生が必要とされるのは何か。なぜか。	【学習のポイント】 防災士の方を講師に迎え、自然災害時における行動のとり方や校外学習での着眼点について講義をいただく。
【展開】	2. 防災マップについて調べるための方法について知る ○フィールド・ワークのためのオリエンテーションを実施する。 ① 様々な災害についての共有 ② 地元での災害リスクの確認方法 ③ フィールド・ワークで見つけてほしいもの。 ④ 行動時の注意 3. 現地調査活動 ○グループごとに、地域の人と一緒に、担当した場所の調査を行う。 ① 現地調査活動のポイントまとめた資料を使い、分担しながら調査活動を行う。 ② 地域の方からアドバイスをもらいながら調査活動を行う。	【学習のポイント】 石山中学校区内の災害時避難所である石山中学校、中野山小学校、江南小学校の周辺を実際に歩いて回り、災害時に役立つものや施設・避難経路にある危険な所などを確認する。 【学習のポイント】 地域の方に付き添いボランティアとして参加いただき生徒の気付きにくいことについて助言をいただきながら調査活動を行う。 注目した所や危険な所の写真を撮る。
【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する ○アウトプットの活動 ① グループごとに学習したことを発表できるかたちにまとめる。 ② 文化祭で、お世話になった地域の方に見ていただく。 ③ 小学校を訪問し、学習したことを発表する。	【学習のポイント】 文化祭や小学校で発表することをふまえて、地図や写真を使い、立体的に見やすく、わかりやすくまとめる。 また、まとめたものを文化祭でお世話になった地域の方に見ていただき、小学校を訪問し、児童に発表をすることで、自らの学びを深めることができる。
【評価】	・講演会を通して、防災学習の必要性、中学生の役割について理解することができたか。 ・自分たちの住む地域の現地調査を通して、地域の防災の実態を理解することができたか。 ・学習したことを発表することで、防災の学習を深めることができ、次の防災の学習に意欲をもつことができたか。	

【授業実践の様子】



<中野山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区は、東区の南東側に位置し、平地で閑静な住宅地域として、落ち着いた雰囲気の中に包まれている。地域の方、保護者の方は、学校の教育活動に対して、大変、協力的である。 ・新潟地震後、市営住宅も含め住宅地として発展し、かつての田園風景の面影はなくなり、交通網の整備が進んだ。 ・阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水及び鳥屋野潟流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、阿賀野川、信濃川下流の洪水では、地区の大部分で浸水の可能性がある。 ・地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震のときには、強い揺れや液状化の可能性がある。津波による浸水は、標高の低い地域で想定されている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害や防災についての知識を備え、行動する力をもってほしい。 ・自ら考えて、身を守る行動がとれるようになってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、自ら安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童の育成。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練（4月） ・地震、津波、保護者引き渡し訓練（6月）【地域の方も参加】 ・不審者対応訓練（11月） ・年3回のベル訓練（4月、6月、11月） ・年間を通した「新潟県防災教育プログラム（津波・地震・洪水・土砂・雪・原子力）」の活用（学級活動）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練の実施 ・年間を通した「新潟県防災教育プログラム（津波・地震・洪水・土砂・雪・原子力）」の活用（学級活動） ・5学年における保護者参観での「防災について学ぶ授業」の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年、中学年、高学年の2年間のスパンで「新潟県防災教育プログラム」を学ぶ。 ・5学年の保護者参観で子どもだけでなく保護者の方にも防災について学んでもらう。東区役所総務課安心安全担当の方にお問い合わせすることで、継続可能である。

2. 中野山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

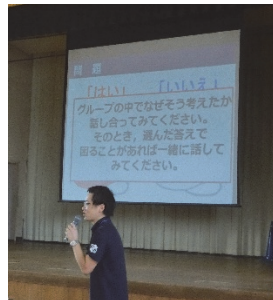
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
第1学年	<p>【全学年】年間を通した『新潟県防災教育プログラム（津波・地震・洪水・土砂・雪・原子力）』の活用</p>												
第2学年													【学級活動】・災害時の正しい行動の仕方 ・安全な集団行動
第3学年													火災避難訓練（べル訓練）
第4学年													地震・津波・保護者引き渡し訓練（べル訓練）
第5学年													【学級活動】・津波とは何か ・津波からの逃げ方
第6学年													地域合同防災訓練※児童は自主参加
						「防災について 学ぶ授業」 (外部講師)							
							【学級活動】・大雨の危険性 ・大雨から身を守る						
							不審者対応避難訓練（べル訓練）						
										【学級活動】・冬（雪）の通学路に潜む危険の回避			
											【学級活動】・原子力災害時の身の守り方		

3. 中野山小学校 防災教育指導例

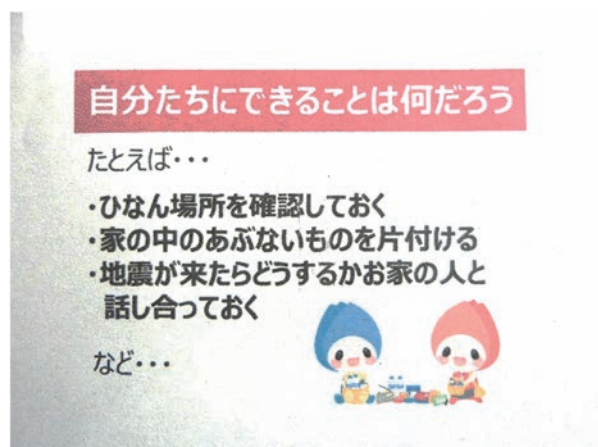
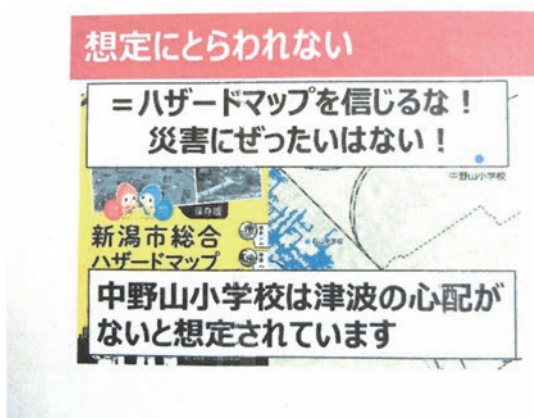
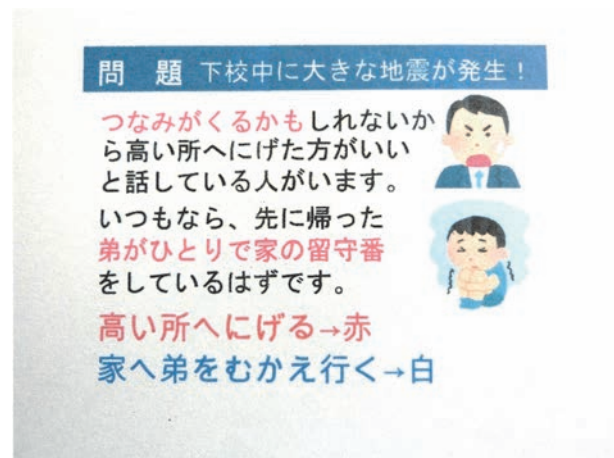
(学習のねらい)	
小学校5学年	<p>・子どもたちの多くが他人事としてとらえている「防災」について、少しでも自分事としてとらえることができるようにする。</p>
学習内容（展開例）	
資料や学習のポイント等	
【導入】	<p>1. 学習内容について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市でも津波警報が出たことを知る。 ・「災害が起こったときのことを考える」「釜石の奇跡から学ぶ」という、本時の学習内容を知る。 ・地震・津波に関する防災学習の話をしてくださる講師のことを知る。
【展開】	<p>2. 地震や津波などの災害が他人事ではないことに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「津波がくるかもしれないから、高い所へ逃げた方がいいと話している人がいます。いつもなら、先に帰った弟が一人で家の留守番をしているはずです。」という問題を提示し、「高い所へ逃げる」か「家へ弟をむかえに行く」かの2つから自分の考えを決めさせる。 <p>3. 釜石市の奇跡について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを見て、東日本大震災の際、釜石市の小中学生の全員が助かったことを知る。 ・「釜石市の奇跡」という言葉を知り、具体的に釜石市の小学生がどのような行動をしたかを知る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年6月18日、山形県沖で起きたM6.8の地震で、新潟県の村上市で震度6強の揺れが起き、新潟市でも津波警報が出て、避難した人がいることを、新聞記事をもとに、気付かせるようにする。 ・防災担当の紹介が、専門の外部講師を紹介する。（新潟市東区総務課安全安心担当 羽田様，小林様） ・赤白帽子を用意させ、意思表示させる。 ・個人で選択させた後、グループでその理由を考えさせ、発表できるグループに発表させる。 ・正解はないことを伝えるが、「津波から命を守るために大切なことは、すぐに高い所へ逃げる。」ということをおさえさせる。また、「地震や津波は他人事ではない。」ことを伝える。 ・東日本津大震災の津波に関して、子どもの心理状況を考え、動画は使わないようにする。 ・恐怖を想起させない写真や具体的な数値を使い、児童に地震や津波をイメージさせるようにする。 ・「ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こりえる」ことを確認させる。 ・釜石市の小学生が実践した「想定にとらわれない」「常に最悪のことを考える」「勇気を出してにげる」という行動を確認させる。

【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、「授業の感想」を書かせて、グループで発表し合う。 グループ代表の児童が全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日頃から訓練等を通じて、家族と避難方法を確認しておく」ことなどをおさえさせる。 グループに保護者も入ってもらい、子どもたちの考えを聞いてもらう。親子で避難方法について考えを出し合ってもらおう。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> 「釜石市の奇跡」をもとに、地震や津波の際、小学生の立場から、自分なりにできることを考えることができたか。 	

【授業実践の様子】



【授業のスライド写真等】



<江南小学校>

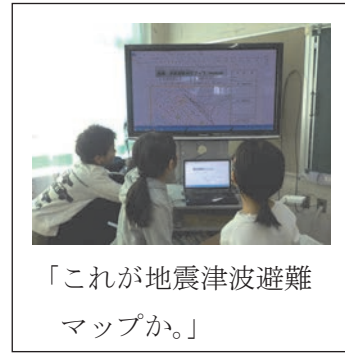
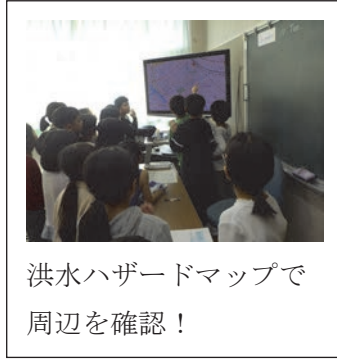
1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くが海拔0m地帯にあり,水害等の災害を受ける危険性がある。 ・引き渡し訓練や地震津波避難マップの作成など,保護者の理解と協力が得られやすい。 ・水害や津波の際,避難できる高い建物などが近くにあまりなく,避難するにしても時間がかかる地域もある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に起こり得る災害について,その危険性を知り,災害発生時には自ら考えて正しい行動をとることができる子ども。 ・家族や周囲の人々と協力して危険を回避することができる子ども。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>災害時の安全な行動を考えたり,大人の指示に従って適切な行動をとったりすることができる。(低学年) 災害に関する基本的な知識を身に付け,災害を防ぐための工夫や,自ら危険を回避する方法を考えることができる。(中学年)</p> <p>地域の災害の特性を知り,危険を予測したり,危険を回避する行動をとったりすることができる。(高学年)</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(火災・地震,地震・津波,不審者,引き渡し訓練) ・ベル訓練(年3回実施) ・緊急時児童引き取り者確認書の作成 ・地震津波避難マップの作成 ・年間活動計画に沿った授業の実施
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する知識と避難の仕方等の学習への計画的な取組 ・災害ハザードマップを活用した学習(中・高学年) ・地震津波避難マップの作成(学校保存用,家庭保存用) 緊急避難時の家庭での約束事の確認及び避難場所の確認 ・緊急時児童引き取り者確認書の作成と引き渡し訓練の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画への各活動の位置付け ・活動に関わる資料提供と情報の共有化 ・活動後の情報の保存 ・地域,保護者との連携 特に保護者には取組の趣旨を理解してもらい,協力を仰いでいく。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 新潟地震の被害を伝える写真を見て、学習の課題をつかむ ○ 大きな地震が起きたときに起こり得る被害について写真を見せながらおさえる。 ○ 学校での避難の仕方を確認する。 ・地震に対する避難 ・津波に対する避難（二次避難） ○ 課題「家にいるときに地震が起きたら、わたしたちはどうすればいいだろう。」	【問い掛けの例】 ・大きな地震によって、どんな危険なことが起きるのだろうか？ 【想定される答え】 ・物が落ちてくる。 ・家が壊れる。 ・津波が起きる。 【ポイント】 ○ 学校の避難訓練の動きや約束事から、家にいるときに地震が起きたらどうすればいいかを考えさせる。 【資料1】 新潟地震の被害写真
	2. 大きな地震が起きたらどうする？ ○ 身を守る方法について、学校の避難の仕方から考えさせる。 ・頭を守るにはどうすればいい？ ・部屋の中は安全？（絵を使って考えさせる。） 家具などは固定しておかないと倒れたりとんできたりする。 火を使っていたら… 消した方がいい？ ドアが開かなくなることも… 3. 津波情報が出たらどうする？ ○ 津波ハザードマップを用いて、津波が起きた際には浸水の危険性があることを伝える。 ・自宅周辺や通学路周辺の避難場所を確認する。 ・できるだけ早く高いところへ… ・大人がいるときは、しっかり指示を聞いて一緒に行動する。 ○ いざというときに、ちゃんと避難できるようにするためには、避難する場所などを知っておくことが大切であることをおさえる。	【問い掛けの例】 ・学校ではまず机の下に体（頭）を入れるけど、家の中ではどうする？家の部屋は安全なのだろうか？ 【想定される答え】 ・テーブルの下に隠れる ・学習机の下 ・隠れる物がない 【資料2】 部屋の中の絵 （新潟県防災教育プログラム地震災害編 02-1-①） ※ 家の人と相談しておかないといけないことが多いことをおさえる。 【問い掛けの例】 ・津波が起きるとみんなの家の周辺はどうなる？ 【想定される答え】 ・海が遠いから大丈夫？ ・水に浸かる 【資料3】 津波ハザードマップ （新潟市東区版津波ハザードマップ） 【問い掛けの例】 ・津波が来たらどこに避難すればいい？ 【想定される答え】 ・避難場所（中学校、江南小学校）に避難する。 ・家の二階に避難する。
【展開】		

【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>地震が起きたら… 頭を守る。 ゆれがおさまったら決められた場所に避難する。</p> <p>津波が起きたら… 早く、高いところに避難する。 避難所に避難する。</p> <p>大人の言うことをよく聞いて、落ち着いて行動する。</p>	<p>※ どこに避難すればいいか、はぐれた場合はどうするか、連絡はどのようにとるかなど、家でよく話し合って、約束を決めておくことと正しい行動をとることができることを最後に確認する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>家で話し合うために地震津波避難マップを紹介し、児童に配付する。</p>
【評価】	<p style="text-align: center;">【資料4】 地震津波避難マップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅にいるときに地震が起きたらどのような行動をとればいいかが分かったか。 ・津波による二次避難が必要になった場合、どこに避難できるかが分かったか。 ・保護者と相談して、地震津波避難マップを作ろうという意欲を持つことができたか。 	

【授業実践の様子】



【資料1】

【資料4】

じしん つなみひびきしりぞき
地震・津波避難場所マップ (学校提出用)

① 家と通学路を覚えておこう。 ② 避難する場所に家で印をつけておこう。
③ お金の入った箱を持って避難しよう。 ④ 緊急連絡先を覚えて、災害に備えよう。

学 級 番
名 前 ()
第一避難場所
第二避難場所
第三避難場所
緊急連絡先
1
2
3

3) 藤見中学校区（東区）

対象校：藤見中学校・東山の下小学校

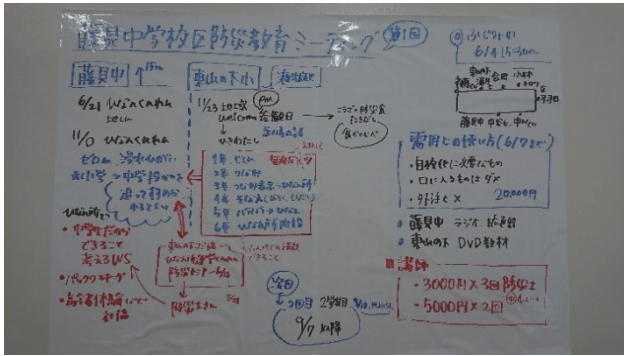
① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年6月4日 15:30～16:30 会場：藤見中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	令和元年10月3日 16:00～16:45 会場：藤見中学校	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	令和元年11月26日 16:00～16:45 会場：藤見中学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.令和2年度以降の防災教育の取組にむけた課題の共有）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
藤見中学校 山の下小学校	令和元年 6月4日	資料提供等	今後の継続性を踏まえた需用費の使い方やゲストティーチャーの例など資料を提示した。
藤見中学校	令和元年 6月4日	アドバイス	中学生ができることを考えるワークショップや社会福祉協議会でやっている高齢者体験、パッキングなど活用できるプログラムの情報を提供した。
藤見中学校 山の下小学校	令和元年 10月3日	情報提供	需用費の物品購入について、直接授業に結びつかなくても今後必要となり得る具体的な例を挙げてアドバイスをおこなった。
山の下小学校	令和元年 11月23日	参観	ウェルカム参観日を防災デーとし保護者・地域向けに防災講座、児童には各区学年で新潟県防災教育プログラムを実施、参観を行った。
藤見中学校 山の下小学校	令和元年 11月26日	情報提供	次年度に活用できるプログラムのアイデアとしてクロスロードゲームやHUGなどの情報を提供した。

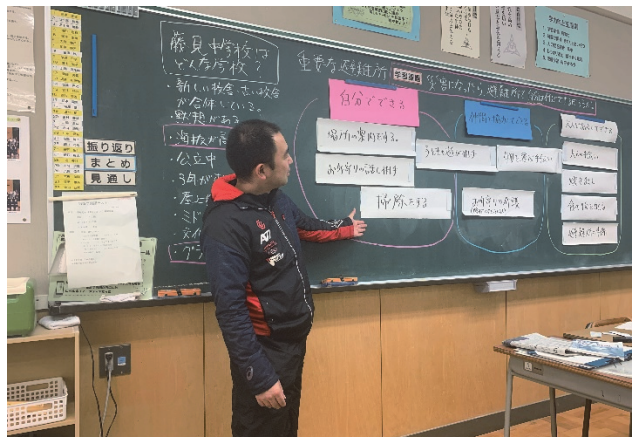
【6/4 中学校区ミーティングの記録】



【6/4 中学校区ミーティングの様子】



【11/20 藤見中学校授業の様子】



【11/23 東山の下小学校防災デーの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

東山の下小学校では、これまでも参観日を防災学習デーと位置付け、新潟県防災教育プログラムを継続実施している。地域の防災訓練では保護者世代の参加が少ないとの課題から保護者・地域を対象とした防災講座を新たに実施した。毎年、新潟県防災教育プログラムを実施するだけでなく、新たな工夫や切り口で実践することも今後の検討課題となった。

藤見中学校では、小学校で学んだ知識を自分ごとにするために、地域の防災士と連携し、学校が避難所で中学生として何ができるかを考える活動を行った。中学校区ミーティングの振り返りでは、防災士とのつながりをどう活かしていくか今後に向けた意見交換がなされ、防災ゲームや出前講座の活用などのアイディアが出されていた。

<藤見中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>生徒は素直で、諸活動に真剣に取り組んでいる。「躍進藤見は地域と共に!」を合言葉に、保護者・地域と共に歩む学校づくりに取り組んでいる。各自治会、青少年育成協議会、コミュニティ協議会等の諸団体からは、学校への支援・協力が得られている。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめがなく、一人一人を大切にする思いやりのある人になってほしい。 ・あいさつや返事など、当たり前前の方が当たり前前になれる人になってほしい。 ・何事にも諦めずに挑戦していく人になってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害から自分や周囲の人の命を守れるように、正しい知識を基に自分で考えて判断し、主体的に行動できる生徒。 ・地域の一員として、防災意識が高い生徒。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（2回） 6月 地震を想定した避難訓練 11月 火災を想定した避難訓練 ・救急法講習会（8月） ・地域の防災士さんの講演（11月） ・災害時、避難所で自分がどう行動するかを考える学習（11月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災を想定した避難訓練を実施する。 ・生徒会や部活動の部長などを中心とする希望生徒で、救急法の講習会を行う。 ・防災士さんから災害対応の講演をいただく。 ・災害時、具体的に自分ならどう行動するのかを考える授業を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画に位置づけ、確実に実践する。 ・小中の定期的な情報交換を行う。 ・地域教育コーディネーターや地域の防災士と連携して活動する。

2. 藤見中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

避難訓練（地震想定）

救急法講習会（生徒会本部、部活動の部長などを中心とする希望生徒及び職員）

避難訓練（火災想定）
地域防災士の講演（災害対応）

防災授業
（避難所関係）

3. 藤見中学校 防災教育指導例

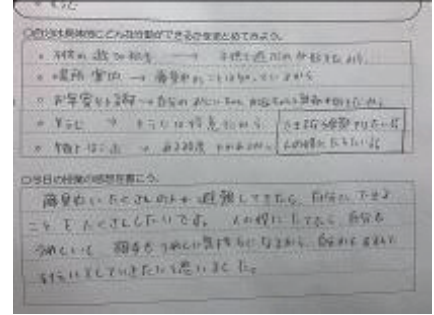
中学校全学年

(学習のねらい)

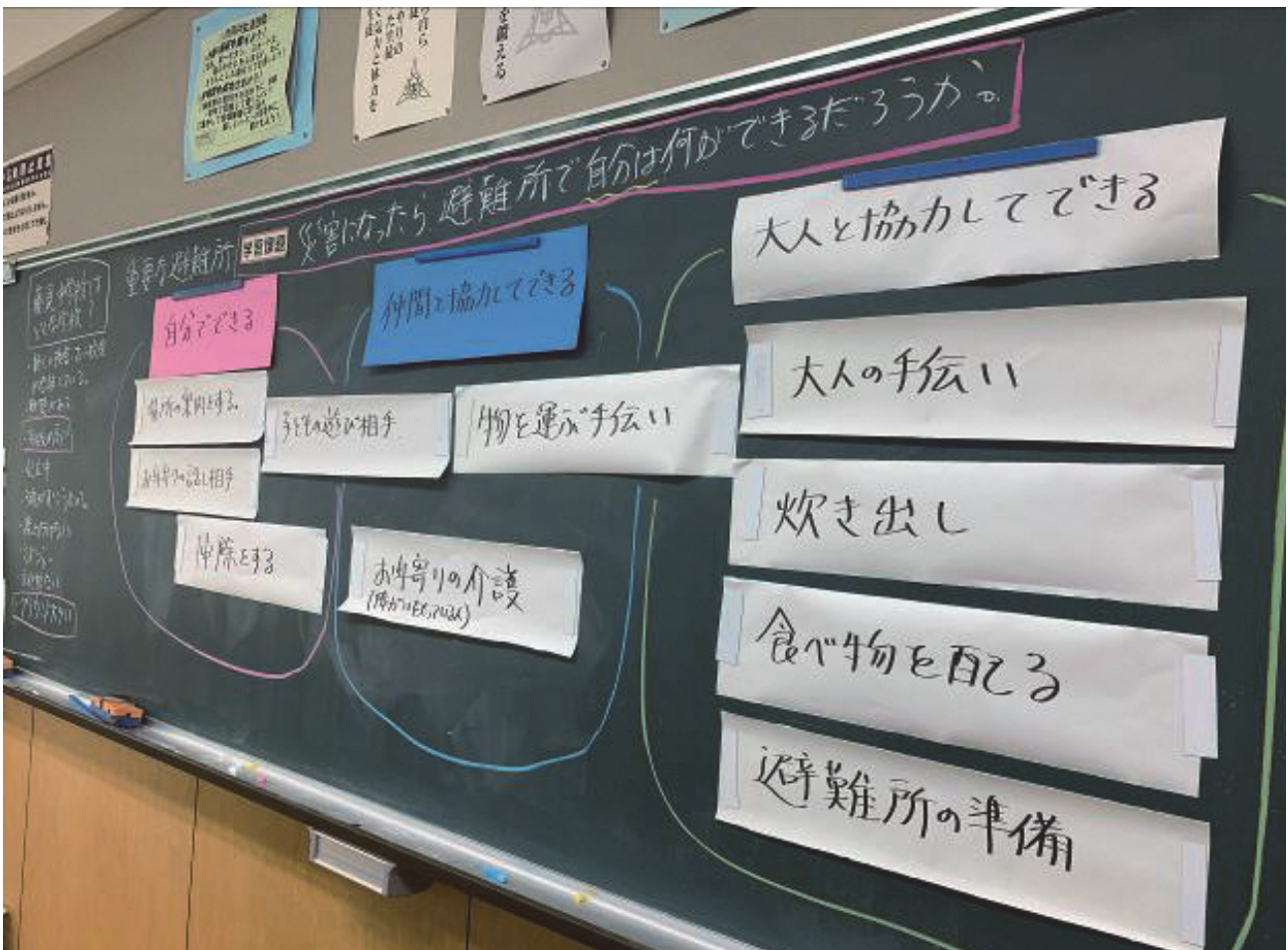
藤見中学校の立地について知り、避難所での自分の行動を考える

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 藤見中学校の立地について知る</p> <p>① 「藤見中学校はいったいどんな学校だろうか」 生徒 「あいさつのいい学校」「面積の広い学校」 「素直な生徒が多い学校」</p> <p>② 「どんな場所にある学校だろうか」 生徒 「丘の上にある」 「周りよりも高い場所にある」</p> <p>③ 「地震や津波、洪水になったら藤見中学校はどうなるだろうか」 生徒 「避難所になる」「みんな避難してくる」</p>	<p>○ 立地に限らず、どんどん発言させる。</p> <p>○ 「周囲から比べて海拔の高い場所にある学校である」ことをおさえる。</p> <p>○ 藤見中学校は重要な避難所になることをおさえる。</p>
【展開】	<p>2. 自分の避難所での行動を考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 災害になったら、避難所で自分は何ができるだろうか。</p> </div> <p>① 小学校で6年生の時に学んだことや、防災士さんの講演で聞いたことを基に具体的な行動を個人で考える。</p> <p>② 発表を行い、出された意見をすべて黒板に掲示していく。</p> <p>③ 「自分でできること」「仲間と協力してできること」「大人と協力してできること」に分ける。</p> <p>④ 質問、賛成意見、反対意見を出す。</p>	<p>○ 小学校時に学習した内容を想起させる。</p> <p>○ 防災士さんの講演の時の資料を使う。</p> <p>○ ワークシートを配布する。</p>
【まとめ】	<p>3. 自分自身の具体的な行動をまとめる</p> <p>① 自分は具体的にどんな行動ができるかをまとめると同時に「授業の感想」を書かせる。 (その後、学級で掲示する。)</p>	
【評価】	<p>・藤見中学校は高台にあり、水害時にたくさんの人が避難する重要な場所であることを理解できたか。</p> <p>・避難所での自分自身の行動を具体的に考えることができたか。</p>	

【授業実践の様子】



【板書】



<東山の下小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>当校は海拔0.8mで通船川沿いに位置している。地区南部の低地は、軟らかい地盤のため、大地震の時には強い揺れ・液状化の可能性がある。地区北部の砂丘は、土砂災害警戒区域が分布しており、崖崩れの可能性はある。地区全体が、阿賀野川の洪水、信濃川下流及び通船川流域の洪水によって、浸水の可能性はある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震・津波発生時における「自助」、災害発生時や避難所生活時における「共助」の意味や大切さを理解させるとともに、行動するための知識を身に付けさせたい。 ○ 防災学習を通して、防災の視点から地域の地形、表示、建物、地域の人の考えや動きを知ろうと地域を見つめる意識と態度を育てたい。 ○ 地域の一員として、災害等の緊急時の対応に、主体的に取り組もうとする意識と態度を育てたい。 ○ 保護者の地域防災に対する関心を高め、家庭における防災、地域における防災に主体的に取り組もうとする意識を高めたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>自分で自分の命を守ることができる「自助」の観点と、集団生活を送るに当たって非常時にお互いの命の安全を守ろうという「共助」の観点をもって行動することができる子ども</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4月11日 通報訓練① 4月23日 火災避難訓練 5月27日・28日 体験型安全教室 5月29日 不審者対応避難訓練 6月17日 全市一斉通報訓練 10月16日 通報訓練② 11月23日 防災学習参観・引き渡し訓練</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1～6年生までの、東山の下校区や東区の素材を使った、防災保護者参観授業プログラムの作成。 ○ 参観授業の前に、保護者を対象とした防災学習会の設定。 ○ 東山の下地区コミュニティ協議会や東区役所と協働での授業づくり・運営。 ○ 平成27年度より、継続した取組とするように、教育課程に位置付けた。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県の防災教育プログラムに基づき指導する。 ○ 土曜日に地震・津波に関する学習参観と保護者への児童引き渡し訓練の実施。 ○ 学校安全・防災年間指導計画の作成・修正。 ○ 事前事後指導を確実にいえるように指導資料や映像教材等を配付。

2. 東山の下小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年	通報訓練①	火災避難訓練	体験型安全教室	不審者対応避難訓練								
第5学年					着衣泳							
第6学年							通報訓練②	防災学習参観 引き渡し訓練	理科 流れる水の はたらき	理科 大地のつく りと変化		
				全市一斉通報訓練						雪災害に関する防災教育（積雪との関連）		

3. 東山の下小学校 防災教育指導例

小学校6学年

(学習のねらい) 地域の一員として、災害等の緊急時に、
みんなの生活のために自分たちにできることがあるか考える

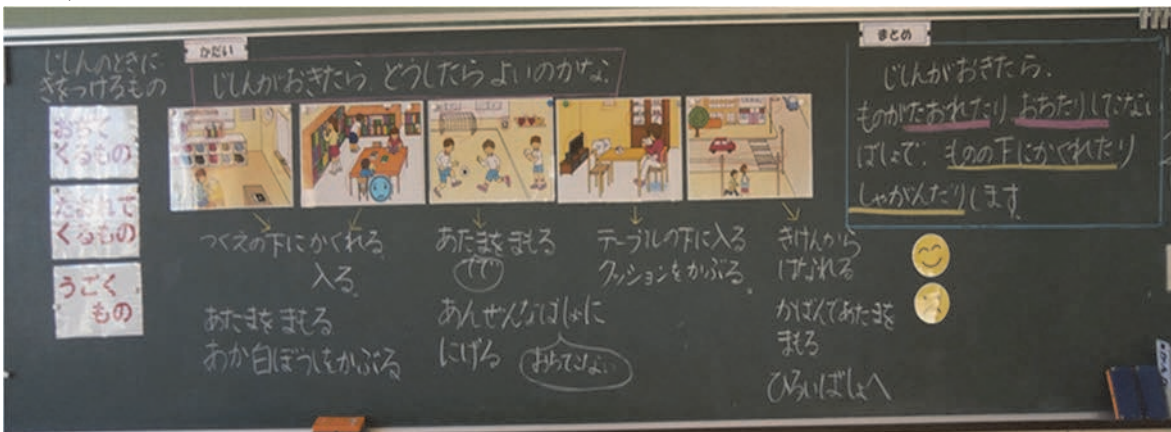
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 地震や津波、洪水で被害を受けた家屋や道路の画像、避難所の様子の画像を見て、避難所での生活について考える</p> <p>2. 避難所生活で出てくる問題について考える</p>	<p>○ 大きな地震・津波や洪水の被害にあうと避難所生活が余儀なくされることを理解させる。</p> <p>○ 「様々な年代」「大勢」「長い期間」での生活のしにくさを感じ取らせる。</p> <p>○ 東山の下小も避難場所に指定され 3700 人もの人数が避難することを知らせ、当事者になり得ることを感じ取らせる。</p>
【展開】	<p>3. 問題を小さくして、避難所生活をよくするために、自分たちにできることを考える (学習課題) 避難所のみんなの生活をよくするために、自分たちにできることは何か</p> <p>4. 熊本地震時に実際に行われた小学生の活動のニュース動画を視聴し、自分たちが考えた活動を含め、自分だったらどんなことができるかを考える</p>	<p>○ これまでの災害時に、避難所で実際に問題となったことを説明する。</p> <p>○ 小さい子やお年寄りを思いやる行動、全体に役立つ行動といった視点での考えが出されると想定する。</p> <p>○ 自分にもできる、自分ならこうしたいという行動をランキングとして考えさせ、行動への意欲化を図る。</p>
【まとめ】	<p>5. 地域の方の話を聞き、自分たちの活動が期待されていることを知る</p> <p>6. 振り返りを書く</p>	<p>○ 避難所が設置されるような災害が起こったら大変なことになるが、小学生からも手伝ってもらえたらとても助かるという旨の話をしていただく。</p> <p>○ 「自助」「共助」「公助」といった言葉を知る。</p> <p>○ 初めて知ったこと・勉強になったこと・考えたことなどをまとめる。</p>
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までに学習を重ねた「自助」の考えから発展し、災害発生時や避難所生活時における「共助」の意味や大切さを理解できたか。 ・小学生として、できる行動があることを理解できたか。 	

【授業実践の様子】

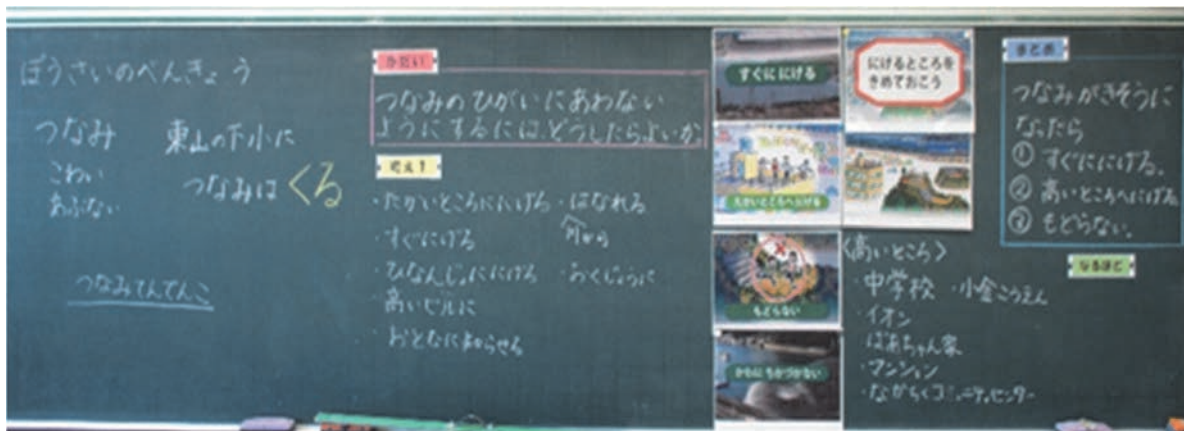


【板書】

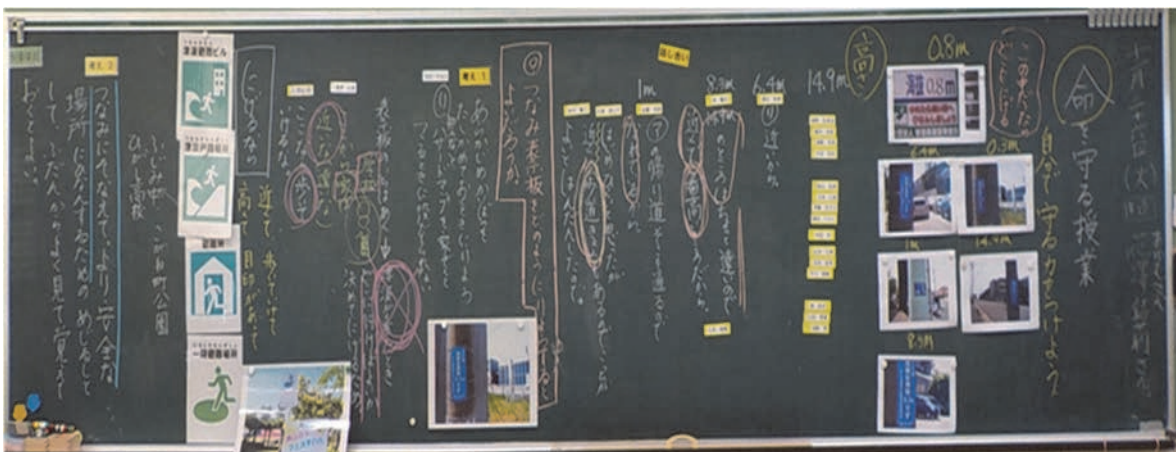
1年



2年



3年



4) 寄居中学校区（中央区）

対象校：寄居中学校・新潟小学校

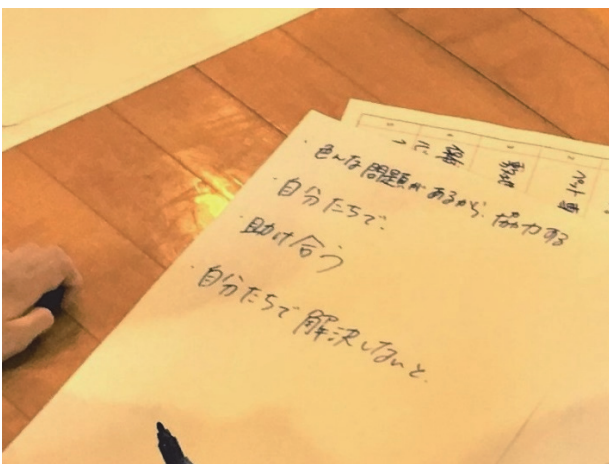
① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年5月30日 16:00～16:40 会場：寄居中学校	1.地域教育コーディネーターの方に向けた事業の説明 2.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 3.その他（情報共有・意見交換）
第2回	令和元年11月13日 16:00～16:40 会場：寄居中学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他（情報共有・意見交換）
第3回	令和2年1月30日 16:00～16:40 会場：寄居中学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他（情報共有・意見交換）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
寄居中学校	令和元年 5月10日	資料提供	5月9日研修会欠席のため、当日配布資料の提供。
寄居中学校 新潟小学校	令和元年 5月30日	資料提供	5月9日研修会の振り返りや地域教育コーディネーター向けの事業説明資料、防災教育に活用できる各種印刷資料等を提供。
寄居中学校	令和元年 5月30日	打合せ	7月6日の防災力UP講座WIDEに向けた中央公民館・区総務課を交えた打合せ。
寄居中学校	令和元年 7月6日	講座	防災力UP講座WIDEにおける2年生+保護者対象のワークショップの実施。
寄居中学校	令和元年 7月31日	打合せ	防災力UP講座WIDEについて、中央公民館・区総務課・教頭・防災教育担当・コーディネーターを交えた振り返り。
寄居中学校	令和元年 9月26日	打合せ	防災力UP講座WIDEや中学校で取り組む防災教育について、保護者を交え、振り返りと意見交換を実施。

【7/6 寄居中学校 講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

寄居中学校区は、市内の比較的沿岸部に位置し、地震時には液状化や信濃川を遡上する津波による浸水が発生する可能性がある。6月の山形県沖地震発生時には、校区住民が学校へ避難する状況が発生した。中学校区ミーティングにおいてはその時の教員の動きや住民の様子についても情報共有・意見交換がなされた。

寄居中学校では、住民・保護者を交えた避難所での対応を考えるワークショップを実施したが、予想より保護者の参加が伸びず、講座実施後の別日に保護者を交えた振り返り会を行った。新潟小学校では、5年生社会科の時間を活用した防災学習を展開したが、地域・保護者を絡めることが難しかったとの反省が出た。次年度へ向けて、新たに4年生で防災合宿が実施できないか構想を進めていた。

<寄居中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市のほぼ中央に位置し、「夢・挑戦・感動」のスローガンのもとに、生徒たちは充実した学校生活を送っている。 商業施設や官庁などの耐震性の高い建築物が多いため、揺れによる被害は落下物によるものなどを除き少ないと思われる。しかし信濃川や日本海に近く、校舎の立地場所が海拔約5mのため、津波や液状化等による被害が予想される。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2つの地域コミュニティ協議会、中央公民館、その他の関係外部機関と協力して、毎年地域の方々との協働による防災講座を実施している。最近の災害増加にともない、防災への意識向上・協力体制の一層の強化を図っていきたい。 学校では毎年、地震と火災想定全校避難訓練を2回行っている。また、予想される災害を対象にした防災教育を学年ごとに実施している。災害発生のしくみと避難時に必要な行動について、適切な判断力・行動力を養っていきたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域の特性とそこに関わる災害の危険性を知り、自らの生命は自分で守るという意識と技術をもつことができる。 避難した際、中学生として対応できる自主性と協力性、実践力をもつことができる。 保護者や地域の方々と地域防災における協働体制を築くことができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒、保護者、地域の方々を対象にした「防災力アップ講座ワイド」を実施。【7月6日(土)】 地震を想定した避難訓練(6月実施)と火災を想定した避難訓練(11月実施。消防署職員による指導)を実施。 「新潟県防災教育プログラム」を用いた、水害(1学年)、津波(2学年)、地震(3学年)を想定した防災教育を実施。(11月～12月実施)
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地震、火災を想定した避難訓練の実施。 地域、保護者、外部機関と連携した、AEDや簡易担架等の講習会と避難所での活動をシミュレートする、避難所運営ゲーム(HUG)の実施。 各学年、各教科における「新潟県防災教育プログラム」を参考にした自然災害やボランティアに関する授業の実施。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画に位置付けされている防災教育の活動計画の見直しを毎年実施。 中央公民館、中央区役所、地域コミュニティ協議会等との連携強化。 地震と火災の差異を明確に位置付けて計画的に避難訓練を実施。 「新潟県防災教育プログラム」に基づく防災教育の継続。

2. 寄居中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

<p>第一回避難訓練(地震想定) シェイクアウトの徹底,速やかな避難等</p>	<p>新潟地域におけるコミュニケーションづくり</p>	<p>防災力アップ講座:緊急時,避難所での対処法等</p>	<p>理科授業 1 学年:津波のメカニズム・脅威 2 学年:洪水災害からの避難法 3 学年:自然と人間のあり方</p>
<p>第二回避難訓練(火災想定) ハンカチ等の準備徹底,速やかな避難等</p>	<p>防災教育</p>	<p>1 学年:水害想定 2 学年:津波想定 3 学年:地震想定</p>	

3. 寄居中学校 防災教育指導例

中学校全学年	<p>(学習のねらい) 災害発生時、避難所の活動に対応できる防災意識と技術を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者、地域の方々とグループワークを通して地域防災の協働体制を確立する。 ・ 地域防災に関わる、中学生としての自主性・協力性、実践力を養う機会とする。
---------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【全体会】	<p>1. 防災先進地に学ぶべきことを、代表生徒による基調発表、講師による講話から知る</p> <p>① 前年度、防災先進地(小千谷市)の施設見学・体験を通して、学んできたことを代表生徒が発表する。それをもとに防災について、中学生ができること、やるべきことについて考える。</p> <p>② 講師より、避難所運営等について注意すべき点についてお話をいただき、避難所での活動の様子を知る。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「おちや震災ミュージアム『そなえ館』(小千谷市)を前年度訪問した2年生代表4名が基調発表。全学年混合の班(36班)で発表を聞いた。 ○ 中越防災安全推進機構の方から避難所運営についての講話。形態は基調発表と同じ。
【会場ごとの活動】	<p>2. 防災に関わる活動を各会場で実施</p> <p>① 1・3年生と保護者・地域の方々:HUG(避難所運営ゲーム)の簡易版を実施。1・3年生混合班に、地域・保護者の方々が加わった。</p> <p>② 2年生:ハイパージュニアレスキュー体験プログラム。</p> <p>③ 保護者・地域の方々:起震車・降雨車体験。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中越防災安全推進機構の講師による進行。中学生(3年生)がまとめ役となり班(全部で36班)での活動を行った。会場は体育館。 ○ 中央区役所および防災士の方々が指導。簡易ベッドやパーティションの設営、発電機操作などの活動。会場は武道場。 ○ 中央公民館との連携により、疑似体験を行った。それぞれの車両を駐車するため、会場はグラウンド。
【振り返り】	<p>3. 地域の方々から、地域防災の実情の説明。および参加者全員が振り返りを記入</p> <p>① 各地域コミュニティの代表から、防災に関わる地域の現状と中学生の活動についてのお話。</p> <p>② 振り返りアンケート用紙に、「それぞれの活動の感想」などを書く。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 非常食等についての現状および中学生の活動に期待する内容をお話いただいた。 ○ 中学生は、各会場での活動についての4段階評価と感想を記入。保護者・地域の方々はアンケートに記入。
【アルファ化米試食】	<p>4. 避難所での食事を直接体験してもらうため、非常食を試食</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 準備に30分ほど時間がかかるため、会場ごとの活動と並行してアルファ化米を準備。 ○ 体育館の出入口付近に卓球台を2台設置し、一斉にアルファ化米を配膳。全体会時の班ごとで試食。 ○ 1・3年生時の活動の際に使用したホワイトボードをお盆がわりにして、人数分のアルファ化米(紙製容器に一膳)を運搬した。 ○ 食べ終わった容器を捨てるごみ袋を用意した。 	

【活動実践の様子】



【基調発表時のスライド(一部)】

小千谷のどなえ
から私たちが考えること

①避難時や避難後に大切な
地域の人との関わり

②自然災害に備えて避難道具の
準備をする

③自分の住んでいる
地形を理解しておく
(ハザードマップを確認)

④家族との
避難経路の確認

これらのことを意識して、
防災力を高めて
いきましょう！！



<新潟小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区には繁華街があり，人や車の往来が多い。また，通学路には高層ビルやマンションが多い場所，細い路地や古い建物が多い場所があるため，大規模地震が発生した場合に，落下物や倒壊などの危険がある。 ・校区には海拔の低いところが多く，信濃川の氾濫や洪水による被害を受けやすい。 ・地盤が弱いため，液状化現象による地盤沈下や噴砂などの危険がある。 ・学区外から通学している児童が多く，大規模地震の発生時には，道路状況や橋の崩落などによって，帰宅や保護者への引き渡しに困難を要する場合がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害における不測の事態や，不審者の動きが読めない状況などでも，臨機応変な対応ができる力を付けていき，自分の命を自分で守ることができるようになってほしい。
<p>防災教育において，目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害や防災についての基本的な知識を身に付け，発達段階に応じた判断力を持ち，非常時でも適切な行動をとって，自分の命を自分で守ることができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（年6回） 【火災(校内・校外)，地震・津波，Jアラート，不審者，休憩時】 ・引き渡し訓練 ・地震・津波を想定した地域合同避難訓練 ・中央警察署・寄居中学校と連携した避難訓練
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画への防災教育の位置付け ・5年生社会科と関連した防災教育 ・3年生総合的な学習の時間と関連した新潟大火・新潟地震についての地域の方による講話
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域，行政と連携した防災教育 (講師を招いて地域の歴史を学ぶ，地域巡検，防災マップづくりなど) ・指導計画の見直し ・小，中学校間の情報交換

2. 新潟小学校 防災教育 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年	避難訓練(火災)・非常ベル訓練											
2学年	体験型 安全教室 (不審者) 交通安全 教室 生活科 大すき、 わたしたちの町	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練										
3学年	総合 わたしたち (新潟大火・新潟地震)	地域合同避難訓練(地震・津波)・引き渡し訓練										
4学年	避難訓練(ジャラート)											
5学年	避難訓練(火災・休憩時)											
6学年	避難訓練(火災・屋外避難)											
1学年	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練											
2学年	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練											
3学年	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練											
4学年	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練											
5学年	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練											
6学年	避難訓練(火災・津波)・引き渡し訓練											

3. 新潟小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい) 新潟市で発生する可能性のある地震への備えについて、既習事項や生活経験や体験を根拠に自然災害に対して自分はどんな備えができるかを選択・判断したり、話し合ったりする活動を通して、備えの意味を多角的に捉えることができる。
---------------	---

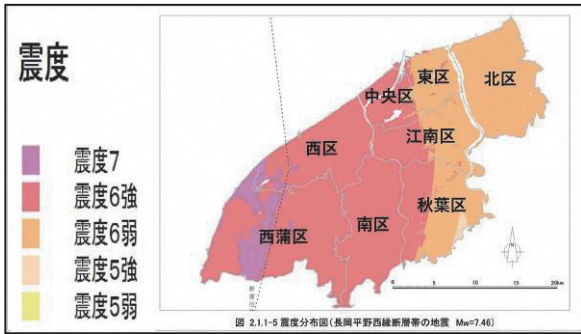
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 新潟市の地震や被害の予測を知り、課題をつかむ</p> <p>① 新潟市の地震予測図や地震発生時の被害予測の大きさを知る</p> <p>② クラス内でとった地震に対する日頃の備えについてのアンケート結果から、備えが足りていないことに気付く</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【課題】 新潟市の地震の被害をできるだけ少なくするために、自分はどんな備えをしたらよいのだろうか</p> </div>	<p>【資料】新潟市の地震予測図</p> <p>【資料】地震発生時の新潟市の被害予測</p> <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟市の近くで起きるかもしれない地震の大きさやけが人などの数はこのくらいだと考えられています <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟市も震度6強の地震が起きるかもしれない こんなにけが人などがでるの？ <p>【資料】クラス内でとった防災アンケート</p> <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの家ではしっかりと備えがされていますね？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> しっかりと備えをしている家は少ない 大きな被害が出ないようにするためにどんなことをしたらいいかな？
【展開】	<p>2. 被害を最小限にするための備えを考える</p> <p>① 被害を最小限にするための備えとその理由を考える 個人の考えをグループ内で紹介し合い、共通点をまとめることで、<u>自分の命を守ること(自助)</u>をおさえる</p> <p>3. 自助が共助につながることに気付き、考えた備えの価値を見直す</p> <p>① 自助の備えを行った人たちの行動から次の点をおさえる</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>しっかりと自助に取り組むこと</u> <u>自分の命を守ることを第一に考えること</u> <u>自助をすることで周りの人の命を助けることにつながる</u> <p>② 自分たちが考えた自助の備えが自分の命を守るだけでなく、他の人の命を守ること(共助)につながっているかを考えさせる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【まとめ】 新潟市の地震の被害をできるだけ少なくするためには、自分の命を守る備えをするとよい。そうすれば、他の人が助かることにつながる。</p> </div>	<p>ワークシート</p> <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害をできるだけ少なくするためには、どんな備えをするとよいですか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて逃げるができるから、避難場所や避難経路を確認しておく 家具が倒れるとけがをするから、家具を固定する <p>【資料】釜石の奇跡</p> <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が必死に逃げたことがどんなことにつながりましたか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の大人たちも逃げた 保育園の子どもたちも逃げた <p>【問い掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助の備えをすると、地震のときどんなことにつながりそうですか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難経路や避難場所を確認しておく、避難で困っている人に声掛けができる 家具を固定しておく、自分が助かるから他の人を助けたり、消防団の人が自分以外の他の人を助けに行ったりすることができる

【めいせい】	4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	【ポイント】 ○「 <u>日頃から自助の備えをしっかりと行う</u> 」ことを確認する
【評価】	生活経験や既習事項、話し合ったことなどを根拠にしながら、地震の被害を最小限にするために自分にできることを考えることができる。 生活経験、既習事項、話し合いなどを根拠に、自然災害に備えて自分が取り組むことを、自助が共助に結び付いていることにふれながら記述している。	

【授業実践の様子】



【資料】



新潟市の地震予測図

東日本大震災で津波から多くの子どもが助かった岩手県釜石市。子どもたちは、ふだんから「率先ひなん者になりましょう」と教えられてきました。地震が起きた日、グラウンドで部活動をしていた中学生は、ひなん場所に向かって走り出しました。

彼らの後を追う、他の生徒たちも逃げ出しました。となりの小学校の子どもたちは、中学生が必死になってひなんしているのを見て、彼らについて走り出しました。必死に逃げる姿を見て、逃げる途中にある保育園の保育士さんも園児を連れて逃げ出しました。地域の大人たちも逃げ始めました。

みんなが必死に逃げて、高台にたどり着いた結果、中学生だけでなく多くの人の命が助かったのです。

釜石の軌跡

新潟市内で地震が起こった時の人的ひがいよそく(人)

	死者	自力脱出困難者	けが人
新潟市	4,370	5,452	20,214

地震発生時の新潟市の被害予測

【板書】

11/30(土)
 新潟市の地震のひがいをへらすために
 自分は、どんな備えをしらいいのだろうか。

自助
 自助すると他の人の命が助かる

他助
 自助する人の命が助かる

共助
 みんなが自助して、高台にたどり着いた結果、中学生だけでなく多くの人の命が助かったのです。

自助する、そうすると、周りの人もおぼえて、他の人の命が助かる。

5) 新潟柳都中学校区（中央区）

対象校：新潟柳都中学校・日和山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年6月10日 16:00～17:00 会場：日和山小学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	令和元年8月19日 10:00～11:00 会場：日和山小学校	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	令和元年11月22日 16:00～16:45 会場：日和山小学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.令和2年度以降の防災教育の取組にむけた課題の共有）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
新潟柳都中学校 日和山小学校	令和元年 6月10日	資料提供等	今後の継続性を踏まえた需用費の使い方やゲストティーチャーの例など資料を提示した。
日和山小学校	令和元年 6月10日	情報提供	楽しくできる防災として、クイズやゲーム、防災運動会の事例などがあることを情報提供した。
新潟柳都中学校	令和元年 6月10日	打合せ	6月14日の避難訓練後、1年生対象に「災害時予測されることと、中学生ができること」について打合せ。
新潟柳都中学校	令和元年 6月14日	参観 講座実施	避難訓練参観後、1年生対象に「災害時予測されることと、中学生ができること」について講座を実施した。
日和山小学校	令和元年 9月6日	参観	縦割り班で清掃中にサイレン、高学年がリーダーとして行動できるか避難訓練を行った。また6年生がリーダーとしてどのように行動すべきだったか振り返りを行う時間を参観した。

【6/14 新潟柳都中学校 防災講座の様子】



【6/14 新潟柳都中学校 防災講座の様子】



【6/14 新潟柳都中学校 防災講座の様子】



【8/19 中学校区ミーティングの様子】



【9/6 日高山小学校 避難訓練の様子】



【9/6 日高山小学校 避難訓練の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

新潟柳都中学校区は、小学校、中学校ともに海沿いではあるが高台に位置しており、水害の場合避難所になる可能性がある。中学校では、避難訓練と防災講座を実施後に起きた6月18日の山形県沖地震で実際に学校に大勢の住民が避難した。その際、生徒自身が主体的に動こうとするなど意識の高まりが見られた。また学校としてどう動くのか課題も見えてきた。

小学校では、高学年のリーダーシップを高めるため縦割り班で活動中に避難訓練を行い、リーダーとしてどう行動するか振り返りを行った。今後の継続を見据えて生徒児童が「自ら考えて行動できる」ように避難訓練や防災教育の仕掛け作りに積極的に取り組み、1中1小の強みを生かした系統的な学びとなるようトライした1年であった。

<新潟柳都中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「下町」といわれる地域で、昔ながらの建物が多く、住宅が密集している。一方通行の細い道路も多い。海岸、信濃川河口に近いが、校舎は高台にある。 ・比較的新しい校舎で、耐震補強もしっかりとしている。 ・地域で大きな災害が起きた際に、家屋の倒壊・地域の火災等が予想され、学校や中学生の力が頼りにされるものと考えられる。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域は、地域と学校（教職員・保護者）が共に協力し合い、日頃から生徒の安全を見守り、安心して生活できる地域にしたいと考えている。 ・学校では、日常の学校生活や防災教育を通して、生徒に災害等に関する正しい知識や技能を身に付けさせると共に、災害時には学びを生かして命を守るための判断をし、実践する力を身に付けさせたいと考えている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境や社会環境を把握し、防災に対する基本的な知識や態度を身に付けた生徒。 ・災害発生時において生命を守るために必要な判断、行動ができる生徒。 ・生命を尊重する心、他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神等の大切さを理解し、被災時に地域の一員として貢献する生徒。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波想定避難訓練（6月） ・「防災の日」（防災に関する全校授業、学年別ワークショップ） ・火災想定避難訓練（11月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「災害時対応マニュアル」の見直しと周知徹底 ○6月に「防災の日」を設定し、地域と共に防災訓練を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉に体育館で防災授業を行う。 ・専門家を講師に招いて、災害発生時の行動について考えを深める授業を実施 ・地域の消防署職員を招いて、AEDを使った救命訓練を実施 ・4コミ協役員を中心とした地域の方と共に、避難所開設訓練を実施 ○活動前の指導、活動後の振り返りを充実させ、活動を通じた自己の成長を実感させる取組を大切にして、学びを深めさせた。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と連携して防災教育を進める。 ・小学校と連携し、小学校での取組を生かした活動が実践できるよう工夫する。 ・今年度の反省を生かしながら、来年度以降も取組を継続していく。

2. 新潟柳都中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	◎犯罪被害の防止と通報 ○学校活動の安全確保 ◎地域の特性と 災害予測	「防災の日」・避難訓練(地震・津波)						◎地震による津波の危険と避難 ○落雷の危険と風水害 ○水の事故と対策	避難訓練(火災)			
	◎犯罪被害の防止と通報 ○学校活動の安全確保 社：「自然災害と防災」(5月)	◎地震による津波の危険と避難 ○水の事故と対策	◎地震による津波の危険と避難 ○台風・風水害と安全確保	◎火災発生時の避難と安全確保、火気の注意 ○降雪・凍結時の安全確保・交通安全 理：天気とその変化(台風)	◎災害への備えと協力							
第2学年	◎犯罪被害の防止と通報 ○学校活動の安全確保 社：「阪神大震災」(4月)	「防災の日」・避難訓練(地震・津波)						◎地震による津波の危険と避難 ○水の事故と対策	避難訓練(火災)			
	◎犯罪被害の防止と通報 ○学校活動の安全確保 社：「阪神大震災」(4月)	◎地震による津波の危険と避難 ○水の事故と対策	◎地震による津波の危険と避難 ○台風・風水害と安全確保	◎火災発生時の避難と安全確保、火気の注意 ○降雪・凍結時の安全確保・交通安全 理：天気とその変化(台風)	◎災害への備えと協力							
第3学年	◎犯罪被害の防止と通報 ○学校活動の安全確保 社：「阪神大震災」(4月)	「防災の日」・避難訓練(地震・津波)						◎地震による津波の危険と避難 ○水の事故と対策	避難訓練(火災)			
◎犯罪被害の防止と通報 ○学校活動の安全確保 社：「阪神大震災」(4月)	◎地震による津波の危険と避難 ○水の事故と対策	◎地震による津波の危険と避難 ○台風・風水害と安全確保	◎火災発生時の避難と安全確保、火気の注意 ○降雪・凍結時の安全確保・交通安全 理：天気とその変化(台風)	◎災害への備えと協力								

3. 新潟柳都中学校 防災教育指導例

中学校全学年	<p>(学習のねらい) 防災に対する意識を高め、防災に対する知識や態度を養う</p> <p>・学年別のねらい(1年:自助, 2・3年:共助)に合わせて、災害時に主体的に判断、行動できる知識と態度を身に付ける。</p>
---------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 活動のねらいを確認し、防災講話により意識を高める</p> <p>① 全校集会で防災に関する講話・指導を聞き、防災訓練の意味付けや、「自助」「共助」についての意識の向上を図る。</p> <p>② 活動を通して自分自身が「目指す姿」を設定し、主体的に取り組む心構えをもつ。</p>	<p>【講話での資料の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像資料、動画資料等を活用して、災害時のイメージを具体的にもてるように工夫する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生として、災害発生時に「自分の身を自分で守る」「地域の一員として、地域の人たちを守る」という意識をもち、しっかりと行動できるようにするために、日頃からの準備を心がけさせる。
【展開】	<p>2. 学年別ワークショップに取り組み、具体的な行動の仕方や考え方について理解を深める</p> <p>① 避難所開設訓練(3年生:貢献/共助)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区コミ協の避難所開設案を元にして実施。 5グループに分かれ、「避難所受付業務」「避難所区割り作業」「要支援者の誘導補助」「救援物資搬送」「マンホールトイレ設置」を実際に行う。 <p>② AED講習(2年生:貢献/共助)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の消防署職員を講師に迎え、救命訓練を行う。 身近なものを使った救命救急措置の仕方を紹介してもらい、理解を深める。 <p>③ 身の安全を確保しよう(1年生:自助)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師として専門家を招き、災害時に自分の身を守る方法について考える。 	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害発生時に中学生として「地域のためにどのように行動したらよいのか」を考えたり、地域の力となる準備を整えたりする。 ・ダミー人形「リトル・アン」を10体用意し、全員が実践できる時間を十分確保する。 ・簡易担架の作成、買い物用ビニール袋の活用法など ・グループワークを通して意見交換を行い、理解を深める。
【まとめ】	<p>3. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて自分の学びを確認させる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に設定した「目指す姿」を想起させながら振り返らせる。

【評価】

- ・災害発生時において、自分自身がどのように考え、どのように行動したらよいか（行動できるのか）という意識を高めることができたか。
- ・ワークショップでの実践などを通して、災害発生時の判断や行動について、具体的に理解することができたか。

【授業実践の様子】

< 3 年生 >



< 2 年生 >



< 1 年生 >

【ワークシート（1年生）】



【設問】
体験談を聞いて、今後想定されることについて考えてみましょう。
そして想定されることについて、どのようなアクションがあるか考えてみましょう。

この後想定されること	
想定されることに どのようなアクション が考えられるか	
みんなの意見	



<日如山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校周辺は「下町」と言われる地域で、昔ながらの建物が多く、住宅が密集し、細い道が多数ある。海岸や信濃川河口に近いが、校舎は校区内では一番の高台にある。 ・校舎移転に伴い、新棟（教室棟）の増設や耐震補強なども行われた。 ・立地条件や建物の構造上、地震・津波・火災には、それなりの強度はあるものの、地域で災害が起こった時に、家屋の倒壊・地域の火災等、子どもだけで下校させることが困難なことが考えられる。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域は、地域と学校（教職員・保護者）が共に協力し合い、日頃から児童の安全を見守り、安心して生活できる地域にしたいと考えている。 ・学校は、日常の学校生活や防災教育を通して、児童には災害や避難に関する正しい知識や技能を身に付けさせると共に、災害時には学びを生かして命を守るための判断をし、実践する力を身に付けさせたいと考えている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守る子ども ・様々な災害から身を守るための、基礎的・基本的事項を理解している子ども ・災害発生時には、学校の友達や先生、家族や地域の人と協力し合える子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 集団下校訓練 2 地震津波想定避難訓練 <5月> 3 日曜参観（防災授業および地震想定引き渡し訓練） <6月> 4 火災想定避難訓練（清掃時 縦割り班による避難） <9月>
<p>自校プランの内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 年度初めに、職員の防災時の役割を明記したシールを職員の名札に貼り付けた。これにより職員の災害時の動きを明確にした。 2 一日参観日を新潟地震の6月16日（日）に実施 <ol style="list-style-type: none"> ① 各学級で防災授業を実施し参観した。（新潟県防災教育プログラムより） ② コミ協会長や防災担当者を学校に招き、訓練の様子を参観してもらった。 ③ 日如山小学校区避難所マップを作成し、引き渡し訓練後に避難所マップを活用して、保護者と児童で、地域の避難の確認を行った。 3 避難訓練後には、6年生にも反省用紙を配り、職員同様に改善点などを考えさせた。これにより、6年生は高学年としての避難の心構えや下級生へのかかわり方を学んだ。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と連携して防災教育を進める。 ・来年度以降も反省を生かしながら、今年度の取組を継続していく。

2. 日和山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	津波の怖さを知る。	交通安全教室 津波からの逃げ方を学ぶ。	第一回避難訓練(地震・津波)引き渡し訓練	地震の危険性と身を守る方法を学ぶ。		大雨が降ったときの危険性を知る。	大雨が降ったときに身を守るための行動を知る。	第四回避難訓練(不審者)				
第2学年	津波の怖さを知る。	津波からの逃げ方を学ぶ。		地震の危険性と身を守る方法を学ぶ。		大雨が降ったときの危険性を知る。	大雨が降ったときに身を守るための行動を知る。					
第3学年	津波の恐ろしさと逃げ方を知る。	交通安全教室 津波の恐ろしさと逃げ方を知る。		地震の危険性と身を守る方法を学ぶ。		雨の降り方や洪水について知る。	洪水から街を守る対策を知る。 理科「風のほらまき」					
第4学年	津波の恐ろしさと逃げ方を知る。	津波から逃げ方を知る。		地震の危険性と身を守る方法を学ぶ。		雨の降り方や洪水について知る。	洪水から街を守る対策を知る。					
第5学年	新潟県の津波災害の歴史を知る。			余震や二次災害の危険性と身を守る方法を学ぶ。 理科「台風の接近」 自然教室		洪水から身を守るために日頃から備えておくことを知る。	川からの恵みと災いについて考える。 理科「融れる水のほらまき」					
第6学年	新潟県の津波被害の歴史を知る。			余震や二次災害の危険性と身を守る方法を学ぶ。		洪水から身を守るために日頃から備えておくことを知る。	川からの恵みと災いについて考える。					

3. 日如山小学校 防災教育指導例

小学校低学年	<p>(学習のねらい) 津波からの逃げ方を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「いなむらの火」を用いて津波からの逃げ方を考える。 ・近くの高い場所はどこかを知り、逃げる意識を持つ。
---------------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 津波からの逃げ方に関心をもつ</p> <p>① 地震が起きた時どうすればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐる。頭を守る。 ・ゆれがおさまるまでじっとしている。 <p>② 津波について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の後に津波が来ることを教える。 <p>③ 津波の怖さを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波が来そうな時はどうすればよいかを問いか け、学習のねらいを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震に対する心構えを確認するために、普段の避難訓練から想起させる。 ・東日本大震災の津波の写真→新潟地震の際の津波の写真の順に提示し、新潟県でも津波による被害があったことを知らせ、身近なものとして考えさせる。
【展開】	<p>2. 津波からの逃げ方について考える</p> <p>① 「いなむらの火」(紙芝居)を読む。</p> <p>② 村人はどうして助かったのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波が起きた時は、素早く、高い場所へ避難することが大切なことを確認する。
【まとめ】	<p>3. 津波からの逃げ方について、分かったことを確認する</p> <p>① ワークシートを活用して、学校にいる時、家にいる時、友達といる時など、それぞれの場面について自分の考えを書きせ、意見を発表する。</p> <p>② 今日の学習で分かったこと振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの「1 学校にいる時」は全員で検討させる。 ・「2 家にいる時」と「3 友達といる時」は個々に考えさせる。 ・授業を受けて、分かったことや考えたことをワークシート裏面の「振り返り」に書かせる。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きて津波が来そうな時には、素早く、高い所に避難することを理解することができたか。 ・学校にいる時、家にいる時、友達と遊んでいる時などの場面で、どのような行動をするとよいかを考えることができたか。 	

【授業実践の様子】

6月16日（日） 新潟地震の日に防災授業を実施した。



<新潟地震の写真>

つなみからいのちをまもろう

ねん くみ ほん なまえ()

じしんがおきて、つなみがきそうなとき、どうしますか？
それぞれのじょうぎょうでかんがえてみましょう。

1. がっこうにいるとき.....
.....
.....

2. いえにいるとき.....
.....
.....

3. ともだちとそとであそんでいるとき.....
.....
.....

4階に避難する。
2階に移動する。
高い所に行く。
などの意見が出た。

ふりかえり。

じしんがおきて、つなみがきそうなときのべんぎょうをして、
わかったことや、おもったことを書きましょう。

.....
.....
.....
.....

お家でもルールを作ります。
津波が来たらどうすればよいか分かりました。等

【引き渡しの様子】

H29年度は体育館，H30年度はグラウンドでの引き渡し訓練を行ってきた。どんな状況でもしっかりと保護者へ子どもを引き渡せるように、いろいろな場所で行っている。今年度は教室での引き渡しを実施した。



6) 山潟中学校区（中央区）

対象校：山潟中学校・山潟小学校・桜が丘小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年5月29日 16:00～17:00 会場：山潟中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育の取組について意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	令和元年9月11日 16:00～16:45 会場：山潟中学校	1.第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.その他（次回の日程調整等）
第3回	令和2年1月24日 16:30～17:00 会場：桜が丘小学校	1.第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2.各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 3.令和2年度以降の防災教育の取組にむけた課題の共有)

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
山潟中学校 桜が丘小学校 山潟小学校	令和元年 5月29日	ミーティング	需用費の使い方やゲストティーチャーの例など資料を提示した。
桜が丘小学校	令和元年 5月29日	ミーティング	プログラムの工夫について、発達段階に応じたクイズやゲームというやり方、などアイデア出しを行った。
山潟中学校	令和元年 5月29日	ミーティング	保護者や地域の方に向けたアウトプットで学びを深めることで地域連携とするやり方や、防災教育をキャリア教育に位置づける考え方もあるとアドバイスを行った。
桜が丘小学校	令和元年 6月11日	資料提供	低学年には教室内での身の守り方を中心に、中学年には学校内での身の守り方を中心としたクイズを提供した。
山潟小学校	令和元年 6月15日	参観	参観日を一日防災学習デーと位置付け地域保護者向けに赤十字の方が講座を行い、防災講座を実施、また各学年で防災について学ぶ授業を参観した。
山潟中学校	令和元年 9月10日	電話	地域の方を講師に呼ぶ場合、今後の継続性を踏まえて説明を行うとよいと伝えた。

【6/5 山潟中学校防災講座の様子】



【6/15 山潟小学校 山潟防災デーの様子】



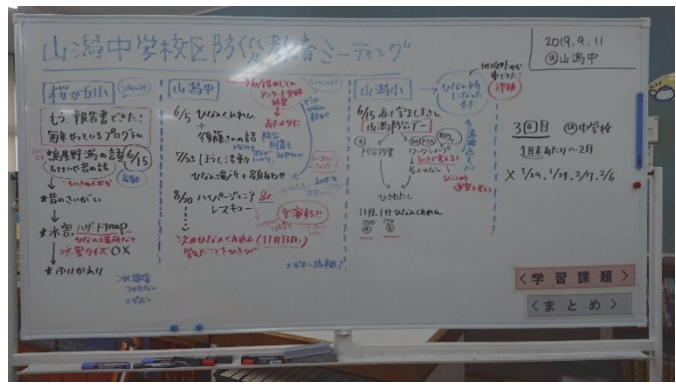
【6/15 桜が丘小学校 防災授業の様子】



【7/23 山潟中学校 避難所ミーティングの様子】



【9/11 中学校区ミーティングの記録】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

山潟中学校区は、川や鳥屋野潟が隣接しており水害や地震時の液状化が想定される地域である。今後の継続性を考えて、これまで行ってきた活動に一工夫加えることで地域や家庭と連携した防災学習に取り組んだ。地域の清掃活動の際、自治会の方との顔合わせや避難所の確認を行った学校、また鳥屋野潟についての学習で地形について地域の方から話を聴き、水害について学びを深めた学校もあった。参観日に「学校が避難所になったらどうする？」を自治会と保護者とともに考えるワークを行い、「災害時にどう行動したらよいか」意識と連携を深めた学校もあった。

今後の継続性を考慮し、もともとあった地域との深いつながりをもとに地域教育コーディネーターが連携の核となり新たなプログラムを実施した。

<山潟中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信濃川，阿賀野川，小阿賀野川，鳥屋野潟で囲まれており，洪水時には水害の危険が想定される。 ・地区の大部分は軟らかい地盤の上に存在するため，地震発生時は強い揺れや液状化現象の発生の確率が高い。 ・地域の学校に対する協力体制が整っており，防災に対する意識も高い。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習や避難訓練などを通じて，災害時に適切な行動が取ることができるようになってほしい。 ・地域での防災に関わる意識をもってほしい。
<p>防災教育において，目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の原因を理解し，防止方法をふまえて意志決定できる。 ・考えられる危険を予測し，防止する行動をとることができる。 ・地域と協力し，防災訓練等に積極的に参加することができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 地震を想定した避難訓練＋防災講演会 ・ 7月 各自治会と連携した全校地域防災教育 ・ 8月 ハイパージュニアレスキュー講習会への代表生徒の参加 ・ 11月 火災を想定した避難訓練＋ハイパージュニアレスキュー講習報告会
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 年2回 ・避難訓練に伴う全校防災学習 ・地域と連携した避難場所での防災学習
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校担当と地域コーディネーターが協力し，地域との連携を取りながら防災教育を進めていく。 ・自校プランの内容を年間指導計画に位置付けて，実践していく。 ・防災学習の内容をデータとして蓄積し，誰でも実践できるようにする。

2. 山瀧中学校 「ふるさと新瀧防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			避難訓練＋防災講演会	地域での全校一斉防災学習				避難訓練＋ハイパージュニアレスキュー報告会				
第2学年					ハイパージュニアレスキュー講習会（代表者）							
第3学年												

3. 山潟中学校 防災教育指導例

中学校全学年		(学習のねらい) 奉仕活動を通して地域との連携を深めるとともに、自分の避難所や避難所での役割などの地域防災についての理解を深める。	
		学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【準備】	<p>1. 地域別集会を行い、当日の流れと活動内容を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のメンバーの確認,集合場所の確認 ・地域の要望に応じた奉仕活動の確認 ・防災学習の内容の確認 	<p>1. 地域別集会を行い、当日の流れと活動内容を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のメンバーの確認,集合場所の確認 ・地域の要望に応じた奉仕活動の確認 ・防災学習の内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ自治会のメンバーで災害時は協力し合うことを確認する。 ・災害時には地域の方と助け合うことを確認する。
【実施】	<p>地域での奉仕活動実施後</p> <p>2. 地域で指定された避難場所や危険箇所を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所を確認しながら,避難場所に移動する。 <p>3. 避難所やその周辺に関する防災に関する情報を共有する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① この自治会の避難場所はどこか。 ② この地区では他にどこが避難場所になっているか。 ③ この地区周辺ではどこが避難場所になっているか。 ④ 津波避難ビルの指定を受けている場所はどこか。 ⑤ 要配慮者利用施設はどこか。 ⑥ 自治会長はどの方ですか。 ⑦ 自治会における防災担当者はどの方ですか。 ⑧ 避難所でできることはなんだろう。 ⑨ 避難所には何を持ってくるとよいだろう。 	<p>地域での奉仕活動実施後</p> <p>2. 地域で指定された避難場所や危険箇所を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所を確認しながら,避難場所に移動する。 <p>3. 避難所やその周辺に関する防災に関する情報を共有する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① この自治会の避難場所はどこか。 ② この地区では他にどこが避難場所になっているか。 ③ この地区周辺ではどこが避難場所になっているか。 ④ 津波避難ビルの指定を受けている場所はどこか。 ⑤ 要配慮者利用施設はどこか。 ⑥ 自治会長はどの方ですか。 ⑦ 自治会における防災担当者はどの方ですか。 ⑧ 避難所でできることはなんだろう。 ⑨ 避難所には何を持ってくるとよいだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域には,どんな危険があるだろうか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路があふれたら危険だ。 ・交通量が多い道路がある。 <p>【資料】 地域の地図</p> <p>【問いかけ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所になっているところを地図で確認しよう。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家は避難所から離れているなあ。 ・津波避難ビルはこの地域には少ない。津波の時はどこに逃げよう。 <p>【問いかけ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で中学生が協力できることはなんだろう。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声を出して誘導する。 ・救援物資を運ぶ。 ・体の不自由な人の手伝いをする。 <p>【地域の要望例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな子どもと遊んであげてほしい。 ・学校だと生徒が一番わかるので誘導に声を出してほしい。

<p>【振り返り】</p>	<p>学校に移動後</p> <p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに今回の取組を自己評価し、感想を記入する。 	<p>ワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時も今回の人間関係を大切にする。 ○ 日頃から避難時のことを想定しておく。
<p>【評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域やその周辺の避難所について、理解を深めることができたか。 ・ 災害時、協力し合う地域の方々と交流することができたか。 ・ 非常用持ち出し品、避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。 	

【授業実践の様子】



【スライド】

Q2

**この地区にある他の
避難場所は
どこですか？**

Q8

**避難所で
できることは
なんだろう？**

<山潟小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童374名の中規模校である。 ・校区は鳥屋野潟，栗の木川に隣接する亀田郷に位置し，居住区域の多くが海拔0m地帯で，津波浸水想定区域に該当している。 ・これまでも自治会ごとに防災訓練を行ってきたが，地区民と学校が連携して取り組む防災教育の充実が課題となっている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟地震の教訓を受け継ぎ，災害発生時に安全に避難するための知識や技能を身に付けて，適切な行動ができるようになってほしい。 ・学校の防災学習や避難訓練で学んだことを地域での災害発生時に保護者や地域住民とともに活用できるようになってほしい。 ・児童・保護者・自治会等が一体となった防災教育を充実させたい。
<p>防災教育において，目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や洪水等の災害発生時に，「自分の命は自分で守る」ことを意識し，落ち着いて行動できる児童。 ・地域合同の防災訓練や日常生活の中での防災活動に関心をもち，進んで協力的に行動することができる児童。 ・防災についての基礎的な知識を身に付けている児童。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生を想定した集団下校訓練。 ・火災，地震・津波・洪水，不審者侵入を想定した避難訓練。 ・防災学習，地域防災訓練，引き渡し訓練等を盛り込んだ防災教育「山潟防災デー」の実施。 ・防災関連備品の点検，整備。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災，地震・津波・洪水，不審者対応の避難訓練に加え，非常ベル聞き取り，引き渡し訓練を合わせて年間5回の避難訓練を行う。その事前・事後学習として新潟県防災教育プログラムの学習を位置付ける。 ・「山潟防災デー」では，日本赤十字社新潟支部と連携し，防災教育の指導，資料の貸与等の協力を得る。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科，総合的な学習の時間，学級活動等で行っている防災に関する学習を「山潟防災デー」や避難訓練，新潟県防災教育プログラムの学習とより関連づけて実施し，学びの充実を図る。 ・「山潟防災デー」を毎年6月，新潟地震の日の前後に行い，児童の防災意識を高めるとともに，災害発生時の対応について学校・家庭・地域が連携して防災活動に取り組む場として定着させる。

2. 山瀧小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<p>集団下校訓練・非常ベル聞き取り訓練</p>	<p>新潟県防災教育プログラム「地震災害・津波災害・洪水災害」の学習</p>	<p>地域合同防災訓練「山瀧防災デー」 防災ワークショップ・屋上避難・保護者引き渡し訓練</p>	<p>新潟県防災教育プログラム「土砂災害」の学習</p>	<p>災害時の家庭での行動を話し合う</p>	<p>地域の危険箇所を確認する</p>	<p>災害発生時の自分の役割を確認する</p>	<p>不審者侵入対応避難訓練</p>	<p>新潟県防災教育プログラム「原子力災害」の学習</p>	<p>火災対応避難訓練</p>	<p>新潟県防災教育プログラム「雪災害」の学習</p>	<p>降雪時対応避難訓練</p>
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 山潟小学校 防災教育指導例

小学校全学年 (3時間)	(学習のねらい) 防災授業やワークショップ等の活動を通して災害や防災に関する知識や心構えを学ぶとともに、避難訓練や引き渡し訓練を行うことによって災害時に適切に行動する力を高める
-----------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震や津波について復習し、今日1日の学習の見通しをもつ(15分) <ul style="list-style-type: none"> 各学級で地震や津波、洪水についての既習事項を振り返る。 今日は「山潟防災デー」として、今まで学習したことを生かし、地域の人と一緒に防災について学ぶことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟地震やその他の地震、津波の写真や統計などの資料を提示する。(東日本大震災の避難児童には、個々の心情により、画像を見せない等の配慮を行う。) 新潟地震が起きた6月16日の前後に防災学習を行う意義を説明する。今日の「山潟防災デー」では、多様な体験や学習を通して、防災について深く学ぶことを示し、学習への意欲を高める。
【展開】	2. 全校防災ワークショップを通して災害や防災についての知識や考え方を学ぶ(30分) <ul style="list-style-type: none"> 体育館に集合し、たてわり班ごとにグループを作る。 防災学習「クロスロード」を実施する。 前半は、災害についてのクイズを行い、後半は、災害が起きた時の判断について話し合う。保護者や地域の人もグループに加わる。 グループの代表が話し合ったことを発表し、意見交換を行う。 3. 地震発生、津波警報発令時にとるべき行動や心構えについて考える(30分) <ul style="list-style-type: none"> 学級に戻り、学年の発達段階に応じた学習を行う。 地震発生によって津波が起きる危険性を知り、津波から身を守る方法を考える。 ワークショップで話し合った内容をふまえて個々に考えをもつようにさせる。 グループや学級全体で話し合う。 4. 地震発生、津波警報発令時時の避難訓練を行う(30分) <ul style="list-style-type: none"> 緊急放送の指示により、机などの下に入って身を守る。 次の放送で屋上に避難する。 屋上で全体指導を行い、各教室に戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師として、日本赤十字社新潟支部、間嶋祐樹様をお招きする。 【問題の例】 [大きな地震が起き、小学校の体育館に避難することになりました。家には可愛がっている犬がいます。あなたは避難所にその犬を連れて行きますか?] 何が正しい判断か一概には言えない問題を提示する。様々な角度から検討し、最初に良いと考えた方法にも見直すべき点があることに気付かせる。 【学習課題】 [津波が来ることが予想される時、どのようにして身を守ればよいだろうか] 【予想される答え】 [高い所に逃げる。できるだけ短い時間ですばやく逃げる。忘れ物をして戻らない] 等 資料「まもるいのち ひろめるぼうさい」(青少年赤十字防災教育プログラム)を活用する。 【想定】 [日本海沖を震源とする大地震が発生し、新潟県沿岸に大津波警報が発令された] 「押さない・走らない・しゃべらない」の「おはし」を徹底する。

【計とめ】	<p>5. 学習してわかったことをまとめる（20分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、「授業の感想」などを書いて発表し合う。 <p>6. 児童引渡し訓練を行う（30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰りの支度をして体育館に集合する。 体育館で保護者に児童を引き渡す。 「引き渡しカード」にチェックしながら、一人一人確認して引き渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学習全体を振り返り、新たに知ったことや大切だと思ったことなどを出し合い、今後災害が起こった時の心構えや日頃の防災についての考えを深める。 最後まで気を引き締めて、指示に従って行動できるようにする。 引き渡し方法について事前に保護者に周知し、当日も全体説明を行ってスムーズに進行できるようにする。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習や避難訓練を通して、防災に対する関心が高まり、災害時に望ましい行動をしようとする意識が強まったか。 防災学習に積極的に取り組み、屋上への避難訓練や引き渡し訓練を真剣な態度で行うことができたか。 異学年の児童や地域の人と協力して活動することができたか。 防災についての正しい知識や考え方を身に付けることができたか。 	

【授業実践の様子】



【防災ワークショップ①】
災害についてのクイズを解く。



【防災ワークショップ②】
たてわりグループで意見を述べ合う。



【学年別防災授業】
津波が予想される時、どうするかを考える。



【津波対応避難訓練①】
全校児童が屋上へ避難する。



【津波対応避難訓練②】
保護者、地区民も屋上へ避難する。



【引き渡し訓練②】
チェックリストを用いて確実に引き渡す。

<桜が丘小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の海拔は0.4mで、地震や洪水時（2階以上）の避難場所となる。 ・地区の大部分が柔らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。特に、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。 ・津波による浸水は、地区北部の栗の木川沿いで想定されている。 ・阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、鳥屋野潟流域の洪水及び小阿賀野川・能代川の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、信濃川下流の洪水では、地区全域の浸水が予想される。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、地震・津波想定、火災想定、不審者想定 of 訓練を毎年行っている。繰り返しの訓練で、児童が安全かつ迅速に行動できるようになってほしい。また、自分で判断し、自分の身を守るための行動ができるようになってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの地域の成り立ちや災害の歴史を知り、起こりうる災害の危険性について理解する児童。 ・自分の身は自分で守ることができる児童。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災授業参観（6/15） 1年：「学校で地しんがおこったら」 2年：「地しんから身を守ろう」 3年：「家やまちで地しんが起こったら」 4年：「洪水から身を守るには？」 5年：「防災グッズについて考えよう」 6年：「災害時に必要な物を考えよう」 特別支援学級：「防災グッズを作ろう」 ・例年通り、下記の内容も実施。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練（地震・津波，火災，不審者） ・年3回の通報訓練（不審者） ・「新潟県防災教育プログラム」や「青少年赤十字防災教育プログラム」を活用した防災学習（地震・津波，洪水・土砂，原子力，雪害）※学習参観あり ・引き渡し訓練1回 ・集団下校訓練1回 ・保護者向け防災学習（地震・津波）※引き渡し訓練時 ・各町内子ども会での安全マップ作りと確認（交通安全・不審者・水）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練や防災学習を年間行事予定，各学年の年間指導計画に位置付け，毎年，同じ時期に計画的に実施する。 ・学習内容，資料，ワークシート，プレゼン等を「防災学習ファイル」やPCの防災フォルダに保存し，毎年，誰でも実践できるようにする。

2. 桜が丘小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年	不審者を想定した通報訓練		新潟県防災教育プログラム等を活用した「地震・津波(洪水)」に関する防災学習 地震・津波を想定した避難訓練 引き渡し訓練	新潟県防災教育プログラムを活用した「洪水・土砂」に関する防災学習			不審者を想定した通報訓練	火災を想定した避難訓練	新潟県防災教育プログラムを活用した「原子力」に関する防災学習			
第5学年		不審者を想定した通報訓練										
第6学年									不審者を想定した避難訓練			
									新潟県防災教育プログラムを活用した「雪害」に関する防災学習			

3. 桜が丘小学校 防災教育指導例

小学校 4 学年	<p>(学習のねらい) 低い土地での水害からの身の守り方を学ぶ</p> <p>・地震、津波、洪水が起きた時の危険性を知り、日頃から備えておくこと(避難場所・家族の携帯番号)を確認する。</p>
-----------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 地域を知り、災害との結びつきを考える</p> <p>① 「地球にやさしい桜が丘」(総合的な学習の時間) 鳥屋野潟の話聞こう！ ～昔の鳥屋野潟はどんな様子だったのかな？～ 山潟地区社会福祉協議会会長 田中保夫氏の講演を聞く。</p> <p>② 地域の地形の確認をする。(桜が丘は、周りを川で囲まれた低い土地であること、鳥屋野潟は海拔-3mであること)</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <p>・桜が丘はどんな土地かな？</p> <p>【想定される答え】</p> <p>・信濃川、栗の木川、鳥屋野潟が近い。 ・他にも潟がたくさんある。 ・海より低い。</p> <p>【資料】</p> <p>S 30 年頃、戦国時代の頃の地図、亀田郷の断面図</p>
【展開】	<p>2. 過去の災害と被害を知る</p> <p>① 新潟地震(S39)、その後の津波の様子(写真)を見て地震の後には津波が起こる場合があることを理解し、津波から身を守るために「津波に関する標識」を知る。</p> <p>② 大雨(H10)の様子を見て、洪水の危険性、気を付けること、浸水してしまう理由をおさえる。</p> <p>3. 日頃から備えておくべきことを知る</p> <p>① いざというときに、ちゃんと避難するために、日頃からどんな準備をしておくべきかを考え、次の点をおさえる。</p> <p>1) 洪水ハザードマップで自分の家の避難場所を確認しておく。</p> <p>2) 家族と離ればなれの時のために、家族の携帯番号を言えるようにしておく。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <p>・津波に関する標識です。分かるかな？</p> <p>【想定される答え】</p> <p>・津波 ・高いところに避難 ・建物に避難</p> <p>【資料】</p> <p>・津波注意 ・津波避難場所 ・津波避難ビル ・津波に関する交通情報</p> <p>【問い掛けの例】</p> <p>・大雨が降ってきたら、どのように身を守る？</p> <p>【想定される答え】</p> <p>・高い所へ逃げる。 ・川に行かない。 ・ニュースを見る。</p> <p>【問い掛けの例】</p> <p>・洪水の時、どんな避難が考えられますか？</p> <p>【想定される答え】</p> <p>・川から水があふれると、家の周りは〇mも浸水する。 ・家の避難場所は□□学校だ。・母の携帯番号は×××だ。・携帯番号が分からないから覚える。</p> <p>【資料】</p> <p>・洪水ハザードマップ(栗の木川、信濃川)</p>

【まとめ】	<h3>4. 学習してわかったことを確認する</h3> <p>① 水害〇×クイズを行う。</p> <p>② ワークシートに、振り返りを書かせて、発表する。</p>	<h3>【ポイント】</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○高い所へ避難。○外を出歩かない、水に近づかない。 ○情報に注意。○避難場所を確認。 ○家族の携帯番号が言える。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域は低い土地であることを知り、洪水の危険性を理解できたか。 ・避難のしかたや避難情報を知る方法、自宅の避難場所を理解することができたか。 ・避難場所や家族の携帯番号などを確認しておく必要性を理解することができたか。 	

【授業実践の様子】



【板書】

防災学習

桜が丘
川に囲まれた
低い土地だった

学習かだい

水から身を守るには
どうしたらよいのだろうか。

高い所へ
にげる

日本海
信濃川↓
粟の木川↓
鳥屋野湯↑

津波に関する標識 正解

津波注意 津波避難場所 津波避難ビル

大雨

道路が水につかると危険なこと

- ・水の中を歩くと流される。
- ・マンホールにすいこまれる。
- ・切れた電線からろう電する。

大雨がふってきたら

- ・水からつかからない(高い)ところにいる。
- ・(外)を出歩いたり、流れる(水)に近づかない。
- ・情報に注意する。

まとめ

- 高い所へ
- 外を出歩かない
- 水に近づかない
- 情報に注意
- ひなん場所をかくにんする。
- 家族の電話番号が言えること

振り返り

〇×クイズ

7) 亀田西中学校区（江南区）

対象校：亀田西中学校・早通小学校・亀田西小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年6月6日 16:00～16:45 会場：亀田西中学校	1.地域教育コーディネーターの方に向けた事業の説明 2.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 3.その他（情報共有・意見交換）
第2回	令和元年9月30日 16:00～16:45 会場：亀田西中学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他（情報共有・意見交換）
第3回	令和元年12月5日 16:00～16:45 会場：亀田西中学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他（情報共有・意見交換）

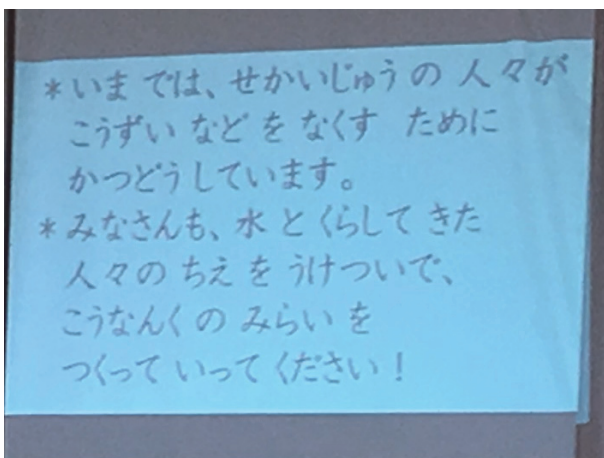
② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
亀田西小学校	令和元年 5月30日	電話相談	洪水に関する防災学習についての資料提供・プログラム提案など依頼受付。 予算書の提出にあたって需用費使用についての相談対応。
亀田西中学校 早通小学校 亀田西小学校	令和元年 6月6日	資料提供	5月9日研修会の振返りや地域教育コーディネーター向けの事業説明資料、防災教育に活用できる各種印刷資料等を提供。
亀田西小学校	令和元年 6月6日	打合せ 資料提供	構想段階の下学年、上学年ごとの洪水災害に関する防災学習についての相談対応。国交省カードゲーム「このつぎなにがおきるかな」静岡大藤井研究室絵本「ぐるぐるくもがくるぞ」等参考資料を提供。
亀田西小学校	令和元年 8月28日	打合せ	下学年、上学年ごとの洪水学習についての相談対応。プログラムに対する助言。防災士を絡めた学習についての相談対応。
亀田西中学校	令和元年 9月30日	資料提供	避難訓練後の短時間での洪水に関する防災学習で活用できる資料の紹介・ミニレクチャー。
亀田西中学校	令和元年 10月7日	資料提供	避難訓練後の短時間での洪水に関する防災学習で活用できる資料データ提供。補足説明。
亀田西小学校	令和元年 10月10日	資料提供	下学年向け洪水防災学習における簡単なクイズの参考資料提供。補足説明。
亀田西小学校	令和元年 10月30日	参観	郷土資料館館長による地域の土地の成り立ちの話、地域の防災士によるクイズで構成された下学年向け洪水学習の参観。
亀田西小学校	令和元年 10月31日	参観	郷土資料館館長の話、自治会長による過去の水害の話、区職員による区取組の話で構成された上学年向け洪水学習の参観。
亀田西中学校 早通小学校 亀田西小学校	令和元年 12月5日	資料提供	台風接近時・洪水時の情報収集の仕方について活用できる情報源をまとめた資料の提供。資料に関するミニレクチャー。

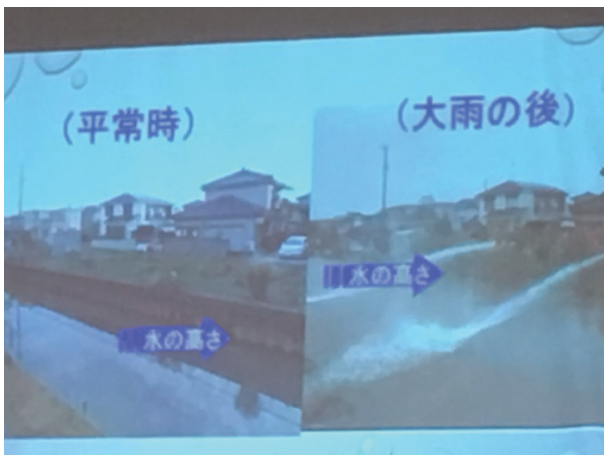
【5/30 亀田西小学校資料提供（一部）】



【10/30 亀田西小学校下学年 郷土資料館館長の話】



【10/31 亀田西小学校上学年 自治会長の話】



【10/7 亀田西中学校資料提供（一部）】

こんな時どうしますか？

10月の日曜日の朝
前日から降り続いた大雨のため
区から避難勧告が出された
外を見ると膝くらいまで水が溜まっている
視界が悪くなるほどの強い雨が降っており
これからまだ降り続きそうだ

そのまま家にとどまりますか？
別の場所へ避難しますか？

【10/30 亀田西小学校下学年 防災士クイズビンゴ】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

亀田西中学校区は、信濃川・阿賀野川に囲まれた低地で昔から水害の危険性があり、避難場所も限られる地域である。どの学校も指定を受ける前から一定程度の防災教育が自校化されていた。特に亀田西中学校ではジュニアレスキュー、冬期ゴミ出しボランティアなど地域と連携した取組があり、早通小学校では、地域合同の防災訓練の昼食時に地域ごとに集まり、児童と住民が交流する時間が設けられているなど、数年間地域交流の取組が続いている。亀田西小学校ではこの事業をきっかけに、校区の被災写真が収集できたり、浸水経験を話せる方、川の恵みについて話せる方との繋がりができたりして、新たなプログラムの実施に至った。

< 亀田西中学校 >

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>地域全体が低地で、海拔0メートルの区域も多い。昔から低湿地であったこの地域には排水機が多く整備されており、洪水への備えも万全であることから滅多なことでは水害が起きないが、阿賀野川と信濃川という2大河川に挟まれている地域でもあるため、これらの河川が溢れば、浸水地域が広範囲となり、学区全体が水に浸かる想定である。亀田西中学校もその中に位置している。</p> <p>以上のことから、地域の優先ハザードは、水害である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>日頃から防災への意識を高く持ち、いざというときには適切な避難行動ができるようになってほしい。また、災害時には、地域の一員として周りの人と助け合い、できることを行動に移せるようになってほしい。そして、いずれは地域の防災を担う存在になってほしい。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から防災に備え、災害時には落ち着いて適切な避難行動をとることができる。 ・実際に災害が起きた際には、自分の身を守りながら、地域の中で必要な役割を担うことができる。 ・AED操作、担架運び、消火器操作などの、具体的な技能を身に付けている。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学一年生に対するジュニアレスキュー教室。 ・土砂災害に関する防災授業。 ・洪水に関する防災授業。ハザードマップを使用。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学一年生に対するジュニアレスキュー教室。 ・避難訓練（年2回）。 ・防災授業（年2回。今年度は土砂災害と洪水）。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（コミ協、地域コーディネーター、消防署、区役所等）との連携。 ・避難訓練とのセットで行う防災授業の継続。 ・防災授業の内容を常に最新のものに更新していくこと。


2. 亀田西中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年	自転車通学生指導											
第3学年		シユニアレスキユ-教室(一年生)	第一回避難訓練(地震)・防災授業(土砂災害)									
								第二回避難訓練(火災)・防災授業(洪水)	冬期ゴミ出しボランティア			

3. 亀田西中学校 防災教育指導例

中学校1学年

- (学習のねらい) ①自分たちが地域防災の力であることに気づく。
②地域防災の力になるための知識やスキルを身に付ける。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 開会式 <ul style="list-style-type: none"> ・ 江南区副区長挨拶 ・ 校長挨拶 ・ 消防署員，消防団の講師紹介 	
【展開】	2. 講話「防災意識の向上と隊員の心構え」(10分) 3. 体験(80分) <ol style="list-style-type: none"> ①心肺蘇生とAED操作 ②応急担架，搬送法 ③消火器の使用方法 <ul style="list-style-type: none"> ※①は3～4人グループ ※②③は2班に分け，交互に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区役所地域総務課の方からのお話。 ・ 体験に重点を置き，全ての体験を全員ができるように，グループを入れ替えるなどして実施。 ・ 体育館で①，武道場で②，体育館入り口外で③を実施。 ・ ①～③まで，消防署の方と消防団の方が，グループに一人ずつ入って指導して下さった。
【まとめ】	4. 閉会式 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講評 ・ 認定証授与 ・ お礼の言葉（学年委員長から） ・ 挨拶 	
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心肺蘇生のやり方やAEDの使用方法が分かったか。 ・ 応急担架の作り方と，それを使った搬送法が分かったか。 ・ 消火器の使用方法が分かったか。 ・ 地域防災の一員としての意識が高まったか。 	

【授業実践の様子】



講話の様子



心肺蘇生と AED 操作体験の様子



応急担架，搬送法体験の様子



消火器の使用方法体験の様子



ジュニアレスキュー教室は、地域の方々と連携して行っている歴史ある取組です。もともとは、中越地震の後に地域の方々の中に芽生えた問題意識「地域防災の要となる若者を育てねば」からスタートしました。いち早く地域ぐるみで防災教育に取り組んでいる事例です。

<早通小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学校は、江南区の豊かな田園地帯に位置している。信濃川には3mの土手があり、さらには学校までは広く田畑が広がっている。これらのことから、洪水時浸水の可能性は低いとされているが、日頃の備えは欠かせない。</p> <p>保護者、地域は、学校に関心があり協力的である。学校・地域合同の防災訓練では、事前の打ち合わせを綿密に行い、学校の要望に臨機応変に応えてくれている。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>地域の自主防災会と学校とが連携し、地域ぐるみで防災意識の高揚を図っている。学校・地域合同防災訓練を毎年行っている。合同で行うことにより、参加者は250名を超え、保護者や地域、教職員にとって有意義な訓練となっている。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>【低学年】○安全な行動の大切さが分かり、安全のためのきまりや約束を守ることや身の回りの危険に気付くことができる。</p> <p>○危険な状態を見つけた場合や災害時には、近くの大人に速やかに連絡し、指示に従う等の適切な行動ができる。</p> <p>【中学年】○災害安全に関する様々な危険の原因や事故の防止について理解し、危険に気付き、自ら安全な行動をとることができる。</p> <p>【高学年】○中学年までに学習した内容を一層深め、様々な場面で発生する危険を予知し、安全な行動ができる。</p> <p>○自分の安全だけでなく、家族等の身近な人々の安全にも気配りできる。</p> <p>○簡単な応急手当ができる。</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>○火災発生時の避難訓練 ○不審者対応の避難訓練 ○全学級での防災学習</p> <p>○学校・地域合同防災訓練（6月22日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの避難、地域毎に集まっての活動、災害が起きたらどこに避難するかについての話し合い ・防災講話 ・防災体験 ・児童引き渡し
<p>自校プランの内容</p>	<p>地域の自主防災会やコミュニティ協議会と連携し、学校・地域合同防災訓練を毎年実施する。内容を充実させ、実行力のある訓練となるように改善していく。また、校内での訓練では、外部指導者を有効に活用していく。</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>防災訓練の地域のプランと学校の意図をそれぞれ明確にし、連携を密にしてい</p> <p>く。実施後には、改善点を指摘し合い、次年度に生かすことができるようにする。また、日頃から地域と学校の交流を図り、地域の人材を把握し、適材適所に活用できるように、情報収集していく。</p>

2. 早通小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	地震災害・津波災害学級活動（全校）	地震・火災発生時の避難訓練（全校）	学校・地域合同防災訓練（全校）	全市一斉地震対応訓練（全校）	洪水災害・土砂災害学級活動（全校）	不審者対応避難訓練（全校）	緊急地震速報訓練（全校）	雪害についての学級活動（全校）				
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 早通小学校 防災教育指導例

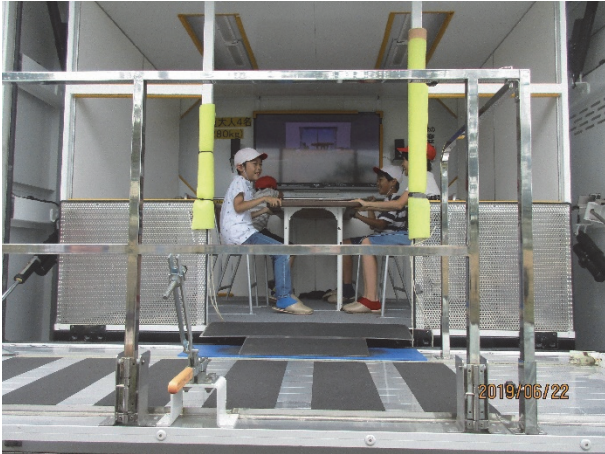
小学校全学年 (学習のねらい) 早通小学校が避難所になっている地域と学校とが合同で防災訓練を行うことで、非常災害時の避難や避難所の運営の仕方を確認し、協力して命を守ることの重大さを実感する

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 避難訓練をする</p> <p>① 非常放送1を聞く。 ・自分の体を守る。安全な場所で、地震をやり過ごす。</p> <p>② 非常放送2を聞く。 ・避難の内容を良く聞き取り、安全に避難する。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机の下に身を隠し、机の脚を押さえる。 ○ 日頃から赤白帽子を机の横に掛けておく。 ○ 全て無言で行う。 ○ どこに、どのように避難すれば良いかを聞き取る。 ○ 「お・は・し・も・て」の合い言葉で避難する。 押さない・走らない・しゃべらない・戻らない 低学年優先
【展開】	<p>2. 避難所開設</p> <p>① 指示 ・指示に従い、学年の避難並びから、登校班並びになる。 ・登校班の並びが完了した後、地区の場所へ移動する。</p> <p>② 地区の場所へ移動後、人数確認</p> <p>3. 非常食体験</p> <p>① α米を食べる。</p> <p>② 食事を通して、児童と地域住民がお互いを知り、交流することを目的とする。 ・自己紹介(名前や家の特徴、自分の家はどこにまず避難するか等)</p> <p>4. 防災教室</p> <p>① ハザードマップに関わる講話 講師：区地域総務課</p> <p>② 体験教室 講師：江南消防署・消防団 「簡易担架作り」「起震車」「土嚢作り」「消火器」</p> <p>③ 教室での振り返り</p> <p>5. 引き渡し訓練</p> <p>① 体育館に静かに整列し、引き渡し訓練を行う。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館に避難しても、まだ安全が完全に確保されたわけではないので、よけいなおしゃべりはしない。 ○ 地区の地域の方と合同で並ぶために、良く指示を聞くことと、自分の地域がどこに集まっているかを見て移動先を判断する。 <p>【想定される自己紹介内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私の名前は〇〇です。家は〇丁目の～にあります。何かあったら、私の家は〇〇公園に避難して待ち合わせます。」 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自助と共助について理解する。 ○ 小グループに分かれて実際に体験できるので、一人一人が体験して、災害が起こったときや減災のための対処行動を身に付ける。 ○ 確実に、保護者に引き渡すために、体育館で静かに座って待つ。
【まとめ】	<p>6. 振り返り</p> <p>① 振り返りノートに振り返りをさせたり、発表させたりする。</p>	<p>【想定される振り返りの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「江南区は洪水の危険性が高いので、今回の土嚢作りがとても役に立つことだと分かった。これで、いつでも作ることができる」

【評価】

- ・安全に避難するための「お・は・し・も・て」を守ることができたか。
- ・ハザードマップから自宅周辺や学校周辺等，地域の洪水の危険性，自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。
- ・自助，共助について理解することができたか。
- ・非常用持ち出し品，避難方法を日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。
- ・地震が起こった時の対処や減災のための土嚢作り，消火器の使い方，担架作りのやり方が分かったか。

【授業実践の様子】



【起振車体験】

- ・児童や地域の方が一緒に乗って，体験した。
- ・激しい揺れのため，しっかりつかむことを体験を通して学ぶことができた。



【土嚢作り】

- ・早通地域は，洪水が関係していることから，自分にできる土嚢作りのポイントを教わりながら，実際に作った。



【消火器体験】

- ・1人1回，水が出る消火器で体験した。
- ・手順を教えてもらいながら，1つずつ確認して練習をした。



【担架作り】

- ・物干し竿2本と毛布1枚を使って作った。
- ・実際に子どもたちが乗って，運ぶ経験をしたり運ばれたりする経験をした。

児童の振り返り（抜粋）

今回，非常時の対応と災害の恐ろしさを学びました。地震や洪水はいつやってくるかも分からないし，どんな強さの揺れがくるのかも分からないから，今回学んだことを，今後の生活を続けていくための備えにしたいです。

<亀田西小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、信濃川と阿賀野川、及び小阿賀野川に囲まれる江南区の中心にあり、海拔1m未満の個所が多い。 ・「地図にない沼（芦沼）」と言われてきたほど土地が低く水害にもたびたび遭ってきた。 ・現在は排水路が整備され、20年以上も洪水災害はないが、その分、洪水に対する避難意識が薄くなっている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年に一度、当小学校区でコミュニティ協議会主催の地区防災訓練を実施しており、地域住民の防災意識は高い。しかし、児童の参加率は高くなく、児童にはもっと防災意識を高めてほしいと願っている。 ・学校では毎年、地震・火災・不審者対応の避難訓練を行っている。洪水に関しては防災教育プログラムに基づき各学級で指導している。さらに、防災意識を高めたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全について正しく理解し、自分から安全に行動できる子ども。 ・自分の住む地域について、起こりうる災害・危険個所・避難方法・避難場所等を理解し、非常時に落ち着いて行動できる子ども。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアと集団下校訓練。 ・年間3回の校内避難訓練。（地震・火災・不審者対応） ・児童引き渡し名簿の作成。 ・体験型安全教室。（1年生 不審者対応） ・自転車交通安全教室。（3年生）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の計画的な実施と反省。 ・県防災教育プログラムの確実な実施。 ・下学年、上学年に分かれて、洪水を重点に防災意識の高揚を目指した防災学習の実施。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年に一度のコミュニティ協議会主催の地区防災訓練への参加の促進をする。校内の避難訓練とともに、年間行事に優先的に位置づける。 ・県防災教育プログラムをカリキュラムに位置付け、計画的に取り組めるようにする。 ・洪水防災について、ゲストティーチャーのリストを作成したり、使った資料を使いやすいように保管したりしておく。

義援金

2. 亀田西小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
第1学年	児童引き渡し名簿作成	集団下校訓練	体験型 安全教室	第一回避難訓練（授業中・地震）				第二回避難訓練（休業中・不審者）					
第2学年													
第3学年													
第4学年													安全教室 自転車
第5学年													安全教室
第6学年													防災教育イベント（洪水）
								防災教育イベント（洪水）					

3. 亀田西小学校 防災教育指導例

小学校下学年		(学習のねらい) 江南区の土地が低いことを知り、洪水から身を守るためにしなければいけないことを考える
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 江南区の土地の様子や歴史を知る ① 江南区の土地が低いことを知る。 ② 水害がたびたび起こっていた地域であること、「芦沼」と呼ばれ、水がたまった土地であったことを知る。	【問いかけの例】 (江南区郷土資料館の館長さんのお話) ・江南区の土地の低い様子や、昔の生活の様子はどうかだったでしょう。 【資料】 ・3つの川に囲まれた江南区の地図。 ・明治～昭和の生活や農業の様子の写真。
【展開】	2. 身近な洪水の様子について知る ① 平成11年に起こった亀田町の水害の写真を見る。 ② 令和元年11月に起こった台風19号による被害の様子を映像で見る。	【問いかけの例】 ・一番最近起こった水害はどうかだったでしょう。 【資料】 ・平成11年に起こった亀田町の水害の写真。 ・令和元年10月に起こった台風19号のニュース番組の映像。
【まとめ】	3. 洪水に対する備えについて考える 3択クイズを9問出し、ビンゴの形で答えさせる。その場で答えと解説を言い、洪水についてまとめる。	【問いかけの例】 (防災士さんのお話) ・洪水が起こったとき、どう行動したらよいでしょう。 【資料】 ・3択クイズを9問。 ・ビンゴカード。
【評価】	・私たちの住んでいる江南区が、洪水の起こりやすい土地であることが分かったか。 ・洪水が起こったとき、自分たちがしなければいけない行動と、その仕方が分かったか。	

3択クイズと解説の例

Q かぞくで やくそくして おかなければ ならないことは なにかな。①どこに ひなんしたら いいか、はなしておくこと。②おたんじょう日に もらう おもちゃのこと。③ディズニーランドに いく日をきめておくこと。

解説 あなたたちが一番にすることは、命を守ることです。次に大事なことは、家の人と早く会うことです。あなたたちが学校で、家の人会社がにいるときもあります。災害の時に、どこで会うかを話して決めておいてください。



川 から あふれる 水

川にかこまれたばしょでは、川から水があふれる時もあった(「こうずい」)。

①こうずいがきたときいちばんにすることはなにかな。

- 1 つくえの 下にもぐる。
- 2 ハンカチを 口にあてる。
- ③ たかいところに ひなんする。

小学校上学年		(学習のねらい) 江南区の土地の様子や歴史について知り、洪水から身を守るための方法や市の対策、日頃からの備えについて考える
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 江南区の土地の様子や歴史を知る ① 江南区の土地が低いことを知る。 ② 水害がたびたび起こっていた地域であること、「芦沼」と呼ばれ、水がたまった土地であったことを知る。 ③ 排水機・揚水機・排水路が整備されていることを知る。	【問いかけの例】 (江南区郷土資料館の館長さんのお話) ・江南区の土地の低い様子や洪水の歴史はどうだったでしょう。現在の江南区が乾いた土地になっているのはどうしてでしょう。 【資料】 ・3つの川に囲まれた江南区の地図。 ・明治～昭和の生活や農業の様子の写真。 ・現在の江南区の航空写真。
【展開】	2. 身近な洪水の様子について知る ① 平成11年に起こった亀田町の水害の様子を知る。 ② 令和元年10月に起こった台風19号による被害の様子を映像で見る。 3. 洪水に対する江南区の対策について知る ① 江南区のハザードマップについて知る。 ② 校区の指定されている避難所について知る。 ③ 避難情報について知る。	【問いかけの例】 (中島大月地区自治会長さんのお話) ・平成11年に起こった亀田町の水害の時はどうだったでしょう。 【資料】 ・平成11年に起こった亀田町の水害の写真。 ・令和元年10月の台風19号のニュース番組の映像。 【問いかけの例】 (区役所地域総務課さんのお話) ・災害が起こった時の避難の仕方を、区(市)ではどう考えているでしょう。 【資料】 ・ハザードマップと避難所の地図。 ・避難情報5段階の表。
【まとめ】	4. 洪水に対する備えについて考える 3択クイズを4問答えさせる。その場で答えと簡単な解説を言い、洪水についてまとめる。	【資料】 ・クイズ4問。
【評価】	・江南区の土地の様子と水害の歴史が分かったか。 ・区(市)が防災に向けて取り組んでいる内容が分かったか。 ・洪水が起こった時の行動の仕方や、日常の備えについて分かったか。	



8) 新津第五中学校区（秋葉区）

対象校：新津第五中学校・新津第二小学校・阿賀小学校・新関小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年6月6日 15:00～16:30 会場:新津第五中学校	1. 5/9（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換）
第2回	令和元年9月13日 15:30～16:30 会場:新津第五中学校	1. 各校での防災教育の進捗について（情報共有） 2. 地域等との継続可能な連携について（意見交換）
第3回	令和元年11月25日 15:30～16:30 会場:新津第五中学校	1. 各校の自校化プランについて（情報共有） 2. 防災教育の継続に向けた課題について（意見交換）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
新津第二小学校	令和元年 5月13日	電話相談 資料提供	6/14（金）に災害時児童引き渡し訓練・防災講座を行うため、子どもと保護者が一緒に学べる内容を提案してほしい。コンソーシアムが講師として、調整を進める。
阿賀小学校	令和元年 5月14日	電話相談 コーディネート	6/15（土）に実施する全校防災教室にて、1年～4年生の児童（各学年40～50名）を対象に体験的な学習を行いたい。内容の提案及び講師の調整を行う。
新津第五中学校 新津第二小学校 阿賀小学校 新関小学校	令和元年 6月6日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
阿賀小学校	令和元年 6月7日	資料提供	6/15に実施する防災講座（煙体験・バケツリレー）の打合せにて、当日の流れや会場確認を実施した。防災士4名がバケツリレー、コンソーシアムが煙体験を担当する。
新津第二小学校	令和元年 6月14日	講座	災害時児童引き渡し訓練・防災講座にて、全校児童とその保護者を対象に、地震災害からの身の守り方や事前にできる備えについて防災講座を実施した。
阿賀小学校	令和元年 6月15日	講座	全校防災教室にて防災士4名とコンソーシアムとで、1学年から4学年を対象とした体験型の防災講座にて煙の中の避難体験とバケツリレーの体験を実施した。
新津第五中学校	令和元年 6月18日	電話相談 コーディネート	11/13に全校防災学習（地震）を行うため、講師の紹介依頼を受けた。山潟中学校地域教育コーディネーターの後藤素子氏を調整し、今後講師と学校とで内容を詰めていく。
新関小学校	令和元年 10月15日	電話相談 コーディネート	11/21の防災学習の講師紹介依頼を受けた。日本赤十字社新潟支部と調整をしたが、後日、予定が合わずに対応不可との連絡があった。コンソーシアムでサポートする。

新関小学校	令和元年 10月30日	電話相談 資料提供	11/21の進め方について講師とサポーター、学校の役割について打合せを行った。講師はふるさと未来創造堂が行う。計画資料等を作成し、送付した。
新関小学校	令和元年 11月21日	講座	全校防災教室にて、全校児童とその保護者、地域住民と居住地域ごとのグループで、地震災害時の身の守り方やゆれが収まった後の避難場所と避難経路について話し合った。

【6/6 新津第五中学校区ミーティングの様子】



【6/14 新津第二小学校 親子防災講座の様子】



【6/15 阿賀小学校 全校防災教室の様子】



【11/25 新津第五中学校区ミーティングの記録】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

新津第五中学校区では、今後の継続性を考慮し、既存の活動を一工夫して、家庭・地域と連携した防災教育に取り組んだ学校があった。また、地域について詳しい自治会役員や秋葉区の防災士、外部講師等と連携し、今後も防災教育を継続していくためのサポート体制づくりに挑戦した学校もあった。

外部講師を招き、山形県沖地震や東日本大震災、新潟県中越大震災の災害について学習し、どのように行動して自分の命を守るのか、命を守った後、自分たちには何ができるのか、普段からどのような準備が必要なのか等を考えた。その学習を通じて、子どもも大人も自然災害を自分事として考えられる活動や工夫に取り組んでいた。

<新津第五中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、定期的な避難訓練等を小・中学校で行ってきており、防災に対する意識はあるものの、地震・水害等で大きな災害に遭遇していない生徒が多く、自分事として災害をとらえている生徒は多くない。 ・旧新津市内屈指の学区面積を有し、高速道路やバイパスの開通及び拡幅、地域学園の再開発などによって地域の様子は大きく変貌しつつある。中学校の海拔は6.7mである。大雨により阿賀野川がはん濫危険水位まで達し、避難を実施したことがあった。地域の優先ハザードとしては、水害の優先順位が高い。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分がどのような行動を取れば良いのか自分で判断し、命を守る行動がとれる生徒を育成したい。→自分の命は自分で守る生徒の育成（自助） ・災害時に自分の安全を確保した上で、家族、地域のために何ができるかを考え実践しようとする態度を育成したい。→貢献できる生徒の育成（共助）
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から防災に対する意識を高め、身の周りの危険を考えることができる。 ・自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け、災害時には危険を自ら察知し、率先して安全を確保するための行動ができる。 ・災害時の発生時や発生後に、家族、居住地域の安心・安全に対して、一人一人何ができるかを考え、実践できる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練の実施（7月、12月） ・「新潟・山形地震」時の対応についてアンケートを実施 家庭での対応行動をどのようにとればよいか、グループでの話し合い ・被災経験をもつ方を招いた防災に関する全校講話とファシリテーション ・第2回避難訓練前に「防災（火災）授業」の実施 「火災のとき、どんなことに注意し、どう自分の身を守るか」話し合い活動 ・救急法講習（AED講習、心肺蘇生法）（2年生）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練の実施 ・災害時の対応についてのファシリテーションによる防災教育の学び合い ・救急法講習（AED講習、心肺蘇生法）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を年間計画に明確に位置づけ、教科横断的な教育課程の推進を図っていく。 ・避難訓練と防災授業を有機的に関連づけ、災害について当事者として主体的にとらえる授業を展開する。 ・地域コミュニティ協議会等との連携を図り、地域に根ざした防災教育の推進していく。

2. 新津第五中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年				新潟県防災教育プログラムを活用した取組			社会科 (身近な地域)	防災講演会・地震				防災学習
第2学年				第1回避難訓練・地震想定					第2回避難訓練・火災想定		救急法講習 (AED講習、心肺蘇生)	
第3学年											安全な住まいと 点検(家庭)	

3. 新津第五中学校 防災教育指導例

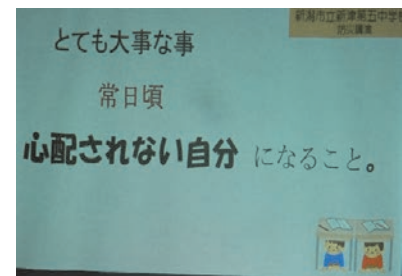
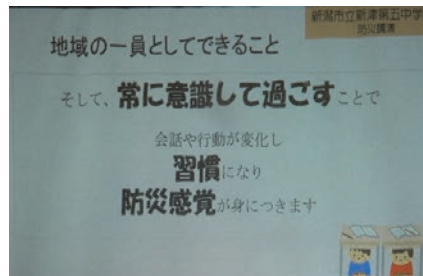
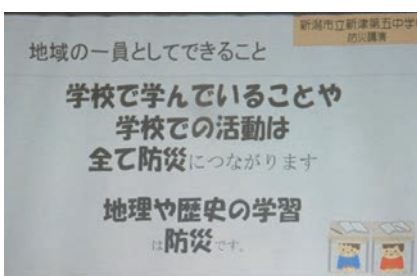
中学校全学年

(学習のねらい) **地震が起きた時の行動について考える。また、防災について教科横断的な視点から、ものごとを関連付けて学ぶ意識を身に付ける**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 「新潟・山形地震」についてのアンケートをもとに、防災にどのような心構えで取り組むか考える</p> <p>① 地震が起きた時、どのような行動をとったか。 ② 「新潟・山形地震」の教訓を活かして、今後どのような行動をとればよいか。</p>	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの自然災害に備えて、あなたには、どのようなことができますか。
【展開】	<p>2. 講師の講話 演題：「ちょこっと防災，まさにこれ」 講師：後藤 素子 様 （山潟中学校 地域教育コーディネーター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートをもとに、災害について振り返る。 ・予測された危険に対し「身を守るための判断と行動」を考える。 ・それぞれできることが違うので主体的に考える。 ・今日私が身に付けているものをみなさんご存じでしょうか。 <p>3. 危険から身を守る行動について共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んでいることや学校での活動はすべて防災につながる。 ・地形や気象を学習することはとても大事。大人より先に危険箇所を見つけることが大切である。 ・地理や歴史の学習は防災である。学校の学習と同時に家族や地域の方々に土地の歴史や地形の特徴を聞くことも防災である。 	<p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の状況で大地震が発生した時、どのようなことに注意して行動するか考えましょう。 <p>① 学校にいる時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、登校した時、教室に数人しかいない時 ・給食準備中、先生がまだ来ていない時 ・昼休み、体育館・グラウンド・その他の場所で遊んでいる時 ・放課後、部活動中先生が近くにいない時 <p>② 校外にいる時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の深夜、自宅で寝ている時 ・学校への登校途中 ・夏の休日、海水浴で泳いでいる時 ・休日、学校近くで友人と自転車に乗っている時 <p>○授業・家庭の中でどういう学びを意識できるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉区の土地について、地図をもとに学習する。 ・理科の中で、気象状況について学ぶ。 ・地域の危険箇所を、登下校の時に、意識して確認する。 ・家で、保護者と防災について話題にしてみる。 ・地形や気象状況を知るなど、他の教科とのつながりの中で考える習慣を身に付ける。

	<p>4. 地域の一員として、できることやどのような行動を取れば良いかを伝える</p> <p>① 地域のお祭りや行事に参加することで災害時に助け合う精神・方法を学ぶ。</p> <p>② 避難所開設時、中学生としてできることは何か考えさせる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に意識して過ごすこと ・会話や行動が習慣になり防災感覚が身に付くこと ・心配されない自分になること
【感想】	<p>5. グループごとに、講演会の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを書き、ワークショップを行い、クラス内で発表する。 ・今後、学年ごとのテーマを考えることをきっかけに、講演会後の防災学習につなげていく。 	<p>○生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス内では、ワークシートもとに熱心に取り組んでいた。 ・講演会の話を受けて、自分事として考えていた。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで災害時の状況を考え、身の守り方を考え、他のグループの発表からどの状況下でどのような危険があり、どう対応すればよいか理解することができたか。 ・お互いの考えを認め合い、協力して活動することができたか。 ・自然災害を自分事として捉え、地理や歴史、理科や保健体育など関連付けて学習する意識を身に付けたか。 ・授業・家庭で、災害時に何が大切か自分なりの考えをもつことができたか。 	

【講演会の内容】



【生徒の感想】

- ・常日頃の5条を心にとめて生きていきたい。いつ起こってもいいように、下調べできることはして、頭に入れておく。何が起こっても自分の命を第一に行動する。
- ・災害が起こったら、絶対に諦めず生き延びることが大切だと学べた。また、地域を知っている自分たちだからこそできる防災に、今後取り組んでいきたい。
- ・講師の人の実体験を通し、写真などを用いて分かりやすい説明してくださり、とても為になった。災害が起こってからすぐの状況から避難し終えるまでの状況を細かく話されていて、災害の怖さや当時の様子を想像することができた。防災において大切なことのいくつかの中に、常日頃から「あきらめない」「心配されない自分になる」というワードが心にとまった。普段は意識をしていない自分の地域について関心をもつことができてよかった。
- ・地理、歴史の勉強が防災につながると分かったので、今まで以上に地理や歴史を諦めないで頑張りたいと思った。親や友達から心配されないよう、一人で何でもできるようにしたい。災害時など、いざという時に、誰かのために考えて行動できるような人になろうと思う。

<新津第二小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、大きな自然災害に直面したことはないが、6月の村上地震では大きな揺れに見舞われた。また、10月には台風により阿賀野川の増水も見られ、地域住民や児童の災害に対する危機意識は高まっている。 ・学校周辺には新津川・能代川と秋葉山があり、土砂災害や水害の危険性が考えられる。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に際し、子どもたちの生命の安全を守り、安心して学校生活を送れるように願っている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「災害から生き抜く力」を身に付ける。 ・自然の恵みと災いを理解し、郷土愛を育む。 ・防災に対する主体性を育む。 ・災害を他人事ではなく自分事として考えられるようにする。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・水害（津波）発生時の避難訓練 ・災害発生時の引き渡し訓練 ・親子防災講話 ・帰り道や地域の危険箇所点検 ・リトルファイヤースクール（3・4年生）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や家庭と連携した避難訓練・引き渡し訓練・地域の危険箇所点検 ・リトルファイヤースクール（3・4年生） ・救急救命法講習会 AED・心肺蘇生法
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことをよく知る防災士から協力してもらうことで、地域や家庭と連携した避難訓練・引き渡し訓練・地域の危険箇所点検を実施する。 ・新潟県防災教育プログラムを活用した避難訓練を実施する。

2. 新津第二小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	安全な登下校	子ども体験型安全教室	地震津波避難訓練・引き渡し訓練									
第2学年	火災避難訓練											
第3学年	社会科 リトルファイア ヤースクール											
第4学年	不審者対応避難訓練											
第5学年	休憩時間避難訓練・火災訓練											
第6学年	学級活動 身を守ろう①											
	学級活動 身を守ろう②											
	総合 新津川を調べよう											

3. 新津第二小学校 防災教育指導例

小学校上学年	(学習のねらい) 地震や津波から身を守るために、どのように行動すればよいかを知る ・避難訓練を通して地震の時の行動について知る
--------	--

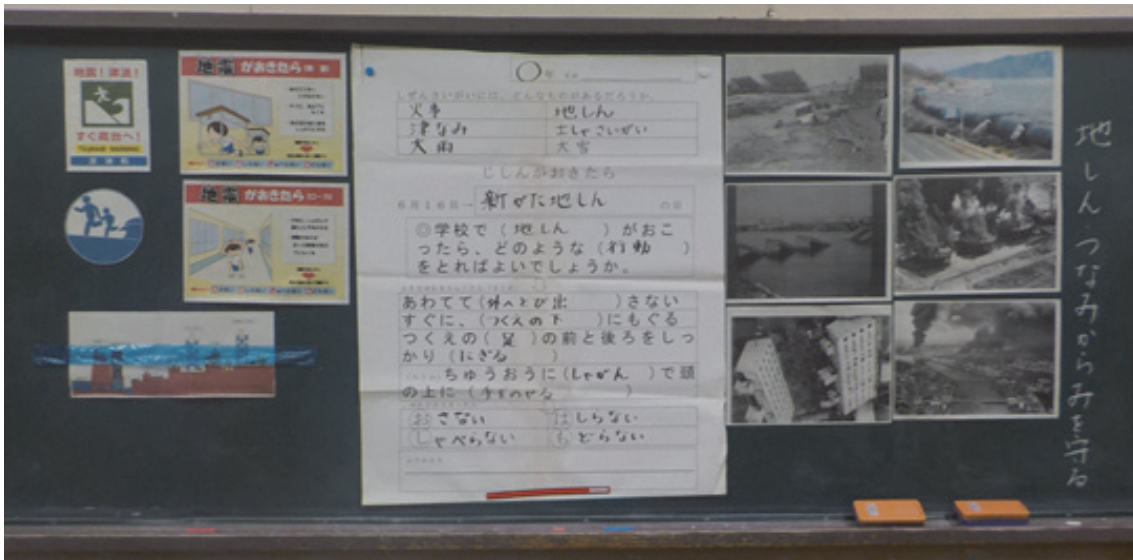
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 新潟地震の様子を見て、学習のねらいを知る ① 学校にいるときに起こりそうな自然災害について想像させる。「日本は自然災害が多い国であり、地震によって大きな被害が起こる」ことを押さえる。 ② 学習のねらい「学校で地震が起こったら、どのように行動すればよいか」を押さえる。	【問い掛けの例】 ・日本で起こる自然災害には、どのようなものがあるでしょうか？ 【想定される答え】 ・地震、大雨、大雪、台風など 【ポイント】 ・東日本大震災の様子を知ること、地震について正しい考えをもつ。
【展開】	2. 地震が起こるとどうなるかを知る ① 「新潟地震では、どのようなことが起こったのか」を写真資料から考えさせる。 1) 昭和大橋が落ちた写真 2) コンビナートが燃えた写真 3) マンションが倒れた写真 4) 小さな津波が起こり川をさかのぼった写真 ② 学校で大きな地震が起こったら、学校の中はどのようなになるのか考えさせる。 1) 教室の壁が崩れた写真 2) 廊下にながれきが散らばった写真 3. 学校で地震が起きたときの行動を体験する ① 実際に避難行動をとらせる。 1) 授業中に地震が起きたら(教室内の体験) ・机の下に入って、机の脚をしっかり押さえる。 2) 廊下を歩いているときに地震が起きたら ・頭の上に何も無いことを確認する。 ・中央でしゃがんで頭を守る。 ② 津波が起こったときの避難行動を知る。 1) 東日本大震災のときと同じ高さの津波がきたらどうなるかシミュレーションを見る。 2) 津波が発生したら高い場所に避難をした午前の避難訓練を思い出す。	【資料】新潟県防災教育プログラム(地震・津波災害編) 【働き掛け】 ・新潟では、新潟地震だけでなく、中越地震や中越沖地震など、大きな地震が何度もあったことを知らせる。 【想定される答え】 ・新幹線が脱線している。 ・大きな山が崩れている。 【資料】パワーポイント資料 【問いかけの例】 ・大きな地震が起きたら、学校の中なら安全でしょうか。 【予想される反応】 ・危険です。 ・靴がないと歩けない。 【問いかけの例】 ・地震が起こったらどのように行動しますか？ 【想定される答え】 ・「お・は・し・も」をする。 ・机の下に入る。 【教具】緊急エリアメールの音

【まとめ】	<p>4. 学習して分かったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「地震のときの行動」を書かせて、まとめる。</p> <p>② これから避難行動の一つとして「引き渡し訓練」を行うこと、「防災講話」「下校路の安全確認」をすることを確認する。</p>	<p>【資料】ワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめとして「引き渡し訓練」「下校路の安全確認」をすることを確認する。 ・「地震にそなえる防災チェックリスト」を配付する。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起こったときに、身を守るために「机の下に入る」「しゃがんで頭を守る」などの行動をとることができたか。 ・地震の後に津波がくる恐れがあることを知り、3階まで安全に避難することができたか。 ・自分の登下校の際の道路の安全チェックと近くの避難所を知ることができたか。 	

【授業実践の様子】



【板書】



<阿賀小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当校は、阿賀野川と小阿賀野川、能代川に囲まれた立地であり、川の増水による水害が最も懸念される地域である。市のハザードマップによれば、最大で5mの浸水が想定されている。 先の台風19号では、阿賀野川の水位がはん濫危険水位を上回り、当校も避難所として開設された。 古くからある地域では、「地域防災キャンプ」を実施するなど、防災に対する意識が高い。5年前には、地域コミュニティ協議会と連携して小・中合同避難訓練を実施している。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大切な命を守るために災害や避難に関する正しい知識や対応方法を身に付けてほしい。 日頃から防災に関心をもち、防災に対する意識を高めてほしい。 地域の絆を大切にしたい防災教育に取り組んでほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関する正しい知識と実践力を身に付け、かけがえのない命を守ることのできる児童 自分の住む地域に起こりうる災害、危険な場所、避難する場所や方法等について正しく理解し、行動できる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ベル訓練、避難訓練、通報訓練、消火訓練の実施（全校児童） 児童引き渡し訓練の実施（全校児童） 全校防災教室の実施（1～4年生はバケツリレー体験と煙体験、5、6年生は地域住民との合同防災教室） リトルファイヤースクール（3、4年生）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の避難訓練の実施（地震、火災、不審者対応） 児童引き渡し訓練の実施 全校防災教室の実施 全校が一斉に集まる給食時間を利用した防災指導
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域や協力してくださる講師や団体との連絡調整 地域コーディネーターとの連携 学習効果と負担量のバランスを考え、大きな負担とならない取組を行う。 当校は、給食を全校一斉にランチルームでいただく。新潟県防災教育プログラムについては、全校が一斉に集まる機会も効果的に活用して実施していく。

2. 阿賀小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

べル訓練

第一回避難訓練（地震・津波想定） 児童引き渡し訓練
地区公民館・防災士・コンソーシアム担当者による全校一斉防災教室

新潟県防災教育プログラムに基づく台風・洪水災害の指導

第二回避難訓練（休憩時間の火災想定） ・通報訓練・消火訓練

第三回避難訓練（不審者想定）

新潟県防災教育プログラムに基づく雪災害の指導

3. 阿賀小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい) 洪水の恐ろしさを知り、掛け替えのない命を守るためにどのように行動するかを考える
--------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 水の脅威を知り、水から身を守ることの大切さを知る</p> <p>① 「水の恵み」について知る。 飲み水やお風呂、洗濯、川遊び</p> <p>② 「洪水」の恐ろしさを知る。 車や家が流される。命を落とす。作物がだめになる。</p> <p>③ 学習課題「<u>洪水から身を守るためにどうしたらよいのだろうか。</u>」を伝える。</p>	<p>【資料】新潟県防災教育プログラム(洪水災害編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが水を活用する様子の写真 ・まちが浸水する様子の写真 ・川が溢れる様子の写真 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は私たちの生活にたくさんの恵みを与えてくれるが、命を脅かす存在でもあることを伝える。
【展開】	<p>2. 洪水時の浸水想定と避難場所、避難のタイミングを考える</p> <p>① 講話や洪水ハザードマップの読み取り、地域住民からのアドバイスから次の点をおさえる。</p> <p>1) 「<u>自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最大で5mにもなる。 <p>2) 「<u>自宅周辺や通学路周辺の避難場所</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新津東町は、地域学園や新津工業高校、阿賀小学校に避難所がある。新金沢町は、新金沢保育園が避難所になっている。 <p>3) 「<u>避難情報の種類と意味</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急) <p>4) 「<u>浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもある</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水ハザードマップはあくまでも想定であり、想定を上回る災害はこれまでたくさんある。 <p>5) 「<u>まず逃げるのが第一であること</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難して何もなかった。それは損ではない。まず逃げるのが大切である。 <p>② 各グループで話し合ったことを発表する。</p>	<p>【資料】洪水ハザードマップ</p> <p>【資料】パワーポイント資料</p> <p>【資料】新潟県パンフレット「やってみよう!家族防災会議」</p> <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの住んでいるまちには、どのくらいの洪水の危険があるのだろうか。 ・どんな情報が出されたら、どこへ避難すればよいのだろうか。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、地域ごとに5名程度のグループを作っている。そこへ、地域の方々から入っていただきアドバイスをいただいたり一緒に考えたりする。 ・各グループにワークシートを配り、話し合ったことを記入していく。 ・予め、地域の方々と事前に打ち合わせをしておき、話し合いがスムーズに進むようにする。 <p>【児童の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、満願寺に住んでいます。近くに避難所がないので、早めに地域学園に避難したいと思います。

<新関小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区には、阿賀野川・早出川・能代川の3本の河川があり、洪水ハザードマップによると浸水深は、0.5～3.0mが大半であるが、はん濫流が発生する地域もある。また、土砂災害警戒区域に指定されている地域もある。 ・平成23年新潟・福島豪雨では、学校に避難所が開設された。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に安全な行動ができる児童に育ってほしいと願っている。 ・「地域とつながる」「危機意識をもつ」児童になるように願っている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守ることの大切さを理解し、主体的に判断・行動する児童 ・防災に関する正しい知識と技能を身に付け、行動できる児童 ・災害時に地域の一員として協力して活動できる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会見守り隊と児童との顔合わせ会，集団下校の実施 ・地域・学校・こども園との防災訓練と引き渡し訓練の実施 ・保護者，地域住民が参加した「防災教室」の実施 ・年間4回の避難訓練の実施
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともに推進する防災訓練の実施 ・水害・地震・火災を想定した避難訓練の実施 ・休み時間における避難訓練の実施 ・通学路の危険箇所確認，雪道の安全指導の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新関見守り隊，新関コミュニティ協議会との連絡調整 ・新潟県防災教育プログラムの活用 ・避難訓練振り返りシートの活用

3. 新関小学校 防災教育指導例

小学校全学年	(学習のねらい) 児童・保護者・地域住民で地震時の初期行動、避難場所、危険箇所等の地域防災について考える機会とする
--------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 地震発生時の初期行動について知る</p> <p>① 写真、動画から地震発生時には、危険がたくさんあることを知る。</p> <p>② 地震が起きたときの命を守る行動として、「3つのない場所」(「もの」が落ちてこない、倒れてこない、動いてこない) 場所で、ゆれが収まるまで頭を守ることをおさえる。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <p>① 地震が起きたときに、家の中や町の様子はどのように変わっただろうか。</p> <p>② 地震が起きたときは、どのように行動すればよいだろうか？</p> <p>【想定される答え】</p> <p>① タンスが倒れたり、電柱・塀が倒れたりした。</p> <p>② 物が「落ちてこない」「倒れてこない」「動かない」場所に避難する。</p> <p>【ポイント】</p> <p>・余震もあるので、落ち着いて行動し、ゆれが収まってから避難場所に移動する。</p>
【展開】	<p>2. ゆれが収まった後の行動を友達や地域の方と話し合っ理解する</p> <p>① 地域の地図を使って地域の避難場所を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の避難場所を地域の方から教えてもらい、第一避難場所、第二避難場所の位置にシールを貼って確認する。 <p>② 家から避難場所までの道の危険そうな場所、危険な理由をみんな考えて、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の周りで、危険な場所の理由を付箋に記入し意見を出し合う。 ・地域の方・保護者から意見をもらって、付箋を地図に貼って確認する。 <p>3. 日頃から家庭で備えておくべきことを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚が倒れないようになっているか。 ・非常持ち出し袋は、持ち出しやすい場所においているか。 ・家族とばらばらに避難したときに会う場所を決めているか。 ・普段から「もの」「ところ」の準備が大切。 ・家族と確認したり、話し合ったりすることが大切。 	<p>【問い掛けの例】</p> <p>① あなたが最初に避難する場所はどこですか？</p> <p>② 道路が狭かったり、塀があったりする場所は、ありますか？</p> <p>【想定される答え】</p> <p>① 分からない。新関小学校。(避難場所は、地域ごとに決まっているが、児童はほとんど知らない。)</p> <p>② 近くに塀に囲まれた道路がある。自分の家の周りで崩れてきそうな場所がある。倒れそうな木がたっている。</p> <p>【問い掛けの例】</p> <p>・地震に備えて、日頃からどんなことを備えておけばよいと思いますか？</p> <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所を確認しておく。 ・避難するための準備をしておく。 ・家の近くの危険な場所を知っておく。

【まとめ】	<h3>4. 学習してわかったことを確認する</h3> <p>① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。</p>	<h3>【ポイント】</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の避難場所を知り、大人の指示に従って行動する。 ・危険箇所を知り、落ち着いて行動する。 ・家族で話し合ったり、準備したりすることが大切。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地震時に「落ちてこない、倒れてこない、動いてこない」場所に避難することが理解できたか。 ・地域の地図を使って、自宅周辺や学校周辺など、地域の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・友達や地域の方などと一緒に活動できたか。 	

【授業実践の様子】



【スライド資料】

ゆうがたの5じ56ふんにはつせい。
「しんど7」のはげしいゆれのじしんでした。

©青森県社会福祉協議会 青森県社会福祉協議会 青森県社会福祉協議会

こころのじゅんび

かぞくバラバラのときにじしんがおこるかも・・・
→いっしょにいないときどうするか、
はなしあっておく。

しゅうごうばしょは？ ひなんばしょは？
ひとりでもにげる？ れんらくしゅだんは？

ふるさと未来創造堂

じしんのときは「もの」が

- ① おちない
- ② たおれない
- ③ うごかない

「3つのないばしょ」で、
じぶんのいのちをまもろう！

じしんはいつ、どこでおきるのか、
だれもわかりません。

ふだんから「もの」と「こころ」
じゅんびがたいせつ！

NPO法人
ふるさと未来創造堂

9) 月潟中学校区（南区）

対象校：月潟中学校・月潟小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年6月19日 15:45～16:45 会場：月潟中学校	1. 5/9（木）研修会の振り返り 2. 11/17（日）の月潟地区合同防災訓練に向けて（意見交換） 3. 今後の進め方について
第2回	令和元年8月22日 10:30～11:30 会場：月潟中学校	1. 11/17（日）の月潟地区合同防災訓練案について（意見交換）
第3回	令和元年10月3日 14:00～15:00 会場：月潟中学校	1. 11/17（日）の月潟地区合同防災訓練案について（意見交換）
第4回	令和元年11月27日 10:00～11:00 会場：月潟中学校	1. 各校の自校化プランについて（情報共有） 2. 学校・地域合同防災訓練の振り返りと今後について（意見交換）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
月潟中学校 月潟小学校	令和元年 5月17日	電話相談 コーディネート	小・中学校合同で地域の防災訓練を授業日にして参加を予定しているため、中学校区でのミーティングの機会を活用して、合同防災訓練の相談をしたいとの相談を受けた。月潟小学校・区地域総務課と相談し、会合に月潟出張所からも参加していただくよう、調整した。
月潟中学校 月潟小学校	令和元年 6月19日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
月潟中学校	令和元年 7月29日	打合せ	11/17（日）の月潟地区合同防災訓練の内容や流れについて、月潟中学校・月潟出張所・地域総務課・コンソーシアムの4団体で打合せを行った。
月潟小学校	令和元年 8月22日	資料提供	11/17（日）の月潟地区合同防災訓練への小学校の関わり方を検討する材料として、当日予定している体験活動の参考資料（紙食器・毛布応急担架の作り方）を提供した。
月潟中学校	令和元年 9月25日	打合せ	11/12（火）の全校防災学習の内容について打合せを行った。月潟地区合同防災訓練では、中学生が地域と一緒に避難者の受付や誘導、防災グッズづくりの実演紹介を行う予定。災害時の避難所をテーマに、受付業務の体験や工夫の検討、防災グッズづくりの体験をコンソーシアムがサポートする。また、月潟地区の防災士には、全校防災学習前の避難訓練から参加していただき、講評を依頼する。

月潟中学校	令和元年 10月12日	資料提供	11/12（火）の全校防災学習の計画案を作成し、体験活動の参考資料と併せて提供した。
月潟中学校	令和元年 11月12日	講座	区づくり事業「南区防災教室」と組み合わせて、全校生徒を対象に、避難所運営支援について学ぶ体験型の防災学習を実施した。

【6/19 月潟中学校区ミーティングの様子】



【8/22 月潟中学校区ミーティングの様子】



【10/3 月潟中学校区ミーティングの様子】



【11/27 月潟中学校区ミーティングの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

月潟中学校区では、小・中学校と地域が連携した実践的な取組として、コミュニティ協議会や地域の消防団、防災士、行政等と連携した防災訓練（月潟中学校を避難所とした避難者の受付と誘導、新聞紙でコップづくり、毛布担架の作成と搬送体験、心肺蘇生法・AEDの体験、アルファ化米の炊き出し体験と配布）を実施した。これまでの地域防災訓練を、学校とコミュニティ協議会とで訓練の内容や役割分担を見直したところ、学校・地域とも非常に満足度の高い学習機会となった。訓練後の振り返りでは、「水害時であれば、1階は使えない。次年度は、各教室を自治会で割り振る等して、実際に避難できるかの検証もよい。」といった提案も出された。

<月潟中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数65名（1年27，2年23，4年15）職員数13名（主に常勤者） ・幾つも蛇行し湾曲する中之口川の左岸に位置し，川筋に沿って商業地区がありその西側に果樹栽培の畑地，さらに水田が広がる田園地帯である。 ・優先的に備え警戒すべき災害は，地震や豪雨等に因る堤防の決壊，および河川氾濫である。そのような中，地域は少子高齢化が著しく，発災が平日の日中であれば，地域内には中学生以下の児童生徒と高齢者が多い状況が想定される。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する知識を習得するだけでなく，「自分たちが生活する地域の自然とのかかわりを学ぶ」ことを通じて，第一に「自らの命を守り，生き抜く力を育む」ことを願う。その上で，地域の実態に照らし，発災時には，中学生ができることに進んで取り組み，地域住民や集団の安心・安全に対して貢献して欲しいと願う。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の命は自分で守る」という意識・姿勢を身につける。 ・災害時に自ら危険を察知し率先して「安全確保のための行動」ができる。 ・災害および被害の特徴，発生メカニズム，地域の自然環境，災害防災に関する基本的知識を正しく理解できる。 ・災害発生時及び発生後，人々や集団・地域の安心・安全に対して貢献できる。 ・防災教育での学びを，後の生活に活用し「生き抜く力」としてもち続ける。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・週休日を授業日に変更し年間行事予定に定め「月潟地区合同防災訓練」を地域及び関係機関と連携・協力して実施した。 ・「月潟地区合同防災訓練」での中学生の貢献活動に向けて，事前に防災教育を特設して行った。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の「避難訓練」実施とともに「防災教育」Ⅰ（地震／火災）・Ⅱ（洪水）を実施し，3か年で新潟県防災教育プログラムに準じた内容を学習する。 ・「新潟県防災教育プログラム」を新潟市地域防災計画及び新潟市水防計画に基づき，また地域の優先ハザードに照らし，重点化を図る。 ・小中一貫教育に照らし，また地域・保護者との連携した取組を目指し，中学生が地域社会の一員として役割を自覚し貢献できる体験型学習を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ協議会，自主防災会及び消防団，区や出張所（行政）との連携を図り，またPTA保護者との協働体制を構築する。 ・地域防災訓練に参加させ，避難所運営等の社会貢献訓練を学習に位置付ける。

2. 月潟中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年		総合学習 は総合学習で扱います	避難訓練・防災教育Ⅰ 地震 火災					月潟地区合同防災避難訓練				
第3学年							避難訓練・防災教育Ⅱ 洪水					

総合学習

は総合学習で扱います

教科(理科)

は教科で扱います

私たちの住む新潟
文化・歴史 巡検

変動する大地
自然の恵みと
災害

月潟地区合同防災避難訓練

避難訓練・防災教育Ⅱ 洪水

天気とその変化
大気の動きと
日本の天気

自然・科学技術
と人間
自然災害と防災

私たちの住む新潟
自然・環境

3. 月潟中学校 防災教育指導例

中学校全学年	(学習のねらい)「洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくことを確認する」「過去の災害時の避難所での役割を体験し、地域の一員として避難所でできることを考える」
---------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 洪水対策を復習し、学習のねらいを知る</p> <p>① 洪水から街を守る対策とその限界について復習し、学習のねらい「<u>洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくべきこと</u>」を確認する。</p> <p>② 発災し、住民が避難してきたことを想定し避難所での状況を疑似体験し、<u>避難所の役割や地域の一員として自分が避難所でできることを考えよう。</u></p>	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水や河川のはん濫に因る災害から身の安全を守るために、何が大切でしょうか？ 発災時、中学校は避難所指定されるが、私たちには何ができるでしょうか？ <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップや避難場所を確認しておき、いざというときに的確に行動できるように日頃から準備しておくこと。 中学生にできることを率先してやること。
【展開】	<p>2. 発災時の避難所の様子を知る</p> <p>① <u>新潟市の避難所運営方針を確認し、避難所が「避難者を含めて、学校・地域・行政が全員で協力し運営する場所であること、被災後の生活をみんなで乗り切っていく場所であること」を理解する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難所の写真資料を提示し、避難所の様子を知る。 新潟市の避難所運営方針を伝える。 <p>3. 避難所開設時に重要な「受付・集計・報告」の役割について知る</p> <p>① 避難所開設時に不可欠な「避難者の受付・集計・報告」する作業に中学生がどう貢献できるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所開設時の受付・集計・報告の必要性や役割について写真資料で説明し、避難者受付カードを家族全員と避難してきたことを想定し記入させる。 グループ内で集計させ、さらに自治会単位で集計させ、月潟中学校での避難者総数を報告させる。正確迅速な集計報告のために工夫したことを、自治会単位で発表する。 	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所生活で大切なことは何でしょうか？ 「新潟市避難所運営方針」を知っていますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力すること、助け合うこと、弱者をいたわること わからない。 <p>【資料】避難者カード</p> <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大勢の避難者が一気に押しかけてきます。避難者の受付や避難者数の集計を迅速正確に行うためには何が重要か、どんな方法が有効か考えてみましょう <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入口付近の混雑を避けて、中に入った適当な所に受付を設置して、避難者カードを配付する。 自治会毎に、中学生が記入説明し回収を確実に行う。 避難所運営委員や担当者の指示を確認し、それに従う。 学校内の案内等は積極的に協力する。

	<p>4. 避難後の生活をみんなで乗り切るための様々な工夫について体験する</p> <p>① 食器がない，けが人を搬送する方法がない，救援米が届いたが…食する方法は？様々な状況に工夫して対応して乗り切ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙とビニール袋で食器を作る。 ・毛布と物干し竿2本で「簡易担架」を作る。 ・アルファ化米を調理し，避難者に届ける。 	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難後の生活も様々な困難に直面しますが，工夫してみんなで乗り切っていきましょう。どんなことが想定できるか考えてみましょう。 ・新聞紙で作る食器等，避難者に伝達しよう。 ・アルファ化米等の「炊き出し」は，学校調理室を案内し，施設の使い方を伝達しよう。 <p>【資料】紙食器の作り方，毛布担架の作り方</p>
【まとめ】	<p>5. 学習してわかったこと，合同防災訓練で自分が貢献する役割を確認する</p> <p>① ワークシートに，「授業の感想」などを書かせて，発表させる。</p> <p>② 今日の学習を活かして，地域防災訓練で実践する自分の役割とそのポイントを確認する。</p>	<p>【資料】ワークシート（振り返り）</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の優先ハザードを理解し，洪水等の発災時には身の安全を確保する意識が高まったか。 ・避難所運営は全員の協力，全員で乗り切ること，中学生として自分が貢献できることをイメージし，率先して行動に移す意欲が高まったか。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水・河川氾濫による災害から身の安全を守るために大切なことが理解できたか。 ・避難所の役割や避難所運営で大切なことを理解し，地域の一員として自分も積極的に避難所運営に貢献しようとする姿勢が育まれたか。 	

【授業実践の様子】（11月12日）

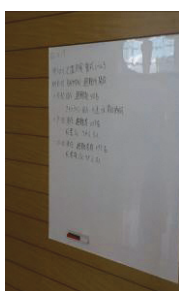


【地区合同防災訓練】（11月17日）

避難者誘導受付



集計ボード



簡易担架実演



炊き出し担当（調理室）



<月潟小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中之口川に隣接する平野部で、標高は低いものの周辺地域の中では高い。併せて、海岸部からは10km程度離れているため地震に伴う津波や台風による高潮の影響は受けづらい地域である。そのため地域の優先ハザードは洪水である。また地形的観点から土砂災害の発生頻度はきわめて低い。 ・学校周辺の地域は学校を中心とした住宅地域と農業用地を挟んだ西側の地域に分けられる。どちらも洪水が発生した際の避難所として月潟小学校・中学校を指定している。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水等の発生時に確実に避難する場所を確保することと、どのように避難したらよいか、避難時の過ごし方をどうしたらよいかを明確にしたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの身を自らが守る子ども <p>具体的には次のような姿である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 発災時にどこに避難したらよいかを避難情報を基に考え適切に行動することができる。 ② 日頃から地域の避難所や自らの避難行動について考え、家族と発災時についてどうするかを想定している。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域合同の防災訓練と防災教育を行う授業参観を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域合同の防災訓練では、月潟地域の住民が洪水を想定して避難する訓練を行った。具体的には避難指示を「広報月潟」で全住民に通知した。小学校は通常授業日を想定し、授業後月潟中学校へ避難行動をした。 ② 防災教育の授業参観では、新潟県防災教育プログラムに基づいた授業を行った。事前に新潟県防災教育プログラムのどの部分を行うか授業計画を立てて実施した。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を確認する活動を行う。特に一次避難や二次避難（月潟中学校へ）の経路を全校児童と職員、保護者とで確認する。 ・ハザードマップに基づいて、自宅からの避難や登校・下校中の避難について考える授業を行う。 ・貴重品や重要資料の持ち出しを含めた職員の避難訓練も同時に行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練前に避難計画を職員全体で検討し、避難訓練後には計画について改善点を問い、次回の訓練時にそれを活かすように計画を修正する。

2. 月瀾小学校 「ふるさと新瀾防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	集団下校・地震・火災の避難訓練	心肺蘇生・水難時訓練			通報訓練	不審者対応避難訓練		防災教室・地域合同防災訓練			引き渡し訓練	
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 月潟小学校 防災教育指導例

小学校全学年	(学習のねらい) 地震や洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくことを知る ・私たちが行う防災対策について知る
---------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【一時間目】	1. 新潟県防災教育プログラム「洪水編」「地震編」を行う ・これまでの指導実績を踏まえ、以下の内容を各学年で指導した。 【低学年】1年生・・・「学校で地震が起きたら」 2年生・・・「大雨が降ったときの守り方」 【中学年】3年生・・・「地震への備えについて」 4年生・・・「雨の降り方や洪水について」 【高学年】5年生・・・「洪水に対する備えについて」 6年生・・・「洪水に対する備えについて」 【特別支援】・・・「避難所でどうする？」	【ポイント】 ・防災教育プログラムに基づき各学年・学級の実態に応じて、2時間目以降に行う避難訓練に対応した内容を行い、具体的に考えさせる。
【二～四時間目】	2. 地域の防災訓練に参加する 【訓練内容】 ① 新聞紙による紙コップづくり ・中学校生徒が中心になり、地域の方に向けて新聞紙を用いた紙コップの作り方を説明した。避難時に飲食指導を摂るための容器作りを行う。 ② 毛布担架の作り方 ・地域の消防団が説明を行い、中学生生徒が実演することで発災時の搬送方法を知る。 ③ AEDの操作方法 ・消防団が説明し、中学校生徒が実演を行った。	【ポイント】 ・地域合同防災訓練として、地域の消防団、中学生と役割分担をして地域全体への防災訓練とした。 ・小学生児童もできるところは一緒に実演に参加することができた。 ・地域を3つのグループに分け、それぞれの地域に小学生児童も参加した。 ・①～③の内容をローテーションして各地域で行った。
【帰校】	3. 中学校から小学校へ帰校する ・中学校で再度学年ごとに整列をし直す。その後、小学校へ帰校する。帰校する際も防災訓練の内容であること伝え、整列して移動をした。	【ポイント】 ・避難時はこのように一次避難所から二次避難所へ移動することを確認する。 ・移動時のルートを確認する。
【評価】	・ハザードマップから自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・職員も児童も発災時にどのように行動するかを考えた訓練とすることができたか。その際の優先事項を考えた行動をすることができたか。 ・非常用持ち出し品、避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。	

【活動の様子】



< 防災授業の様子 >



< 防災授業の様子 >



< 一次避難の様子 >



< 二次避難への行動 >



< 二次避難完了 >



< 防災訓練 >

10) 中野小屋中学校区（西区）

対象校：中野小屋中学校・小瀬小学校・笠木小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年6月28日 16:00～16:45 会場:中野小屋中学校	1.地域教育コーディネーターの方に向けた事業の説明 2.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 3.その他（情報共有・意見交換）
第2回	令和元年10月16日 16:00～16:45 会場:中野小屋中学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他（情報共有・意見交換）
第3回 (予定)	令和2年1月8日 16:00～16:45 会場:中野小屋中学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他（情報共有・意見交換）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
中野小屋中学校	令和元年 6月10日	電話相談	中野小屋防災デーの実施内容についての相談。
中野小屋中学校 小瀬小学校 笠木小学校	令和元年 6月28日	資料提供	5月9日研修会の振返りや地域教育コーディネーター向けの事業説明資料，防災教育に活用できる各種印刷資料等を提供。
中野小屋中学校	令和元年 7月1日	電話相談	中野小屋防災デーの実施内容についての相談。
小瀬小学校	令和元年 7月1日	電話相談	中野小屋防災デーの実施内容についての相談。協力者の選定に関するアドバイス等。
小瀬小学校	令和元年 8月26日	打合せ 資料提供	3・4年生対象の防災学習に関する打合せ。担任と協力者の消防団員を交え，当日のねらいと協力者の思いやできることを確認し，全体の大まかな流れを組み立てた。
中野小屋中学校	令和元年 9月3日	打合せ	中野小屋防災デーの実施内容についての相談。2年生対象の防災マップ作りに関する助言。全校＋住民対象ワークショップに関する相談。
小瀬小学校	令和元年 9月13日	打合せ 資料提供	3・4年生対象の防災学習に関する打合せ。校外で地震後に気を付ける・役に立つポイントの資料，持ち出し品ワークの資料を提供し，担任と協力者の消防団員へミニレクチャーを実施。
中野小屋中学校	令和元年 9月18日	講座 資料提供	2年生対象の防災マップ作りに向けた事前レクチャー。地震が起きた後の地域の様子と地震後に役立つ地域資源の確認を実施。次年度以降も使用できる資料の提供。
中野小屋中学校	令和元年 9月28日	参観 講座 資料提供	中野小屋防災デーにおける地震・津波想定避難訓練の参観。2年生対象の防災マップ作り進行。全校＋住民対象ワークショップの進行。当日使用した資料の提供。

中野小屋中学校 小瀬小学校 笠木小学校	令和元年 10月17日	資料提供	台風接近時・洪水時の情報収集の仕方について活用できる情報源、洪水避難についてまとめた資料の提供。資料に関するミニレクチャー。
---------------------------	----------------	------	--

【9/28 中野小屋中学校 全校ワーク】



避難所体験ゲーム 記録シート 2 班

※避難所で起こる回りごとについて、解決方法を模で書き、決定したことを記録してください。

番号	対応方法	番号	対応方法
1	避難所がいっぱいなので、 問合をした人に 家族について書く。	6	音楽室が幼児に避難 できるようにしている。
2	校舎と美術室に ペットの避難所を 作る。	7	英語のできると見つけ、 会話してもらう。
3	学校の中ですぐはかう ことができない。	8	体育館の木の こいのこを使ってください。
4	休館室に行、ていただく。 休んでいただく。	9	分別して、ゴミ箱に 捨てること。
5	洋式トイレに椅子が付け てあり、障害者専用なので、 使ってください。	10	プールが用水路の水を 使って流す。

【10/17 中野小屋中学校・小瀬小学校・笠木小学校 洪水防災学習資料提供(一部)】

5段階の警戒レベル

警戒レベル	とるべき行動	避難の情報	雨の情報	川の情報
5	命を守って!	災害発生	大雨特別警報	氾濫発生
4	全員避難	避難指示(緊急)・避難勧告	土砂災害警戒情報	氾濫危険
3	高齢者など避難	避難準備	大雨・洪水警報	氾濫警戒
2	避難方法確認		大雨・洪水注意報	氾濫注意
1	最新情報に注意		早期注意情報	

レベル4で全員が避難完了する!



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

中野小屋中学校区は、指定年度前から数年間にわたり地域合同防災デーを実施しており、各校とも既に地域と連携した防災教育が自校化されている。

中野小屋中学校では、数年前に新潟市防災教育コンソーシアムの一員である中越防災安全推進機構が実施・提供したプログラムを、さらに学校独自の形に直して継続実施していた。本事業をきっかけに、今後担当が変わっても引継ぎしやすいよう情報を整理し直したり、新たに付け加える物がないか精査したりした。

小瀬小学校では、防災デーにおける3・4年生対象学習に向け地域の消防団の方に声掛けし、構想段階から打合せに参加いただいたことで、防災教育におけるねらいが共有でき、新たな協力者の開拓につながった。

笠木小学校では、防災教育担当者が前任校で本事業の指定を受けており、年度当初から自校化プログラムが完成していたため、年度中に発生した地震や台風などを受けて、適宜情報提供するなどの支援を行った。

<中野小屋中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒51名の小規模校である。明るく素直で心のふれあいを大切にし、まわりと協力しようとする生徒が多い。 ・三世代同居の家庭がほとんどであり、地域のまとまりを堅持し続けている。 ・校区内に西川があり、河川の氾濫等の水害時には、校舎が浸水する危険性がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時には、中学生の役割に期待している地域であるため、「自助」・「共助」や「災害が起きたときの行動の仕方」について考え、行動できるようになってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から防災の意識を持ち、身の回りの危険を考えることができる。 ・自分の命は自分で守るという姿勢を身に付ける。 ・地域の安全に対して、個々で何ができるかを考え、実践できる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施（年2回） ・全体学習 避難所体験ゲーム、ファシリテーション
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 地震時の備えを考える。 ・2年生 津波避難マップ作り ・3年生 避難行動訓練ゲーム ・全体学習の講演会
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の学年別学習では、講師の先生からの資料を保管し、次年度の学習に活かしていく。 ・3年1サイクルとして、全体学習の講演会の内容を考えていく。 ・各学年の指導内容を全職員が把握し、継続して実践できるようにするための校内研修会を実施する。

2. 中野小屋中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		新潟県防災教育プログラム (地震災害編)										
第2学年			避難訓練 (地震想定)									
第3学年					新潟県防災教育プログラム (津波・土砂・洪水災害編)	全校防災学習 避難訓練 (津波想定) 学年別学習		新潟県防災教育プログラム (雪・原子力災害編)				

3. 中野小屋中学校 防災教育指導例

中学校全学年	(学習のねらい) 災害時、学校が避難場所になった場合、自分にどんなサポートができるかを考える ・避難場所での困りごとについて考える
---------------	---

	学習内容 (展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 災害後の暮らしについて</p> <p>① 避難生活中に体調を崩して命を落とすことがあることを押さえる。</p> <p>② 身の安全や衣食住を求めて避難所に人が集まるが、必ずしもそれが満たされるわけではないことを押さえる。</p>	<p>【ポイント】</p> <p>○ 対応にあたる人たちは、手一杯になる。</p> <p>○ さまざま事情を抱えた人たちが一斉に集まり、様々な問題が生まれる。</p>
【展開】	<p>2. 避難所体験ゲーム</p> <p>① 活動の説明と条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月上旬の土曜午前10時に西区で震度7の地震が発生 ・ 沿岸部は津波で浸水したが中野小屋中学校は浸水なし ・ 地震から4時間が経過し、多くに住民が避難してきている。 ・ 電気・ガス・水道は未復旧 <p>② 避難所で起こりうる課題について班の人と話し合い対応方法を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児を連れて来た人 ・ 障害者や外国人が来た人 ・ トイレ・ゴミの問題は ・ 喫煙者が来た人 ・ ペット同伴で来た人 ・ 病気の人 <p>3. 振り返り</p> <p>① 避難所体験ゲームを行って気付いたことや感じたことを書く。</p> <p>② 中学生にできることや期待することについて書く。</p> <p>※付箋を使い、個人で振り返る。</p> <p>個人で振り返った内容を発表しながら用紙に貼りながら共有する。</p>	<p>【ポイント】</p> <p>○ それぞれの課題についてイメージしながら、どう対応していくかを考え、班の人と話し合いながら対応方法を考える。</p> <p>【ポイント】</p> <p>○ 避難所体験ゲームを通して、気付いたことや感じたことを付箋に書く。</p> <p>○ 班の人に意見を聞き、自分の考えとの違いに気付く。</p> <p>○ 気付いたことや感じたことを共有する。</p>

	<p>4. 発表をする</p> <p>① 班で共有したことを全体に発表する。</p>	
【まとめ】	<p>5. まとめ</p> <p>① 過去の被災地での小中学生の様子を見せる。</p> <p>② 日頃の活動すべてが防災につながっている。</p>	<p>【ポイント】</p> <p>○食料の配布，清掃，物の運搬，小さい子の遊び相手など普段の生活で当たり前に行っていることで活躍していた。</p> <p>○災害時は，平常時の延長線上にある。</p> <p>○普段の生活の中で自分ができる事を増やすことも防災につながる。</p>
【評価】	<p>・災害時に学校が避難場所になった場合，自分のできることを考えることができたか。</p> <p>・日頃の活動すべてが防災につながっていることを理解することができたか。</p>	

【授業実践の様子】



【全校学習資料】

これからやること
避難所体験ゲームを通して
災害時の避難所を模擬体験する

↓

目標 (みなさんに感じてもらいたいこと)
学校が避難所になったらどんな状況になるか
イメージがつかめた！
その時に困らないように
普段からできることを始めたい！

受付への問合せ・相談

1. 出張先から急いで帰ってきたんですが
家族はこの避難所に避難していますか？
2. ペットと一緒に避難してきました。
どこか避難出来る場所はありますか？
3. タバコはどこで吸ったらよいのでしょうか？
4. 熱っぽくて、咳も出るんですが、
どこかで薬をもらえたりしますか？
5. 障がい者用のトイレはありますか？

<小瀬小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の少ない地域である。この地域を流れる西川も氾濫の危険性が低いこともあり、防災に対する備えの意識は低い。 ・水田や畑が多い地域なので、考えられる災害は水害になるが、地震・洪水を想定した避難訓練を実施している。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きないことが一番だが、万が一災害が起きたときは、子どもたち・保護者・地域住民が命を落とすことなく無事であることを望む。そのために、日頃から学校と地域が連携して、防災に意識を向けていきたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を通して、あらゆる自然災害は他人事ではなく、自分事として考えられるようになり、日頃から防災に意識をもって生活できるようになってほしい。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>9月28日（土）</p> <p>防災参観日を設定し、①保護者も参加する避難訓練 ②低・中・高学年部に分かれて防災に関する学習活動 ③引き渡し訓練を実施した。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムの実施。 ・避難訓練を、様々な状況を設定して行う。 ・防災参観日を設け、学年部ごとに防災に関わる学習活動を行う。 ・防災参観日に合わせて、児童の引き渡し訓練も実施する。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラム実施計画を作成し、年間指導計画の中に実施期間を設定する。 ・防災参観日の防災に関する学習活動は、学年部の実態に合わせ、外部講師を招いて、実践的な内容を取り入れる。

2. 小瀬小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 第一回避難訓練（火災想定） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 第二回避難訓練（シエイクアウト訓練） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">交通安全教室</div> <div style="text-align: center;"> 県防災プログラムに 基づいた防災教育 （各学級での授業） </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 地域合同防災学習（防災に関する学習活動） 第三回避難訓練（地震・津波想定 引き渡し訓練） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 第四回避難訓練（不審者想定） </div>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

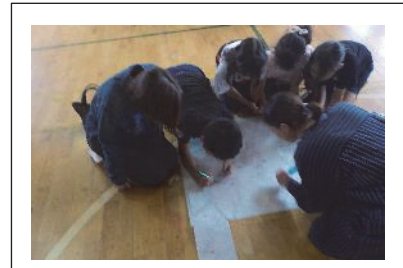
3. 小瀬小学校 防災教育指導例

小学校低学年	<p>(学習のねらい) 地震からの身の守り方(学校内)を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のイラストから地震の危険性について考える。 ・身の守り方(机の下に隠れる)を実践する。
---------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 地震について学習することを学ぶ</p> <p>① 「地震」についてどんなことを知っているかを問い掛け、発表する。</p> <p>② 「学校の地震被害」の写真をモニターで映し、地震の危険性を知る。</p> <p>③ 学校にいる時に地震が起きたらどのように身を守るかを学習することを伝える。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震についてどのようなことを知っていますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気が揺れる。 ・家が壊れる。 <p>【資料201】 学校の地しんひがい</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな地震だと、大きな被害が出ることを理解させる。
【展開】	<p>2. 地震の危険性について知る</p> <p>① ワークシートを配付し、イラストを見て、地震が起きたときに危ないと思うところに○を付ける。</p> <p>② 何人かの児童に○を付けた場所と、その理由を発表させる。</p> <p>3. 地震が起きた時の身の守り方を学ぶ</p> <p>① ワークシートを配付し、最初のイラストと違う点(地震で変化した点)を問い掛け、発表させる。</p> <p>② イラストの中の児童がどういう行動をいているかに注目させ、なぜ机の下に入ったり、グラウンドの中央でしゃがんだりしているのかを問い掛け発表させる。</p> <p>③ 机の下に入る以外に、頭を守る方法はないか、考える。</p>	<p>ワークシート01-1</p> <p>(地震発生前の教室とグラウンドのイラスト)</p> <p>※黒板に拡大した物を貼る。</p> <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこが危ないと思いますか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気が落ちる。 ・ガラスが割れる <p>ワークシート01-2</p> <p>(地震発生後の教室とグラウンドのイラスト)</p> <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは、何をしていますか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐっている。 ・グラウンドの真ん中にいる。 <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下に潜る以外の方法はないですか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子をかぶる。 ・ランドセルで頭をかばう。

【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① 地震が起きたことを想定して、身を守る手段を実践する。</p> <p>② 安全な状態で、放送の指示を聞いてから行動することを理解する。</p> <p>③ 学校にいるときに地震が起きた場合の行動について場所別に振り返って、再確認する。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <p>・今、学校が揺れています。地震です（臨場感をだす）。</p> <p>【ポイント】</p> <p>○ 「地震が起きたときは、安全な場所に避難し頭を守る」ことが大切なことを確認する。</p> <p>○ 「揺れが収まっても余震が起きることもあるので、ゆれが収まってもすぐには動かない」ことを確認する。</p>
【評価】	<p>・学校で地震が起きたときは、机の下に潜ったりグラウンドの中央に避難したりして、身の安全を守ることを理解できたか。</p> <p>・地震によって、大きな被害が起きることもあることを理解できたか。</p> <p>・避難する時は、教職員の指示をしっかりと聞いて避難することが大切だと理解できたか。</p>	

【授業実践の様子】



【スライド資料】



<笠木小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当校は、海岸線からは離れているが、堤防を隔てて西川沿いに位置する。西川の増水による水害が懸念される地域である。 雨量が増えると、増水が見られることもあり、数十年前、学区の住民に自主避難勧告が出されたことがあり、学校内に避難所が設立されたことがあった。 東日本大震災や熊本地震等、身近に教訓となる地震の例もあり、避難訓練時には真剣な取組が見られる。10年以上前から地震・津波に対する避難訓練を実施している。地域の方と共に避難訓練などは行っていない。それ故、地域の方を含めた防災教育が今後も必要であると考えます。 中野小屋中学校区内で地域合同防災デーを行っている。各校で防災に関する事業を実施し、防災に関する意識を高めている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の避難訓練と児童引き渡し訓練が、万が一の時にしっかりと機能するように毎年検討し、改善を図っていく。 地域住民とともに避難訓練を実施することで切実感をもったものにする。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住む地域の様子や危険性について知り、安全な行動に必要な知識を身に付け、主体的に判断しながら「自分の命は自分で守る」ことができる子ども。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通報訓練、避難訓練の実施（全校児童） 親子で防災教育実施 地域・保護者・児童合同避難訓練 児童引き渡し訓練の実施（全校児童）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校における防災だけでなく、各家庭・地域での防災意識を高めることを根底に据えた防災教育プログラムを実施していく。 県の防災教育プログラムの活用を図って、防災の方法や意識を高める。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域合同防災デーにおいて、地域住民や保護者の参加をお願いし、地域と一体となって防災への意識を高めていく。 学習発表会や学習参観など保護者が来校する際に、防災意識を高めるような授業を行ったり、保護者児童が参加できる防災教育を実施したりする。

2. 笠木小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<p>第一回避難訓練（火災想定）</p>	<p>第二回避難訓練（地震、津波想定）</p>	<p>県防災プログラムに 基づいた防災教育 （各学級での授業）</p>	<p>地域合同防災デー（地域保護者合同地震・津波想定避難訓練 防災講習会 引き渡し訓練）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>	<p>第三回避難訓練（不審者想定）</p>
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 笠木小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい) 津波から身を守るために、私たちが日頃から気を付けることを考える ・具体的な避難の方法を考える
--------	--

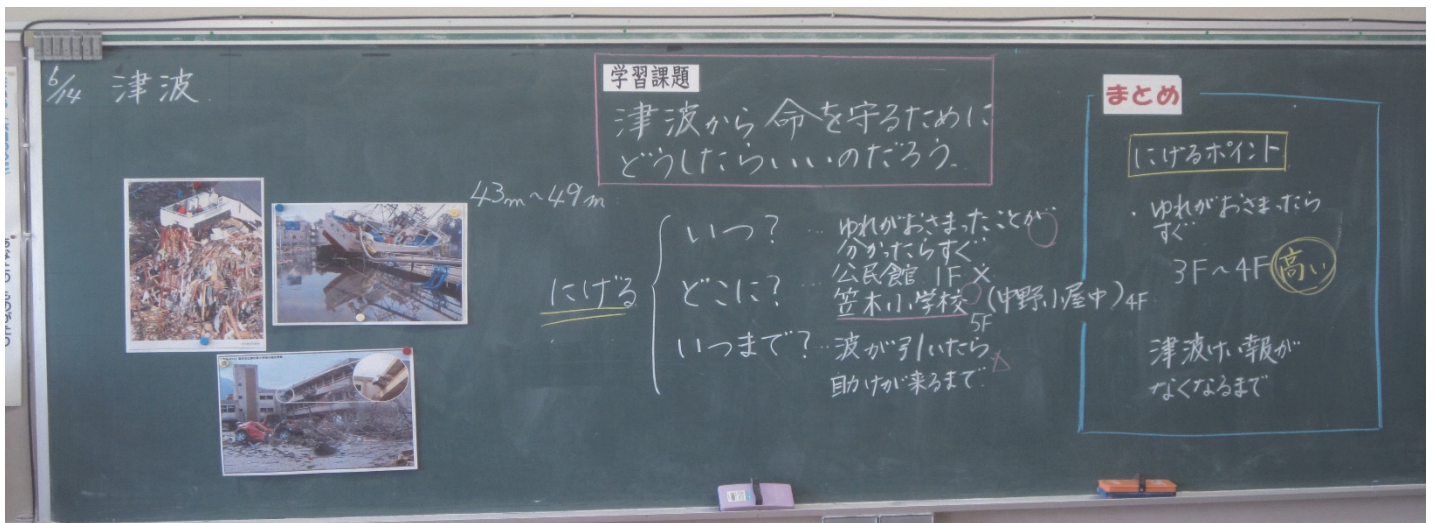
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 津波の被害の写真を見せ、災害の様子について考える</p> <p>① 津波の写真から「どんなことが起きているのか」「人々はどうなったのか」等、災害の様子について話し合う。</p> <p>② 災害が起きた時にどのように行動するのかを考える。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでどのようなことが起きているのでしょうか？ ・君たちなら、どのような行動をとるのでしょうか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波 ・津波で多くのものや人が流された。 ・避難する。・にげる。 <p>【ポイント】</p> <p>○ 災害で起こりうる様々な出来事を話し合う中で、どのように行動するべきかを考えさせる。</p>
【展開】	<p>2. 津波の仕組みと災害の脅威について知る</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">映像資料：津波からにげる 気象庁作成</p> <p>① 東日本大震災の津波の映像を見て、仕組みや被害について理解する。</p> <p>② 新潟地震の映像を見て、過去にあった津波被害について理解する。</p> <p>3. 「いつ」「どこに」「いつまで」の3つの観点で具体的な避難の行動について考える</p> <p>① 避難の仕方として具体的にどのように行動すればよいのか話し合う。</p> <p>② 自分の家の周りや地域の状況を想起しながら避難する方法を考える。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波はどのように起こるのでしょうか？ ・どのような被害があったのかな？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きると津波が発生する。 ・多くの命が失われた。 <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に「いつ」「どこに」「いつまで」行動しますか？ <p>【想定される答え】</p> <p><いつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れが収まったらすぐに ・警報が出たらすぐに <p><どこに></p> <ul style="list-style-type: none"> ・笠木小学校に ・中野小屋中学校 ・高いところ <p><いつまで></p> <ul style="list-style-type: none"> ・波が引くまで ・助けが来るまで <p>【ポイント】</p> <p>○ 避難するための観点を示し、より具体的な避難の方法について考えさせる。</p>

【めい井】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。</p>	<p>ワークシート〇</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的に「いつ」「どこに」「いつまで」避難すればよいのかを確認する。 ○ 「いつでも地震・津波が起きることを想定し、日頃から避難の方法を意識しておく」ことを確認する。
【魚野】	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波の仕組みや歴史を知り、いつでもどこでも起こりうることを、人々にもたらす大きな被害について理解することができたか。 ・自分たちの地域を想起しながら、具体的にどのように避難すればよいのかを理解することができたか。 	

【授業実践の様子】



【板書】



11) 潟東中学校区（西蒲区）

対象校：潟東中学校・潟東小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年5月29日 15:00～16:00 会場：潟東小学校	1. 5/9（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換）
第2回	令和元年9月12日 15:00～16:00 会場：潟東小学校	1. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 2. 継続に向けての不安や課題（意見交換）
第3回	令和元年11月26日 15:00～16:00 会場：潟東小学校	1. 各校の自校化プランについて（情報共有・意見交換）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
潟東中学校 潟東小学校	令和元年 5月29日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
潟東中学校 潟東小学校	令和元年 5月30日	資料提供	学習参観日等を活用して取り組んだ防災学習の事例や避難所運営ゲーム HUG（ハグ）を活用した防災学習計画案等の参考資料を提供した。
潟東中学校	令和元年 6月4日	相談	事業予算の使い方を検討するために、予算内で購入できる防災グッズについて相談を受けた。グッズを取り扱う業者のカタログを区地域総務課経由で手配した。
潟東小学校	令和元年 6月14日	資料提供 相談	7/11（木）に参観日に合わせて実施する3学年対象の防災学習の計画案等を送付した。防災士の役割について相談を受け、新聞紙スリッパづくりのサポートを依頼した。
潟東小学校	令和元年 7月11日	講座	3学年対象の防災学習を実施した。中越大震災の体験談から災害時の避難所について知り、親子で自分にできることを考えたり、新聞紙スリッパづくりを体験したりした。
潟東小学校	令和元年 8月5日	打合せ	11/5（火）に実施する5学年対象の防災学習について、打合せを行った。災害時の避難所を知り、困りごとを解決する方法を考え、防災グッズづくりをしたりしたいとのこと。コンソーシアムで計画案を作成し、後日送付する。
潟東小学校	令和元年 8月22日	資料提供	11/5（火）に実施する5学年対象の防災学習の計画案等を作成し、送付した。
潟東小学校	令和元年 11月15日	資料提供	5学年対象の防災学習を実施した。避難所の困り事を知り、解決策を考えた後、新聞紙でコップづくりとダンボール椅子づくりを体験した。

【5/29 潟東中学校区ミーティングの様子】



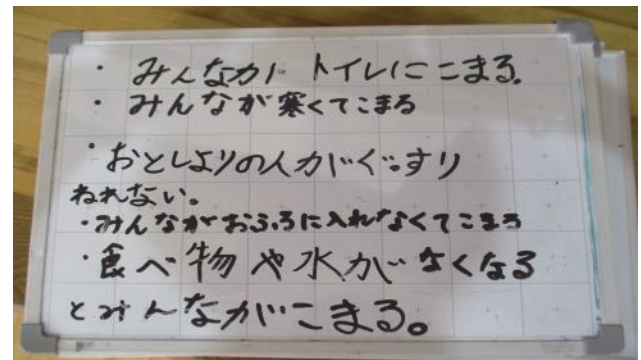
【7/11 潟東小学校 防災講座の様子】



【7/11 潟東小学校 防災講座の様子】



【11/5 潟東小学校 防災講座の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

潟東中学校区では、継続可能な地域・家庭と連携した防災教育の検討を進めた。

小学校は、対象学年の発達段階を踏まえた学習内容を検討し、参観日等を活用した親子で体験的に学べる防災学習に取り組んだ。

中学校は、各学年で災害から命を守った後や、避難所生活で中学生にできることを考えたり、体験したりする防災学習に取り組んだ。

いずれの活動も学校だけで取り組むのではなく、防災士や行政、地域団体等と連携して活動を行い、その取り組みを発信することで、活動の継続性と地域全体の防災意識を高める機会を目指した。

また、地域教育コーディネーターが自身のネットワークを生かして、今後活動の継続を支えるサポーターや団体等とのつながりを深めていた。

<潟東中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、まじめに学校生活に取り組み、落ち着いた教育活動が行われている。小学校から定期的に避難訓練を行ってきており、防災の基本的な知識はもっているが、地域で大きな災害の発生がなく、災害を自分のこととして捉えている生徒が少ない。 ・学校立地周辺は農業に従事している家庭が多く、農家特有の広い造りの家が多い。自治活動は盛んで、地域ごとの防災訓練や、地元運動会での消火活動を想定したバケツリレーの競技が行われている。 ・地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震のときには、強い揺れや液状化の可能性がある。津波による浸水は想定されていないが、大河津分水路、新川、大通川流域の洪水では地区全域での浸水の可能性がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携することによって、災害発生時に中学生のできる役割を進んで担い、地域に貢献する意欲や態度・能力を育てたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より防災に対する意識をもち行動できる生徒 ・災害時に、周囲の状況を判断し率先して安全を確保するための行動をとることができる生徒 ・災害発生時において、避難や復興活動の支援ができるように、一人一人がどんなことができるかを考え、実践できる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所活動体験 5月 ・AEDの講習 6月 ・避難所運営体験学習 7月 ・避難訓練 6月（地震） 11月（火災）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校3年間を通して、災害発生時に中学生としてできる知識を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> 1年次 過去の災害時の避難所の様子や課題を学習し、災害に理解を深め、仮想した避難所の運営を行う。 2年次 人命救助の方法の1つとして、胸骨圧迫とAED操作の講習を受ける。 3年次 避難場所で必要なプライベート空間を段ボールで作る、アルファ米を使用した炊飯活動を行う。 ・年2回の避難訓練の実施 6月（地震） 11月（火災）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自校プランの年間指導計画への位置付け ・地域教育コーディネーターとの連携 ・地域在住の防災士や女性消防団、西蒲消防署、西蒲区役所からの協力 ・小学校との連携

2. 潟東中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			地震を想定した避難訓練	避難所運営体験学習				火災を想定した避難訓練				
第2学年				A E D 講習								
第3学年		避難場所活動体験										

3. 湯東中学校 防災教育指導例

中学校全学年		(学習のねらい) 地域と連携することによって、災害発生時に中学生のできる役割をすすんで担い、地域に貢献する意欲や態度・能力を育てる
学習内容		資料や学習のポイント等
第一学年	<p>1. 避難所運営体験学習の実施</p> <p>① ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営ゲーム HUG (ハグ) の体験を通して、災害時の避難所運営の知識を習得し、中学生として避難所で何ができるのかを考える。 <p>② 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 過去の災害時の避難所の様子や課題の学習 2) 避難所運営ゲーム HUG (ハグ) の実施 3) ゲームの体験を振り返り、気づきを共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態は4～5名のグループとし、隊長、副隊長、隊員、書記の役割を決める。 ・進行役が読み上げる避難者カードとイベントカードを聞き漏らさないように留意する。 ・避難者カードは、避難所の地図を使用してどこに避難させるかを決めて、その場所にカードを置く。 ・イベントカードの場合は、どのように対応するかをグループで検討する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えた避難所での対応が、実際の避難所ではどのように対応したのかを伝え、必ずしも正解があるのものではないことを伝える。
第二学年	<p>2. AED 講習の実施</p> <p>① ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署員からの講義や指導を通して、緊急時の人命救助について中学生のできることをすすんで担い、社会に貢献する意欲や態度を育てる。 <p>② 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) DVD により胸骨圧迫の方法及び AED の使用方法について学習 2) 胸骨圧迫の実践 3) AED の使い方の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態は3～4名のグループとし、被験者(ダミー人形)に対応する人、救急隊に連絡する人、AED を用意する人の役割を決める。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸骨圧迫では、声をしっかり出すことを意識して、胸骨圧迫を行う。 ・当校では、どこに AED が設置されているか確認する。
第三学年	<p>3. 避難場所活動体験の実施</p> <p>① ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災士からの講義や体験活動を通して、災害避難時に非難場所で中学生ができることを学ぶことで、地域防災に貢献できる生徒を育てる。 <p>② 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 防災士の講話 2) 段ボールを使った更衣室、ベッド、トイレ作り 3) アルファ米の炊飯体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態は、学年を4つのグループに分け実施する。(段ボールを使用したの更衣室作り・ベッド作り・トイレ作り、アルファ米の炊飯体験) ・段ボール及びアルファ米については、西蒲区地域総務課からの支援による。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールの更衣室、ベッド、トイレを作るときには、「早く、丁寧に」を意識して、グループで協力しながら作成する。

今回の取組を通して

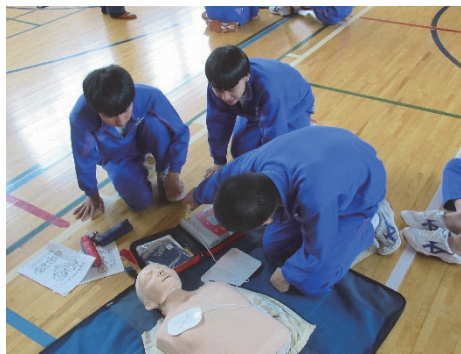
- ・当校では、1年次「避難場所運営体験学習」、2年次「AEDの講習」、3年次「避難場所活動体験」を実施した。この取組により、中学校3年間で防災の知識を習得し、災害発生時に中学生として何ができるのか考え、地域に貢献する意欲や態度・能力を育むことができた。自校化につながる有効な取組であった。
- ・上記した3つの取組は、地域在住の防災士、西蒲消防署の署員、湯東地区女性消防団ひまわり隊の皆さん、西蒲区地域総務課の皆さん、そして地域教育コーディネーターの協力で行うことができた。あらためて、生徒は地域の皆さんの温かい支援をいただき、地域との連携を通じて、育っていることを実感した。
- ・今後の課題として、当校は「小中一貫パイロット校」の指定を受け、令和3年度より、現在当校隣接地に建設中の湯東小学校とともに教育活動が行われる。したがって、合計9年間を見通して各学年に応じた防災教育や、協働した取組を計画することが重要と考える。そのことにより、児童・生徒は、より一層、防災に対する知識を深め、地域に貢献する意欲や態度・能力を育むことができると期待する。

【活動の様子】

1年生 避難所運営体験学習



2年生 AED講習



3年生 避難場所活動体験



<潟東小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当校は、全校児童約250名の学校であり、平成28年度に3つの学校が統合され、新設された学校である。 地区の大部分が軟らかい地盤上に分布しているため、大きい地震の時には強い揺れや液状化の可能性がある。また、校区が広く、地域によっては、津波による浸水が想定されている。 標高が低く、多数の河川の洪水によって浸水の可能性があり、特に大河津分水路、新川、大通川地域の洪水では地区全域で浸水の可能性はある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当校は、地震、洪水、津波時の避難所に指定されている。災害発生時には、自分の身を守るための行動を取るだけでなく、避難所ではサポートする側として、発達段階に応じて主体的に行動することを期待している。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害について理解し、日頃から災害に備えて危機意識を持って行動する児童 災害発生時には、危険を予測し、自らの安全を確保するための行動を取る児童 避難所で起きる様々な問題を学び、自分たちに何ができるかを考え、実際の場面で主体的に行動しようとする児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 親子で「防災ポケットメモ」を作成し、災害時の取るべき行動を考えた。（1年生 親子防災教室） 中越沖地震の写真や体験談から、地震発生時の様子や避難所での困ったことについて知り、親子で防災グッズ作りを体験した。自分たちにできることを考えた。（3年生 親子防災教室） 避難所で起こり得る困りごとを知り、自分たちにもできることを考えたり、身近なもので防災グッズを作ったりした。（5年生 防災教室） 避難訓練 3回（全校）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教室を1，3，5年生で実施する。 地震，火災を想定した避難訓練を年3回実施する。 非常放送訓練を年3回実施する。 防火シャッターや防火扉について講習を行い，校内で避難時に取るべき行動について学ぶ。（1年生）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教室を実施した後，学習した内容を記録し，翌年度の実践につなげる。 避難訓練実施後は振り返りを行い，翌年度の実践につなげる。

2. 潟東小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	防火シャッター, 防火扉について学ぼう(1年)	第一回避難訓練 火災対応 第一回非常放送訓練	第二回避難訓練 新潟市一斉地震対応訓練									
第2学年												
第3学年												
第4学年				親子 防災教室								
第5学年								親子 防災教室				
第6学年												

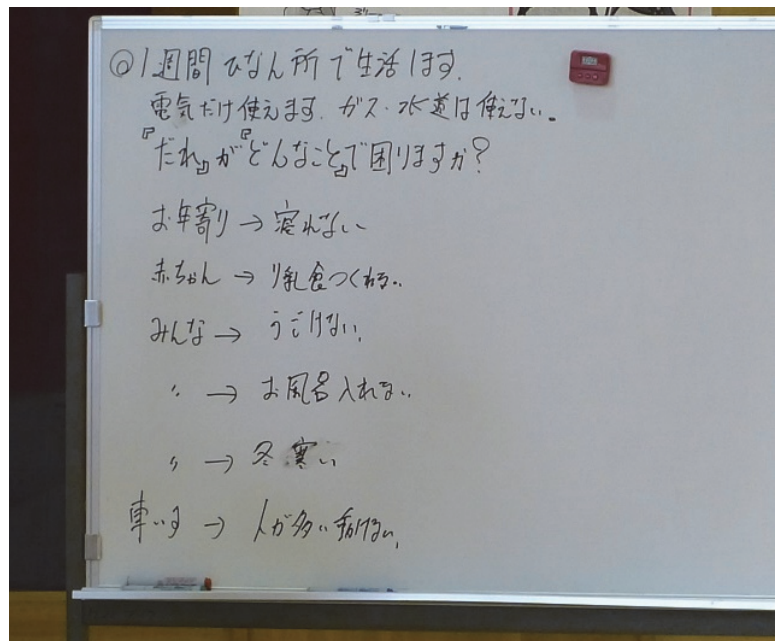
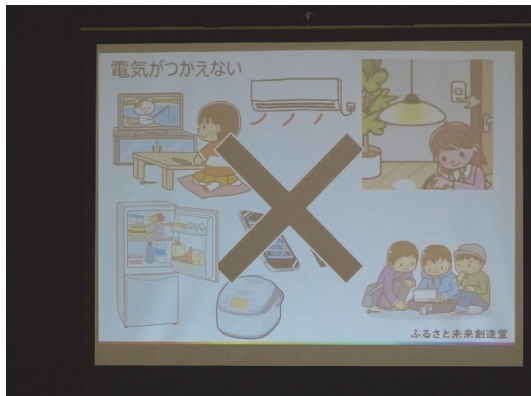
3. 潟東小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい) 避難所で起こり得る困りごとを知り、自分たちにもできることを、実践しようとする意欲をもつ
--------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 避難所について実際の避難所の写真を見て、避難所における様子や困りごとを知る</p> <p>① 新潟地震, 中越沖地震, 東日本大震災の避難所の写真から, 避難所では, 「多くの人たちが, そしてお年寄りや小さな子どもなど様々な事情をもった人たちが集まり, 生活しなければいけない」ことを押さえる。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潟東小学校も避難所になっていることを押さえる。
【展開】	<p>2. 避難所での困りごとを解決する方法をグループで考える</p> <p>① グループごとに, 避難所で起こり得る困りごとを考え, ホワイトボードに書く。</p> <p>② 学習のねらい「避難所での困りごとを解決するために, 自分たちにも何かできるのだろうか。」を押さえる。</p> <p>3. 災害時の避難所で行っていた解決策を紹介し, 身近なものを工夫した防災グッズ作りを体験する</p> <p>① 飲み物はあるが, コップがないときにはどうすればよいか。→新聞紙でコップを作って飲む。</p> <p>② 足腰の弱いお年寄りが床に座れないが, どうすればよいか。→段ボールで椅子を作って座る。</p> <p>4. 災害時の避難所で実際に活躍していた小学生の事例を紹介する</p> <p>① 次の点を押さえる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第一に自分の命を自分で守ること。 2) 助かった後は, 皆で協力して助け合うこと。 3) 災害はいつ起こるか誰にも分からない。普段から家庭で話し合ったり, 準備をしたりしておくこと。 	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一週間避難所で生活します。電気だけ使えます。(ガス, 水道は使えない。) 誰が, どんなことで困りますか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年寄り→眠れない。 ・赤ちゃん→離乳食が作れない。 ・みんな→風呂には入れない。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で簡単に手に入るものを使って防災グッズを作ることができることを押さえる。 ・いざというときに, 工夫次第で少しでも避難所での困りごとを解決する方法があることを押さえる。 <p>【用意しておくもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙 ・アイラップ ・段ボール(2リットルペットボトル) ・はさみ ・布ガムテープ <p>書籍「ファイト新聞」の紹介</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の映像「避難所での出来事を新聞に書いて掲示する。」「避難所の掃除をする。」「ラジオ体操をする。」などを紹介し, 小学生が率先して活動することにより, 避難所の人たちを笑顔にしたり, 元気にしたりすることができたことを紹介し, いざというときには, 自分たちもできることをしようという意欲をもたせる。

【準備】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「授業の感想」などを書き、発表する。</p>	<p>【資料】ワークシート</p> <p>【児童の記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習で、避難所はとても狭くて大変なことがわかりました。もし、避難所で暮らすことになったら、自分たちでできることを考えて、避難所にいる人たちを元気づけて笑顔にしたり、困っている人がいたら手伝ってあげたりしたいです。
【質疑】	<ul style="list-style-type: none"> 写真や映像から、避難所の困りごとを考えることができたか。 身近なものを使って防災グッズを作れることが理解できたか。 いざというときに自分たちにもできることを実践しようとする意欲をもつことができたか。 	

【授業実践の様子】



12) 巻西中学校区（西蒲区）

対象校：巻西中学校・越前小学校・松野尾小学校・巻北小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	令和元年7月2日 15:30～16:30 会場：巻西中学校	1. 5/9（木）研修会の振り返り 2. 今後、各校で進めていく防災教育について（意見交換） 3. 今、不安や課題として感じていること（意見交換）
第2回	令和元年9月26日 15:30～16:30 会場：巻西中学校	1. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有・意見交換）
第3回	令和元年12月3日 15:30～16:30 会場：巻西中学校	1. 各校の自校化プランについて（情報共有） 2. 継続に向けての不安や課題（意見交換）

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
巻西中学校 越前小学校 松野尾小学校 巻北小学校	令和元年 7月2日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）及び小・中学校と家庭・地域が連携した防災訓練や防災学習事例の計画資料等を提供した。
越前小学校	令和元年 9月11日	相談	10/27（日）に文化祭を予定しており、40～50分くらいで親子防災教室（家庭の備えを考える）を実施したいと考えている。講師を紹介してほしいとの依頼を受けた。
越前小学校	令和元年 9月19日	コーディネート	10/27（日）の親子防災教室の講師として、WWA（ワーキング・ウイメンズ・アソシエーション）を調整した。学校に紹介し、以降は講師と学校とで調整を進める。
松野尾小学校	令和元年 9月26日	打合せ	11/16（土）に予定している地域合同防災訓練の活動内容や講師調整等について打合せを行った。外部講師の選定及び学年別の活動案を提案する。
松野尾小学校	令和元年 10月4日	コーディネート 資料提供	11/16（土）の地域合同防災訓練の講師の調整連絡及び学年別学習の計画案等を送付した。全体講話を新潟大学 教授 卜部厚志先生、学年別の講座はコンソーシアムと防災士3名でサポートする。全体講話の内容については、講師と学校とで調整を進める。学年別講座は後日学校にて担当教諭と打合せを行う。
巻西中学校	令和元年 10月7日	打合せ 資料提供 コーディネート	区づくり事業「西蒲区防災キャンプ事業」と組み合わせて実施する11/21（木）に実施する地域と連携した防災学習について打合せを実施した。全校生徒を対象に、火災からの身の守り方に関する講話後、避難所体験・毛布担架の作成と搬送体験・心肺蘇生法の体験を行う。 当日の計画案等を作成し、送付した。 講師の調整を地域総務課とコンソーシアムとで行った。

松野尾小学校	令和元年 11月13日	打合せ	11/16(土)の地域合同防災訓練に向けた打合せに防災士と参加した。当日の流れや役割分担、会場・機材について確認を行った。
松野尾小学校	令和元年 11月16日	講座	地域合同防災訓練にて、防災士と1・2学年は防災グッズづくりの体験、3・4学年は避難所生活の体験談から困りごとを知り、自分にできることを考える学習を実施した。
巻西中学校	令和元年 11月21日	講座	全校生徒を対象に、防災士・応急手当指導員・普及員と火災からの身の守り方に関する講話、避難所体験・毛布担架の作成と搬送体験・心肺蘇生法の体験を実施した。

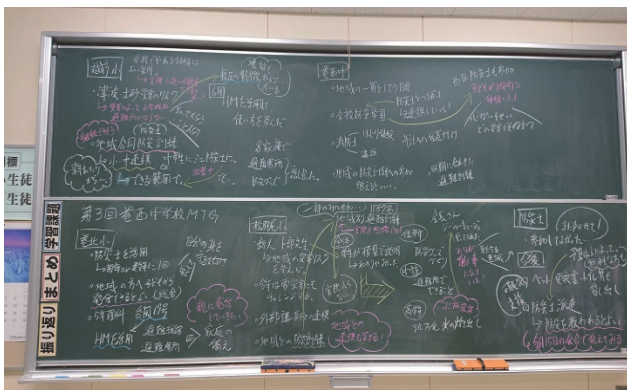
【7/2 巻西中学校区ミーティングの様子】



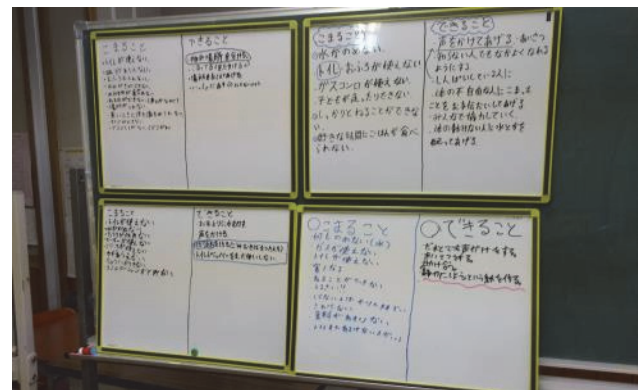
【9/26 巻西中学校区ミーティングの様子】



【12/3 巻西中学校区ミーティングの記録】



【11/16 松野尾小学校 防災講座の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

巻西中学校区では、地域の災害特性を考慮し、地域に根差した防災教育の検討を進めた。

小学校は、既存の教科を工夫して台風・洪水災害をより深く学んだ学校、全校登山や文化祭等の既存行事を工夫し、家族ぐるみで防災学習に取り組んだ学校、地域合同防災訓練に参加し、児童を各地区の住民と一緒に避難する体験と発達段階に応じた防災学習に取り組んだ学校もあった。

中学校は、災害から命を守った後や避難所生活で中学生にできることについて、様々な大人とかかわる体験活動を通じて考える防災学習に取り組んだ。

いずれの活動も学校だけで取り組むのではなく、専門家、防災士、応急手当指導員・普及員、コミ協、自治会、PTA、地域団体、行政等と連携した活動を行い、継続可能な防災教育の在り方を模索した。

<巻西中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は巻北小学校，松野尾小学校，越前小学校の3校区から通学している。それぞれの地域は，地形的・地理的な特徴が異なり，各地域で主に想定する災害についても違いがある。（角田山周辺部は土砂災害，越前浜地域では津波，巻市街地では火災や浸水など） 各小学校区で，地域の防災訓練を行っている。また，当校を会場として，自主避難訓練を行っている自治会がある。しかし，部活動や定期テストの関係で生徒の参加状況は不十分である。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学生には，地域住民の一人である自覚をもって地域の防災訓練等に参加してほしい。 防災訓練等では，小学生のリーダー役やボランティア役を担ってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自助共助の意識の醸成。災害時に自己の安全を確保した上で，家族や地域のために何ができるか考え，行動に移すことができる。地域の一員としての役割を自覚し，主体的に活躍することができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の避難訓練の実施（6月，12月） 「全校防災学習」の実施（11月） <ul style="list-style-type: none"> ①心肺蘇生法の体験 ②毛布担架の作成と搬送体験 ③避難所体験 前期避難訓練後，消防士の方を招いた防災（地震）に関する講話と西蒲区地域総務課の協力のもと，濃煙テント体験の実施（全校） 後期避難訓練後，西蒲消防署消防士の方から防災（火災）に関する映像資料の提供と講話
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の避難訓練の実施 心肺蘇生法の体験（1年），濃煙テント体験（2年），校区のハザードマップを活用した防災学習（3年） 各自治体の防災訓練への参加と振り返りの実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度お世話になった防災士の方との繋がりを深め，防災に関する講話や体験活動の補助をお願いする。 地域教育コーディネーターと連携し，地域の避難訓練に中学生も参加できるように，日程調整を働きかけてもらう。地域に任せきりにせず，中学生として貢献できることを考えた上で参加，実践していく。 総合的な学習の時間の年間計画に，防災教育を位置付け，計画的かつ継続的に実施していく。

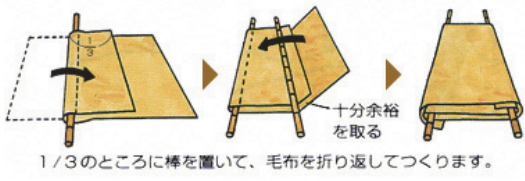
2. 卷西中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

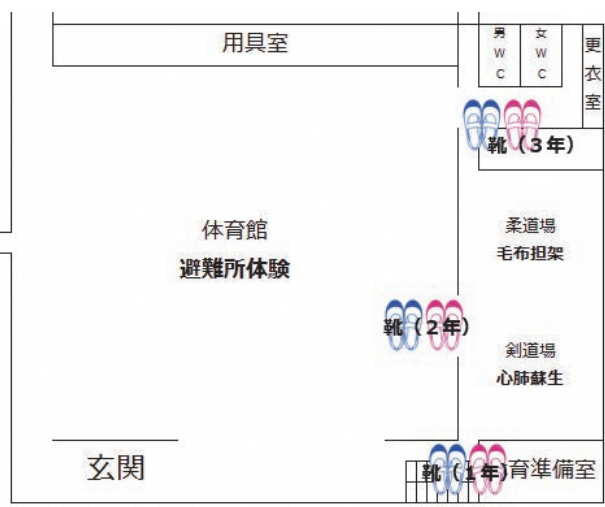
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

前期避難訓練（地震想定）	消防士講話と濃煙テント体験	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法の体験 毛布担架作成と運搬体験 避難所体験 	全校防災学習	後期避難訓練（火災想定）	消防士講話と映像資料による防災学習
--------------	---------------	--	--------	--------------	-------------------

3. 巻西中学校 防災教育指導例

中学校全学年 (全校防災教室)	(学習のねらい) 生徒一人一人の防災意識と、地域の一員としての自覚を高めるきっかけを作る
--------------------	--

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	<p>1. 活動全体の説明</p> <p>① 冬場の火の取り扱いに関する注意、火災が発生した時の避難方法の確認。</p> <p>② 火災の他、大きな災害の発生時、地域内の様々な施設が避難所になることの確認。</p> <p>③ これから行う3つの体験活動の内容や流れを説明。学年別でローテーションしながら体験していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒 330 名が体育館で説明を聞いてから、各体験場所に移動する。 【前日や当日の動き】 ・前日のうちに、西蒲区地域総務課の方に胸骨圧迫用の人形や避難所体験の段ボール等を学校に搬入して頂いたおかげで、当日の準備を滞りなく行うことができた。 ・参加して頂く防災士の方には、事前に駐車場などの会場連絡を送付し、当日の朝、役割分担を確認した。
【毛布担架】	<p>2. 怪我人や病人を運ぶための簡易担架を毛布で作成し、実際に持ち上げる体験を行う</p>  <p>十分余裕を取る</p>	<p>【準備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛布担架セット(毛布1枚・持ち手の棒2本)×12セット(区地域総務課から借用) <p>【指導者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと未来創造堂、西蒲区防災士3名
【心肺蘇生法体験】	<p>3. 人形と講師を囲むように丸くなり、講師から倒れている人を見つけた時の対応やポイントを教わったのち、胸骨圧迫を絶え間なく行う体験をする</p> 	<p>【準備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生訓練用人形18体(西蒲消防署から借用12台体験用、2台講師実演用、4台予備) <p>【指導者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区防災士、応急手当指導員・普及員6名
【避難所体験】	<p>4. 実際の避難所で使用される防災用品に触れたり、実際に横になってみたりして、避難所での様子や家庭の備えを学ぶ</p> 	<p>【準備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールベッド、段ボールパーテーション、段ボールトイレ、更衣室兼授乳室(区地域総務課から借用) ・展示用防災グッズ(ふるさと未来創造堂から借用) ・長机2台 <p>【指導者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと未来創造堂、西蒲区防災士2名、西蒲区地域総務課職員1名

【振り返り】	<p>5. 個人で活動を振り返り，プリントに記入したのち，記入内容を体験した班で共有する</p> <p>① 災害発生時に，地域の一員として私にできること ② 大きな災害に備えて，今日から私が心掛けること</p>	
【その他】	<p>【会場割り当て】</p> <p>① 毛布担架作成と搬送体験（武道場） ② 心肺蘇生法（剣道場） ③ 避難所体験（体育館）</p> 	<p>【体験の流れ】</p> <p>1年生</p> <p>① 毛布担架（10:00-10:25） ② 心肺蘇生（10:30-10:55） ③ 避難所体験（11:00-11:25）</p> <hr/> <p>2年生</p> <p>① 心肺蘇生（10:00-10:25） ② 避難所体験（10:30-10:55） ③ 毛布担架（11:00-11:25）</p> <hr/> <p>3年生</p> <p>① 避難所体験（10:00-10:25） ② 毛布担架（10:30-10:55） ③ 心肺蘇生（11:00-11:25）</p>

【全校防災教室の様子】



<越前小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当校は、児童数50名前後の小規模校である。地域は、越前浜地区と角田浜地区の2つの地区で成り立っている（学区としては、五ヶ浜地区もあるが、令和元年度現在、在籍児童はいない）。 ・学区は、海岸沿いに位置する場所では、津波の心配がある。また、山沿いの地域は、土砂災害の心配がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の命は自分で守る（自助）」ために、情報収集能力や判断力を身に付け行動できるようになってほしい。 ・学校と地域が連携しながら、子どもたちの防災意識を高めたい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高め、身の回りの危険を考えることができる。 ・「自分の命は自分で守る」ために、危険を察知し、安全を確保するための方法を考え、行動できる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内避難訓練の実施（4月・9月・11月） ・地域合同防災訓練（6月） ・全校角田山登山 トイレテント体験（9月） ・親子防災教室（10月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内避難訓練の実施 ・地域合同防災訓練 （中学生がミニ防災士として参加できる組織づくりを検討中） ・全校角田山登山 トイレテント体験 ・避難訓練時の防災教育プログラムの授業実践
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携（今後、小中一貫）事業として、中学校区で防災訓練の情報交換や連携 ・角田地区コミュニティ協議会と連携した地域合同防災訓練の継続的な実施 ・避難訓練と新潟県防災教育プログラムを関連付けた、授業を組織

2. 越前小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<div data-bbox="395 1877 1326 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第一回避難訓練（地震想定） 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】の活用 </div> <div data-bbox="395 1599 1326 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地域合同防災訓練・引渡訓練 </div> <div data-bbox="395 1485 1326 1568" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 新潟県防災教育プログラム【津波災害編】の活用 </div> <div data-bbox="395 1151 1326 1292" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第二回避難訓練（不審者想定） 新潟県防災教育プログラム【土砂災害編】の活用 </div> <div data-bbox="395 987 1326 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】の活用 </div> <div data-bbox="395 860 1326 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第三回避難訓練（火災想定） </div> <div data-bbox="395 651 1326 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 新潟県防災教育プログラム【雪災害編】の活用 </div> <div data-bbox="395 344 1326 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 新潟県防災教育プログラム【原子力災害編】の活用 </div>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 越前小学校 防災教育指導例

小学校全学年
(地域合同
防災訓練)

(学習のねらい) 地域の人たちと合同で防災訓練をすることを通して、基本的な防災の知識や技能を身に付けたり、地域の方との関わりをもったりする

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【地域合同避難体験】	<p>1. 地域の人たちと一緒に、避難所(体育館)に避難する</p> <p>① 災害発生の時間や場所、災害の種類によって、避難の仕方が変わることを押さえる。</p> <p>② 避難所を運営する方々や防災士の方の名前を知る。</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな地震が起こった時に避難する場所はどこでしょうか。(津波注意報が出た時は?大雨が降って土砂崩れが起きそうな時は?) <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 越前小学校に避難するとよいと思います。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害によって避難場所が違うことを確認する。 津波・洪水は越前小学校 土砂崩れは越前小ではなく、角田地区コミュニティセンター
【訓練体験】	<p>2. 災害時に必要な方法を体験する</p> <p>① 縦割り班で、協力しながら訓練を体験する。体験毎の指導者は地域の防災士の方なので、指導していただきながら関わりをもつことも押さえる。</p> <p>1) 初期消火訓練 2) 心肺蘇生法 3) トイレテント設営・段ボールベッド組立て 4) 水運搬訓練</p>	<p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消火器は、どんな手順で使うのかな? AEDは、どうやって使うのかな? トイレテントや段ボールベッドを使うためには、どんな手順が必要なのかな? 人間1人が1日に必要な水はどれくらいかな? <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> よくわからない。 ・去年もやったからわかる。
【親子防災教室】	<p>3. ハザードマップを使って、避難の仕方を家族で考える</p> <p>① ハザードマップの見方について、防災士から家族単位で講習を受ける。</p> <p>② ハザードマップを見ながら、家族で避難場所や避難方法について話し合う。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こりえる」ことを確認する。 「日頃から家族で防災や避難方法について話題にする」ことを確認する。

【引き渡し訓練】	<p>4. 引き渡し訓練</p> <p>① 今年度の引き渡し訓練時の避難カードを確認しながら、引き渡し訓練を行う。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き渡す際に、名前を確認すること。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちに積極的に話したり、協力したりして、多くの人とかかわることができたか。 ・災害時に必要な方法を知り、実際体験することができたか。 ・ハザードマップから自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・家族とハザードマップで避難場所や避難方法について話し合い、確認することができたか。 	

【地域合同防災訓練の様子】

<水消火器体験>



<心肺蘇生法>



<段ボールベッド組立て>



<トイレテント設営>



<水運搬訓練>



<親子防災教室>



<引き渡し訓練>



<松野尾小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松野尾地区の南部は軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には強い揺れの可能性ある。地区北部の砂丘では、強い揺れや液状化の可能性は低い。 ・津波の浸水は想定されていない。 ・大河津分水路の洪水及び新川、大通川流域の洪水によって、地区東側の低地で浸水の可能性がある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、状況を適切に判断して安全な行動がとれるようになってほしい。 ・災害発生時には、保護者や地域住民、学校職員等の指示に従って迅速に避難し自分の命を守ることを最優先してほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関心をもち、災害を防ぐための知識や技能を身に付ける子ども ・災害時には、家族や友達、地域の人々と協力して危険を回避したり、他の人の役に立つ行動をとったりすることができる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急及び災害時児童引き渡し訓練 ・学校・地域合同防災訓練 <p>自宅からの避難、避難所開設訓練、大学教授による防災講演会、防災ワークショップ授業（低・中・高）、炊き出し食実食、防災学習のふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災想定避難訓練(新潟市西蒲消防署指導あり)
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練実施（火災、地震・洪水、不審者対応） ・全学年で新潟県防災教育プログラムを活用した防災学習を年1回以上実施 ・4学年総合的な学習「オリジナル防災マップを作ろう」 ・5学年理科「流れる水のはたらき」 ・6学年家庭科「防災食を利用したクッキング」 ・その他、学年の教科に関連した指導内容 ・学校・地域合同防災訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、総合的な学習の時間と関連した防災学習を継続するとともに、他の学年についても教育計画を見直して、全学年で系統的な防災教育になるよう改善を行う。 ・防災士、消防署員など外部人材と連携し、質の高い防災学習を実践していく。 ・学校と地域の合同防災訓練を年1回実施し、改善を加えながらより実践的、効果的な訓練を行う。学校職員も地域とのつながりをもち、意思の疎通を図る。

2. 松野尾小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<p>第一回避難訓練（火災）・児童引き渡し訓練</p> <p>第二回避難訓練（不審者）</p> <p>学校・地域合同防災訓練（地震・洪水）</p> <p>新潟県防災教育プログラム【雪災害編】</p>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												
第1学年			体験型 安全教室			生活科「もともと ちをしりたいね」						
第2学年			生活科「大好き わたしのまち」									
第3学年			社会科「わたし たちの町と市」									
第4学年						社会科「安全なくら しとまちづくり」				総合「オリジ ナル防災マッ プを作ろう」		
第5学年							理科「流れる水 のはたらき」					保健「簡単な手 当ができるよ うになろう」
第6学年							理科「大地のつ くりと変化」			家庭科「防災 食を利用した クッキング」		

3. 松野尾小学校 防災教育指導

小学校全学年	(学習のねらい)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と地域住民が合同で避難訓練を行い、防災意識を高める ・災害に伴う危険を理解し、安全確保をするための行動ができるようにする

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【自宅から避難】	<p>1. 地域住民と共に避難行動を行う</p> <p>① 朝8時、地震発生の知らせとともに地区ごとの1次避難所へ集合する（全9地区）。</p> <p>② 各地区の集合場所で人員確認を行った後、2次避難所の松野尾小学校へ移動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団が地区を巡回し、地震発生のアナウンスを行い、地域住民の避難を促す。 ・各地区の自治会役員が先導し、児童と共に移動する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童には、事前に各地区の1次避難場所や同じ場所に集まるメンバーを知らせる。 ・学校職員も各地区に1名ずつ赴き、児童の確認や避難誘導の補助を行う。
【避難所開設】	<p>2. 学校に避難し、避難者としての行動を知る</p> <p>① 学校で3つの広域地域に分かれ、避難者カードを作成する。</p> <p>② 次の指示があるまで、その場で待機する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の準備した避難者カードに、避難者情報を記入する。低・中学年は、高学年や地域住民が聞き取りをしながら代わりにカードを記入する。
【防災講演会】	<p>3. 防災講演を聞く</p> <p>演題「松野尾地区の地震による災害を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震のときに起こること ・地域の近くに活断層があり、備えが必要であること ・地震が起きたときに自分の身を守る方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学災害・復興科学研究所 ト部 厚志 教授による講演 ・地域住民、保護者、児童、学校職員計187名が受講
【防災ワークショップ】	<p>4. 防災ワークショップ（授業）を行う</p> <p>【低学年】「避難所で役立つ防災グッズ作り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋を使ったポンチョ作り ・新聞紙を使った食器、スリッパ作り <p>【中学年】「防災シミュレーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所生活の困りごとを知り、解決策を考えよう <p>【高学年】「避難所での炊き出し訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、中学生ボランティアと共に、アルファ化米と非常用パックカレーを使った災害非常食作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのワークショップに防災士またはNPOから講義やサポートを受ける。 ・炊き出し用の食材は、自治会に備蓄していた物を利用する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に防災士やNPOとの授業打合わせを行い、担任との役割分担や、準備品、時間配分などを相談する。 ・中学校にボランティア派遣の依頼を行い、小学生と共に訓練に参加してもらう。また、保護者にも一緒に参加してもらうようお願いをする。

【非常災害食実食】	<p>5. 災害非常食を実食する</p> <p>① 高学年を中心にして準備した非常食を全校児童，地域住民と共に実食する。</p> <p>② 新潟市防災マスコットキャラクター「ジージョ」と「キョージョ」を紹介する。</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所での食事を想定して体育館に全員が集まり，簡易容器に盛り付けたものを高学年児童が手渡す。 ・自分の命を守る「自助」，共に助け合う「共助」について考えるきっかけをもたせるため，マスコットを登場させる。
【振り返り】	<p>6. 学習の振り返りをする</p> <p>① 各学級で，今日の防災学習について学んだことや，災害が起きたときに自分ができることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・防災学習部がワークシートを作成する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分の身を守る方法を理解させるだけではなく，災害後も地域住民と共に命を守り抜くために，小学生なりにできることを考えさせる。
【評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震（災害）発生の際に，地域住民と共に安全に避難する場所や移動の仕方が分かったか。 ・大地震（災害）発生の際に，自分の身を守る方法（姿勢，危険な場所へ近付かないことなど）が分かったか。 ・避難所（生活）における自分の役割や自分にできることを，考えたり実践したりすることができたか。 	

【授業実践の様子】



児童の振り返り例（自分にできること）

- ・じしんがきたら、「ダンゴムシ」になって自分のあたまをまもる。ひなんじょでスリッパをつくってあげる。（低学年）
- ・ひなんじょでできることは「体の不自由な人やお年よりを助ける」「小さい子と遊んであげる」ことです。（中学年）
- ・地震に備えて保存食を用意する。子どもでも非常食作りができたので，地域の人と協力して手助けをする。（高学年）

<巻北小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の東部から中部は軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。地区西部の山地では、強い揺れや液状化の可能性は低いが、揺れに伴う崖崩れの危険性がある。 ・信濃川下流の洪水，中ノ口川の洪水，矢川の洪水，大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水では地区東部の広い範囲で浸水の可能性がある。西部の山地には，土砂災害警戒区域等が分布しており，大雨時には，崖崩れや土石流の危険がある。 ・児童は，地域における大地震・洪水ともに未経験であり，自分事として捉えられていない。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の身は自分で守る」という自助の考えの下，災害に対する備えや災害時の対応を行ってほしい。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け，災害時には危険を自ら察知し，率先して安全を確保するための行動ができる。 ・災害及び被害の特徴，発生メカニズム，地域の自然環境，災害防災についての基本的な事項を理解している。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への引き渡し訓練 ・地震を想定した訓練，防災士による講話 ・集団下校訓練 ・火災対応訓練
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士による講話を，定期的開催して児童の危機意識の向上を図る。 ・中・高学年において，教科横断的な視点から教育活動の編制を行い，教育課程全体を通して，効果的な指導を行う。 ・地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，地域住民に対する広報活動を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師への謝礼を確保する。 ・「ふるさと新潟防災学習」を各学年の単元配当表へ位置付ける。 ・PDCAサイクルを確立し，計画・実施・評価を通して常に改善を図る。

2. 卷北小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子どもの体験型安全教室</p> </div>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ベル訓練 ・ 保護者への引き渡し訓練</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震 ・ 津波に関する防災教育 地震 ・ 津波を想定した訓練 ※防災士による講話</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈生活科〉町探検 校区内の子ども 110番の場所確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>交通安全教室</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>集団下校訓練</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>不審者を想定した訓練 ※警察署員による講話・実演</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>社会科「町の様子」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈総合〉 「考えよう！地域の安全」 ハザードマップを基に危険箇所について考え、自分の身の守り方を学ぶ。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈理科〉流れる水のはたらき</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈総合〉 「発信しよう！地域の安全」 ハザードマップの改訂と地域住民への呼び掛け</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>理科「大地のつくりと変化」</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>火災対応訓練</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈社会〉自然災害と共に生きる</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈社会〉わたしたちの暮らしを支える政治</p> </div>		

3. 巻北小学校 防災教育指導例

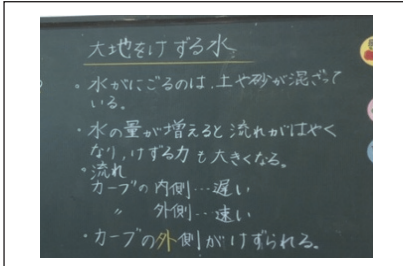
小学校高学年	(学習のねらい) 自然の力の大きさを知り、命を守るために事前に備えておくべきことについて考える
--------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 流れる水の量による川の様子の変化を見て、自然の力の大きさを知る ① 最近の災害時の写真や新聞記事、動画ニュースを基に感想を述べ合う。	【想定される答え】 ・家や学校が、水没したり流されたりしていてとても怖いと思った。 ・どうやったら身を守れるのか不安だな。
【展開】	2. 地域の洪水の危険性を知る ① 洪水ハザードマップを基に、校区内の地域の洪水の危険性や避難場所について話し合う。 ② 校区内が洪水の危険性が高まったときに、どのように自分の身を守ればよいかを考える。	【想定される答え】 ・ぼくの家は、浸水3mの範囲に入っている。 ・わたしの地域は、急傾斜地の近くだから、土石流の危険性があるよ。 【資料】洪水ハザードマップ 【想定される答え】 ・どこへ逃げると安全かな。 ・この道は、浸水する地域に入っているから、こっちの道を通して避難の方が安全だよ。
	3. 事前に備えておくべきことについて考える ① 日頃からどんな準備をしておくべきかを考える。 1) 「 <u>非常持ち出し品に必要な物</u> 」 2) 「 <u>地域の避難場所や避難経路の確認</u> 」	【想定される答え】 ・非常持ち出し品には非常食が必要だな。 ・懐中電灯があった方がいいね。 ・避難経路が一つだと心配だから、複数の避難経路を考えておく必要があると思う。
【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「振り返り」などを書かせて、発表させる	【資料】ワークシート 【想定される答え】 ・備えが必要なことが分かったから、さっそく家族と相談したい。 ・〇〇さんの「複数の避難経路を考えておく」という意見を聞いて、自分もその必要性について考えることができた。 【ポイント】 ・「 <u>ハザードマップは目安であって、それ以上の災害も起こりえる</u> 」ことを確認する。 ・事前の準備と心構えで、自分の身を守れることをおさえ、不安を強く感じている児童へ配慮する。

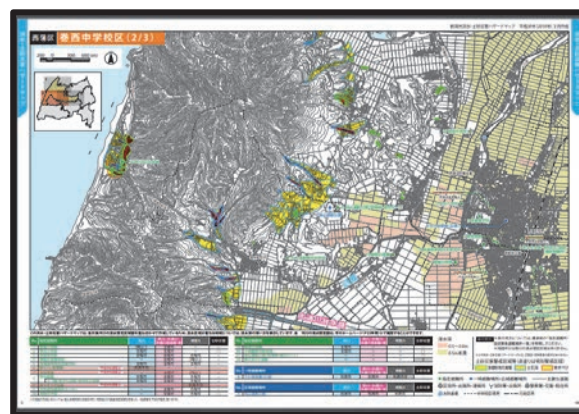
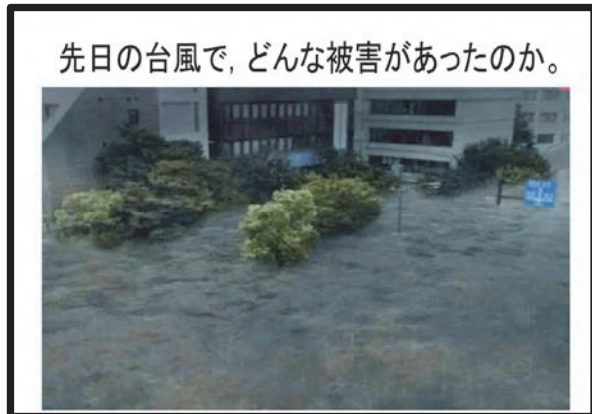
【評価】

- ・ハザードマップから自宅周辺や学校周辺など，地域の洪水の危険性を理解している。
- ・どのように自分の身を守ればよいかについて理解している。
- ・非常用持ち出し品や避難場所等，事前に準備しておく必要性を理解している。

【授業実践の様子】



【スライド資料等】



「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(令和元年度指定校)

令和2年2月

新潟市教育委員会

制作：新潟市防災教育コンソーシアム

- ・公益社団法人 中越防災安全推進機構
- ・特定非営利活動法人 ふるさと未来創造堂
- ・特定非営利活動法人 にいがた災害ボランティアネットワーク



令和2年2月 新潟市教育委員会